

三重県民意識調査

「三重のくにつくりー万人アンケート」

報 告 書

平成12年11月

三 重 県

目 次

	本文	
・ 調査のあらまし	1	
1. 調査の概要	3	
(1) 調査の目的	3	
(2) 調査の内容	3	
(3) 調査の設計	3	
(4) 調査地域区分と標本数	4	
2. 回収の結果	4	
3. 集計における回収数の補正	5	
4. 調査回答者の属性	5	
・ 調査結果	7	集計資料
1. 三重県の住みやすさについての評価	9	(1)
(1) 全体及び男女別	9	
(2) 年代別	10	
(3) 生活創造圏別	11	
(4) 県外在住の経験別	12	
(5) 居住環境別	13	
(6) 生活創造圏・県外在住経験別	14	
2. 県行政の各分野の取り組みについての重要度・満足度	16	(2~)
(1) 重要度に関する結果の概要	18	(2)
(2) 満足度に関する結果の概要	20	(3)
(3) 生活創造圏別の重要度・満足度の概要	22	
(4) 個別項目ごとの満足度(年代別、生活創造圏別)	33	(49~)
3. 今後の県政に関する質問	78	(94)
4. 広報・広聴活動への関心	79	
(1) 知りたい県政情報	79	(95)
(2) 県の事業・施策の情報源	81	(96)
(3) 今後充実を図るべき情報提供の方法	82	(97)
(4) 「県政だより」の役立ち度	83	(98)
(5) 県の広聴姿勢への評価	85	(99)
(6) 住民参画の推進に必要な取り組み	87	(100)
(7) 住民参画の取り組みが必要な分野	88	(101)
5. 各設問の「その他」回答での記入内容	89	

■ 集計資料

■ 調査票

調査のあらし

I. 調査のあらまし

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

平成9年11月に策定した県の総合計画「三重のくにづくり宣言」に掲げた施策を着実に推進するため、県行政の各分野に対する県民満足度等の把握を目的として調査を実施した。

(2) 調査の内容

調査の目的に合わせて、総合計画に掲げた施策の内容にできるだけ合致するように質問項目を設定し、それぞれについての県民から見た重要度や満足度を尋ねる設問（問2）を中心にした。そのほか今後の県政に関する質問や県の広報・広聴活動への関心に関する質問を設定した。問1、問2は、前回調査（平成10年11月実施）と同じ質問を行い、その経年変化を考察した。

三重県の住みやすさについての評価（問1）

県行政の各分野の取り組みについての重要度、満足度（問2）

今後の県政に関する質問（問3）

広報・広聴活動への関心（問4～問10）

(3) 調査の設計

調査地域	三重県全域
調査対象	県内居住の20歳以上の男女
標本数	10,000人
抽出方法	無作為抽出法 (9つの生活創造圏ごとに原則として1,111サンプルを配分し、各圏域内の市町村別に選挙人名簿登録者数の比率によってサンプル数を割り当てた。さらに各市町村においては選挙人名簿を使用して等間隔無作為抽出法によって対象者を抽出した。)
調査方法	郵送法 ・ 県総合企画局企画課および受託機関の連名による郵送 ・ はがきによる督促1回 ・ 受託機関宛返送
調査時期	平成12年7月～8月

(4) 調査地域区分と標本数

総合計画「三重のくにづくり宣言」に基づく9つの生活創造圏を単位とした調査地域区分と標本数を表-1に示す。

表-1 調査地域区分と標本数

生活創造圏	市 町 村 名	圏別抽出数
桑名・員弁	桑名市、多度町、長島町、木曾岬町、北勢町、員弁町、大安町、東員町、藤原町	1,111
四日市	四日市市、菰野町、楠町、朝日町、川越町	1,112
鈴鹿・亀山	鈴鹿市、亀山市、関町	1,111
伊賀	上野市、名張市、伊賀町、島ヶ原村、阿山町、大山田村、青山町	1,111
津・久居	津市、久居市、河芸町、芸濃町、美里村、安濃町、香良洲町、一志町、白山町、嬉野町、美杉村	1,111
松阪・紀勢	松阪市、三雲町、飯南町、飯高町、多気町、明和町、大台町、勢和村、宮川村、大宮町、紀勢町、大内山村	1,111
伊勢志摩	伊勢市、鳥羽市、玉城町、二見町、小俣町、南勢町、南島町、御園村、度会町、浜島町、大王町、志摩町、阿児町、磯部町	1,111
尾鷲	尾鷲市、紀伊長島町、海山町	1,111
熊野	熊野市、御浜町、紀宝町、紀和町、鵜殿村	1,111
合 計		10,000

注) 総合計画「三重のくにづくり宣言」では、各生活創造圏の境界を明確にしていないが、市町村別の標本抽出のため、便宜上、表-1のように市町村単位で各生活創造圏に区分した。

2. 回収の結果

標本数	10,000 人 (100.0%)	実回収総数	4,564 人 (45.6%)	
		有効回収数	4,503 人 (45.0%)	
		無効数	61 人 (0.6%)	回答不備等

3. 集計における回収数の補正

調査対象の抽出にあたっては、各生活創造圏ごとの分析検討を行う際に統計上意味のあるデータが得られる限度を考慮して、9つの生活創造圏の母集団（選挙人名簿登録者数）の大小に関わらず、1,111人ずつ（四日市生活創造圏は1,112人）のサンプル数を割り当てた。

しかし、県全体の集計分析を回収実数のまま行くと、母集団の小さい圏域の調査結果が全体の結果に反映しすぎることになる。

そこで、圏域別の回収構成比を各圏域の母集団数構成比に近づけるため、平成12年6月現在の選挙人名簿登録者数の最も少ない熊野生活創造圏を1.00として、次の補正値を乗じて補正回収数とした。

表－2 補正回収数の算出

生活創造圏	標本数	回収数	補正値	補正回収数	構成比(%)
桑名・員弁	1,111	525	4.46	2,340	11.7%
四日市	1,112	482	7.47	3,599	18.0%
鈴鹿・亀山	1,111	483	4.82	2,327	11.7%
伊賀	1,111	534	3.89	2,076	10.4%
津・久居	1,111	554	6.45	3,575	17.9%
松阪・紀勢	1,111	528	4.53	2,393	12.0%
伊勢志摩	1,111	476	5.71	2,718	13.6%
尾鷲	1,111	452	1.04	470	2.4%
熊野	1,111	469	1.00	469	2.3%
圏域合計	10,000	4,503	-	19,967	100.0%

4. 調査回答者の属性

回答者の属性別の補正回収数は以下のとおりである。

表－3 年代別補正回収数

年代	補正回収数	構成比%
20歳代	2,137	10.7
30歳代	2,222	11.1
40歳代	3,570	17.9
50歳代	4,946	24.8
60歳代	3,875	19.4
70歳以上	3,013	15.1
無回答	204	1.0
全体	19,967	100.0

表－4 性別補正回収数

性別	補正回収数	構成比%
男性	9,951	49.8
女性	9,749	48.8
無回答	267	1.3
全体	19,967	100.0

表－5 同居家族別補正回収数(複数回答)

同居家族	補正回収数	構成比%
乳幼児	2,217	11.1
小中学生	3,959	19.8
高校・大学生	4,055	20.3
65歳以上の方	10,124	50.7
無回答	5,798	29.0
全 体	26,153	131.0

表－6 県外在住経験別補正回収数

県外在住経験	補正回収数	構成比%
ない	10,584	53.0
ある(5年未満)	3,921	19.6
ある(5年以上)	5,149	25.8
無回答	313	1.6
全 体	19,967	100.0

表－7 居住環境別補正回収数

居住環境	補正回収数	構成比%
市街地・住宅団地地域	10,536	52.8
農村(山村・漁村)地域	9,174	45.9
無回答	257	1.3
全 体	19,967	100.0

表－8 従事職業の産業・業種別補正回収数

従事職業の産業・業種	補正回収数	構成比%
農林漁業	1,577	7.9
製造業	4,135	20.7
商業・金融・サービス業	5,657	28.3
建設・不動産業	1,534	7.7
医療・福祉関係	1,076	5.4
教育・保育関係	1,203	6.0
その他	1,736	8.7
無職	2,509	12.6
無回答	540	2.7
全 体	19,967	100.0

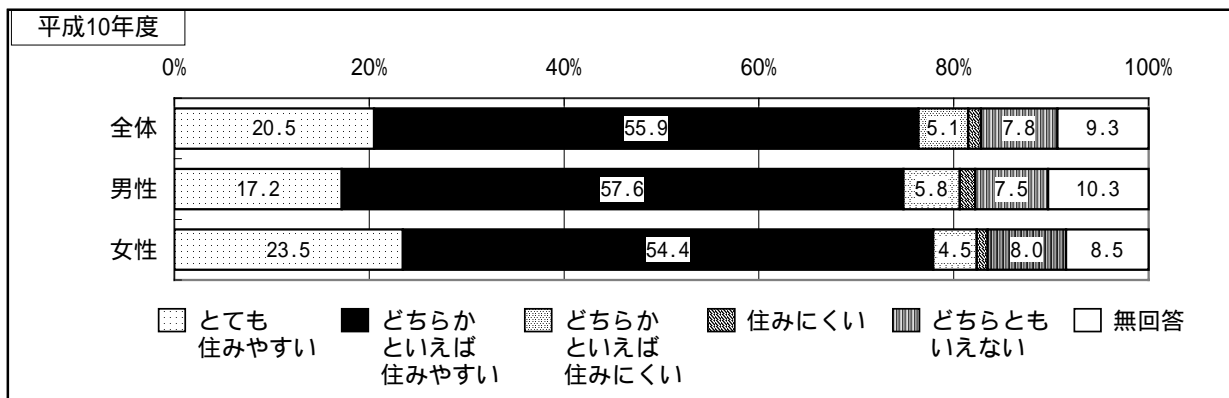
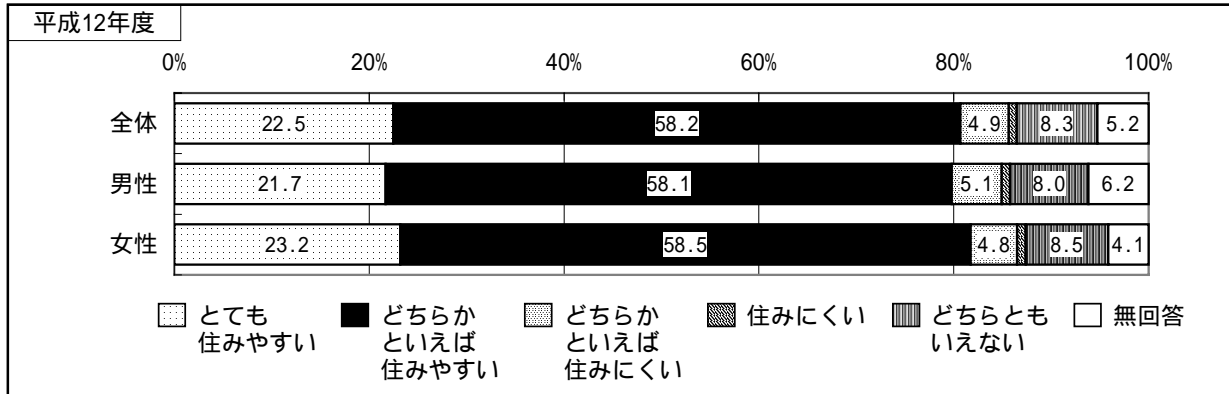
調查結果

II. 調査結果

1. 三重県の住みやすさについての評価

問1 三重県は全体的にみて住みやすい県だと思いますか。

(1) 全体及び男女別



〔平成12年度〕

全体の22.5%が「とても住みやすい」と答えており、「どちらかといえば住みやすい」と合わせると80.7%が住みやすいと答えている。

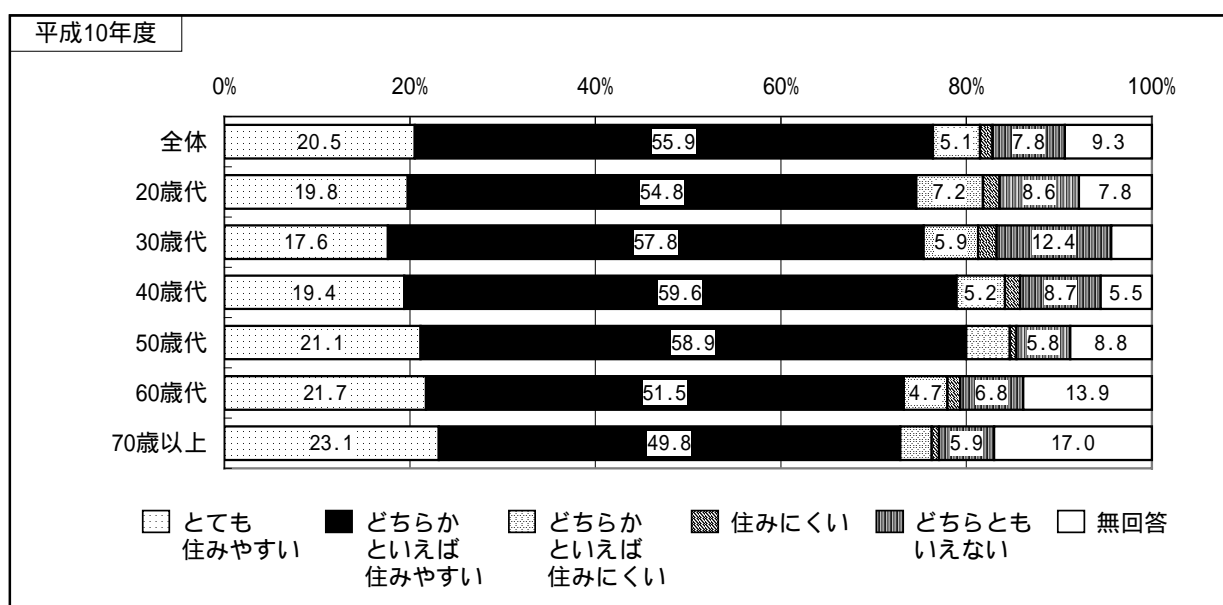
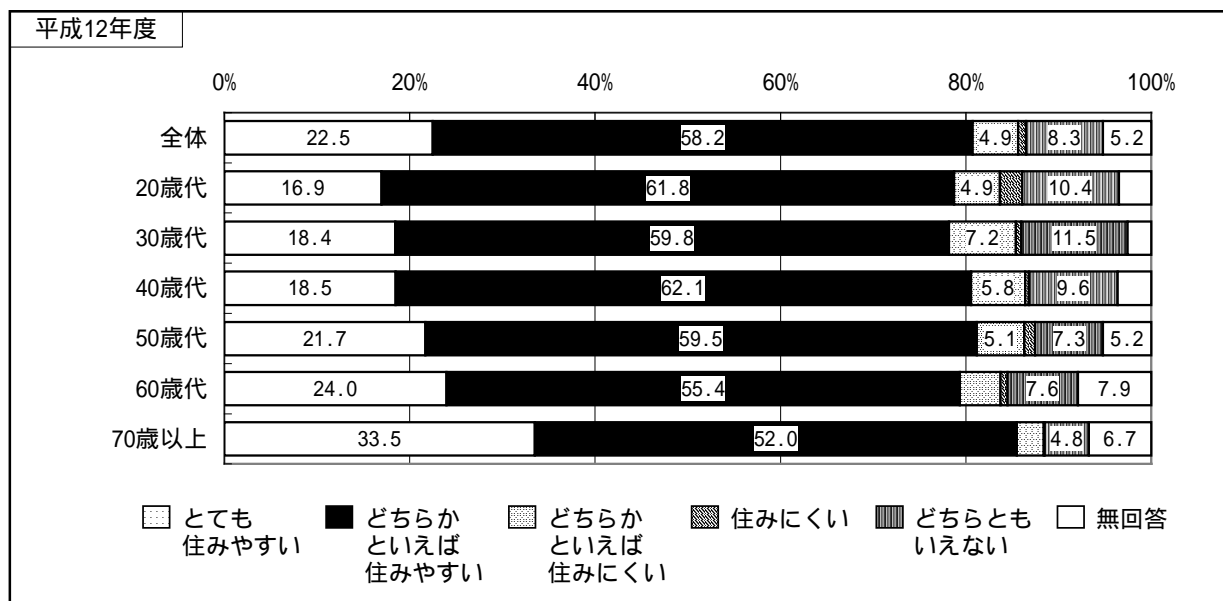
「とても住みやすい」とする回答率は、女性が23.2%、男性が21.7%であり、ほとんど差はみられない。また、「とても住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」の合計も、女性が81.7%、男性が79.8%であり大きな差はみられない。

〔平成10年度との比較〕

全体で「とても住みやすい」が2.0ポイント、「どちらかといえば住みやすい」が2.3ポイント増加し、「どちらかといえば住みにくい」が0.2ポイント、「住みにくい」が0.5ポイント減少している。

「とても住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせた回答は、男女共に増加している。

(2) 年代別



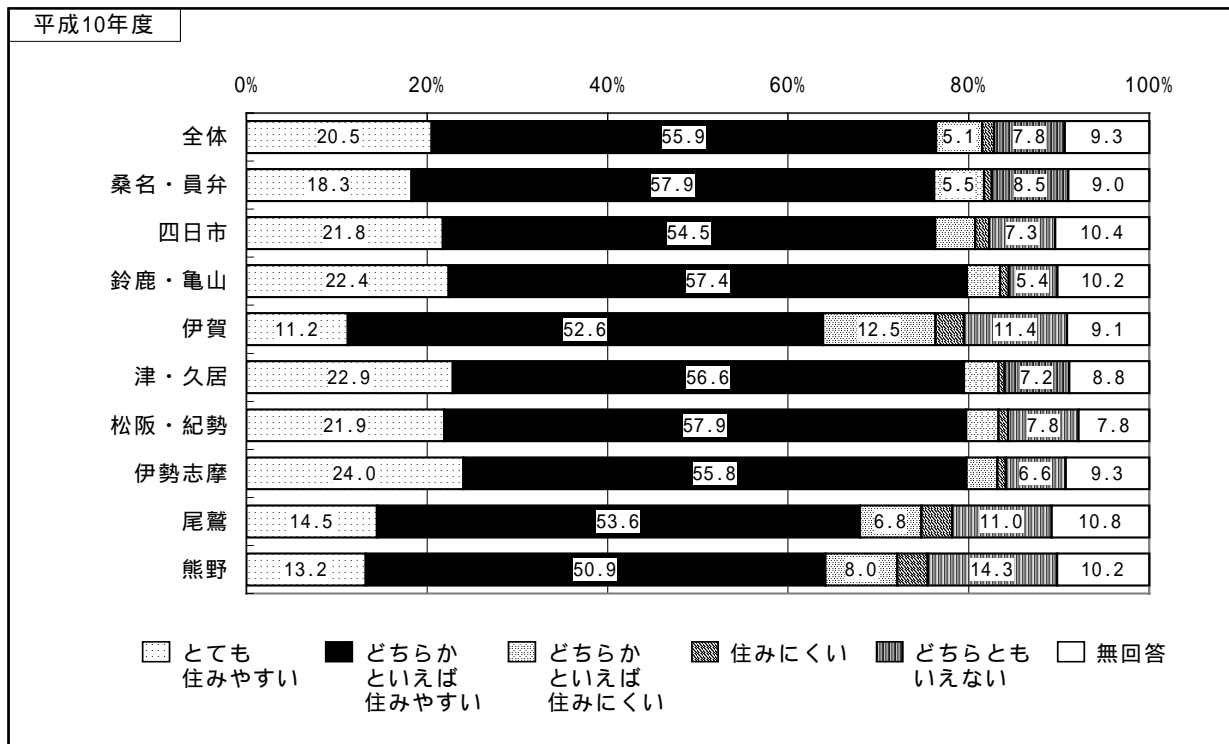
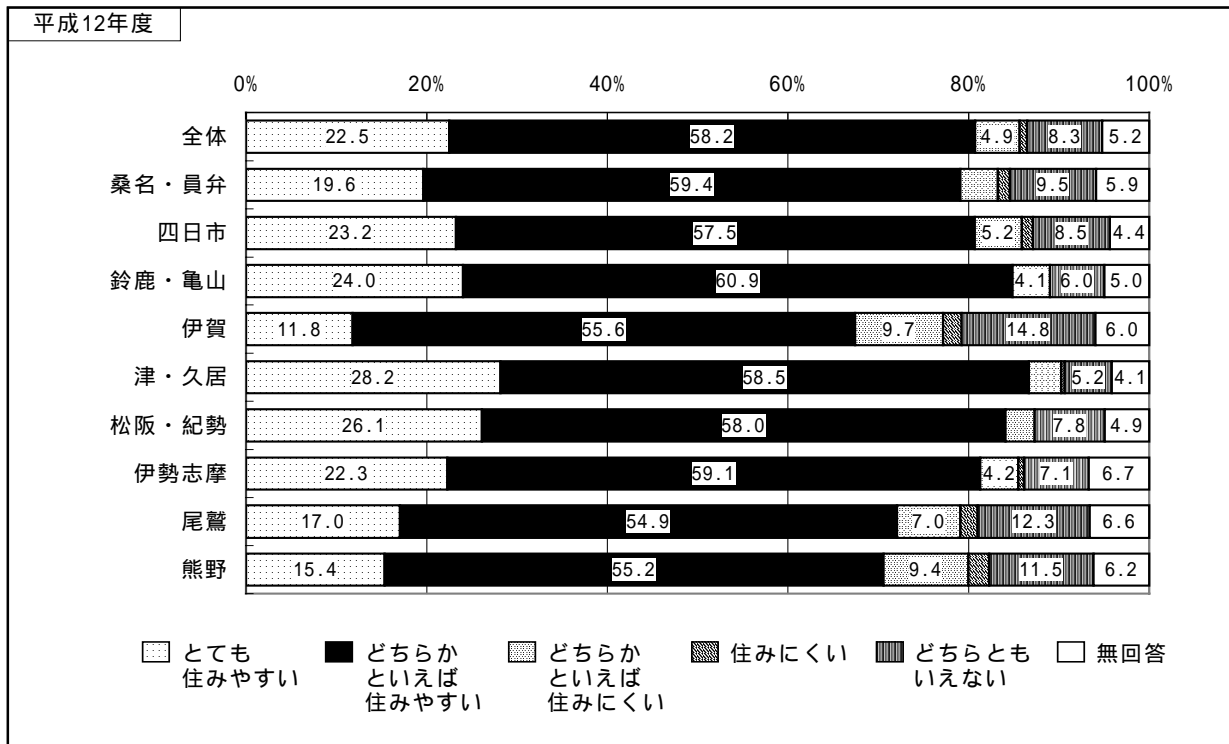
〔平成12年度〕

「とても住みやすい」と答えた人の割合は、年代が上がるに従って高くなっており、特に70歳以上は、33.5%と高くなっている。

〔平成10年度との比較〕

「とても住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」を合わせた回答は、すべての年代で増加している。

(3) 生活創造圏別



〔平成12年度〕

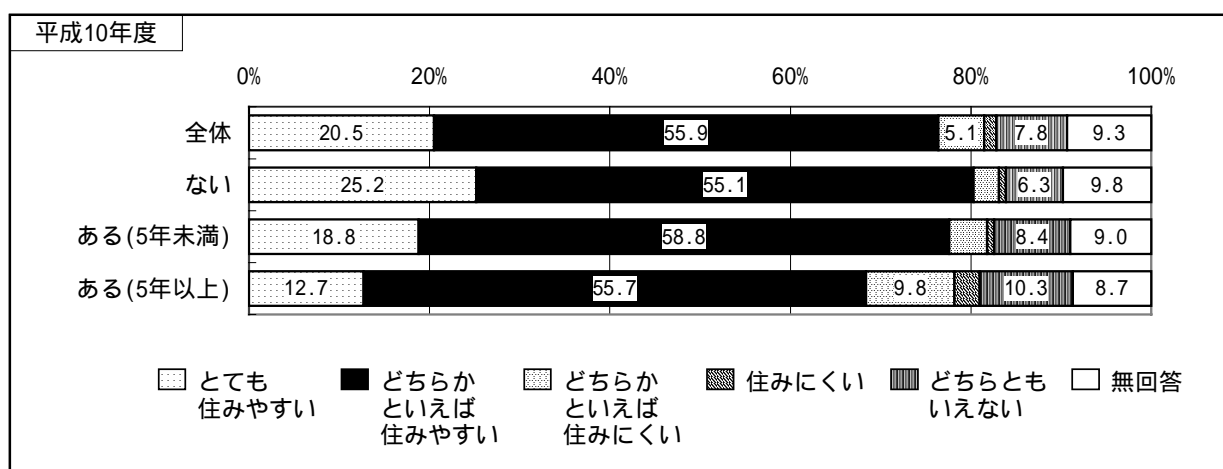
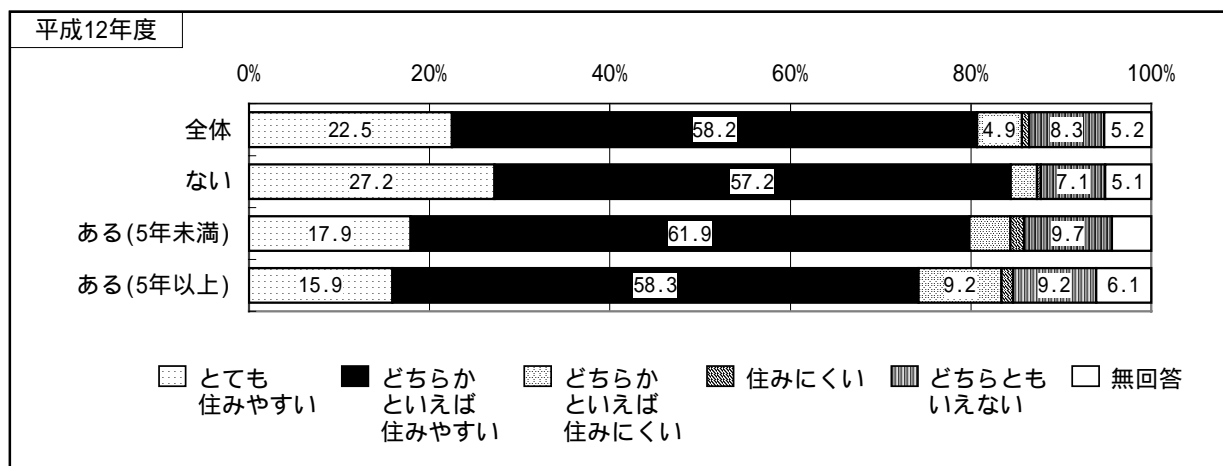
「とても住みやすい」の回答率は、津・久居（28.2%）松阪・紀勢（26.1%）鈴鹿・亀山（24.0%）四日市（23.2%）の順で高くなっている。

一方、伊賀（11.8%）が最も低く、次いで熊野（15.4%）尾鷲（17.0%）が低くなっている。

〔平成10年度との比較〕

「とても住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」を合わせた回答は、すべての生活創造圏で増加している。

(4) 県外在住の経験別



〔平成12年度〕

県外在住の経験別では、「とても住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」を合わせた回答は県外在住経験の「ある人」の方が「ない人」よりも低い。

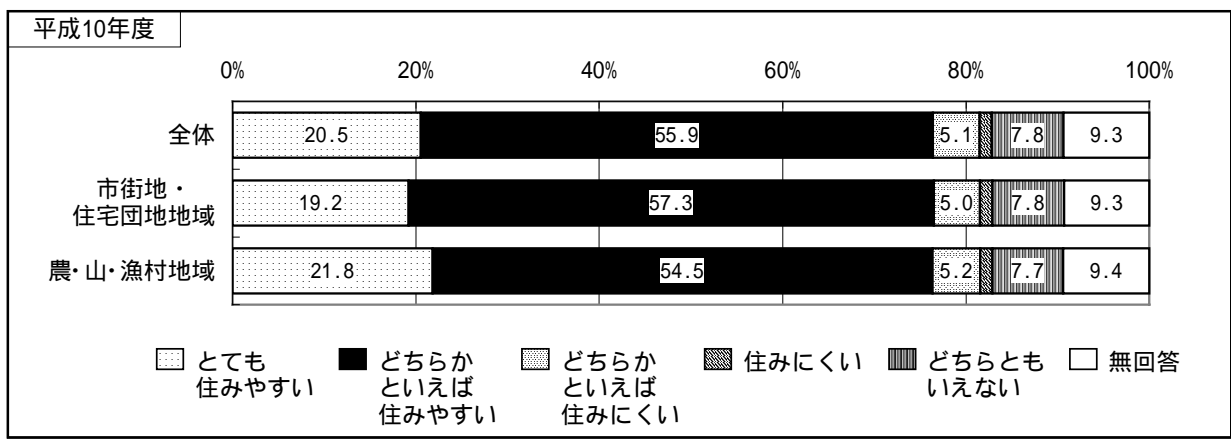
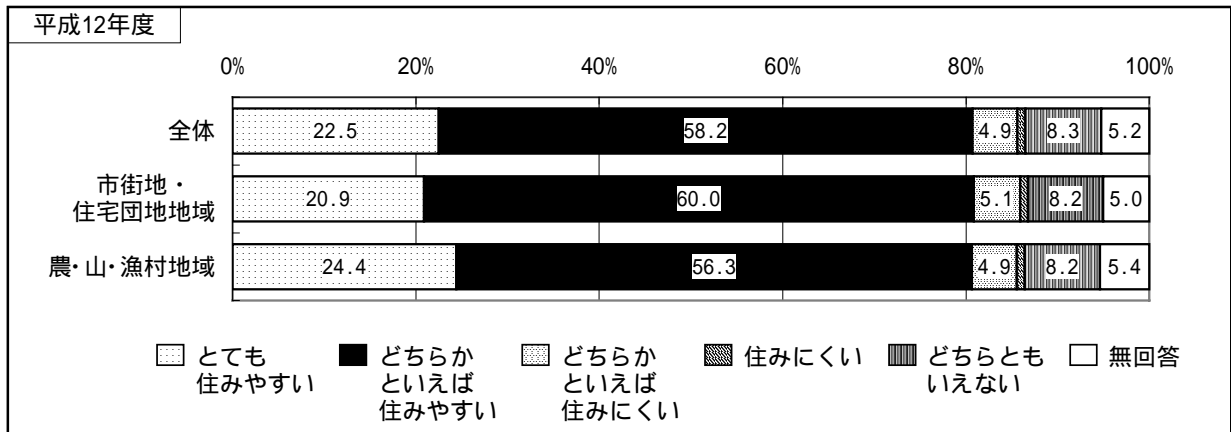
さらに、「とても住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」を合わせた回答を県外在住の経験「5年未満の人」と「5年以上の人」とで比較すると、「5年以上の人」の方が「5年未満の人」よりも低い。

〔平成10年度との比較〕

県外在住の経験別では、「とても住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」を合わせた回答は、平成12年度も平成10年度と同様の傾向を示している。

県外在住の経験がある人の「とても住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」を合わせた回答は、「5年未満の人」は平成10年度の77.6%から平成12年度の79.8%へと2.2ポイント増加し、「5年以上の人」は68.4%から74.2%へと5.8ポイント増加している。

(5) 居住環境別



[平成12年度]

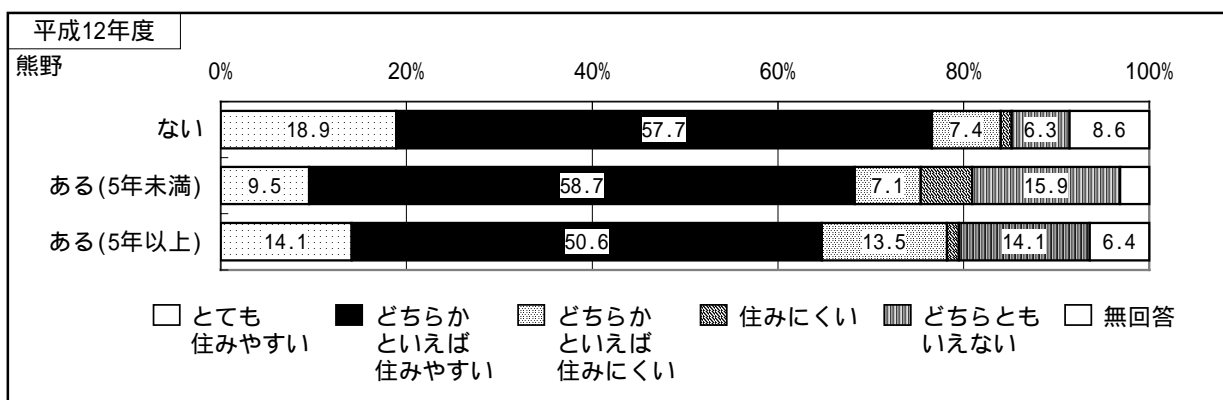
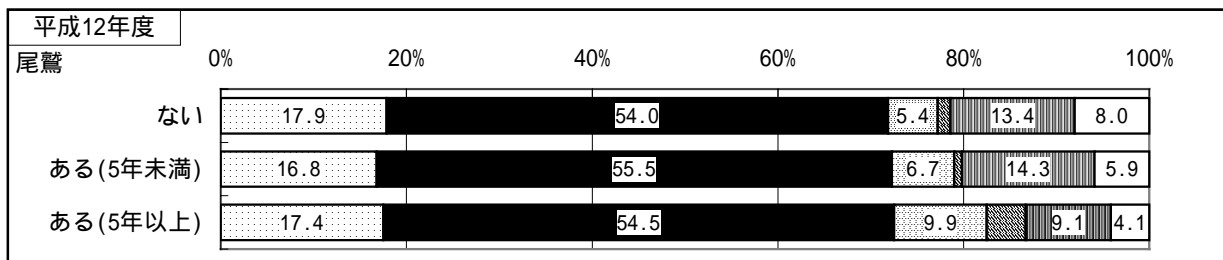
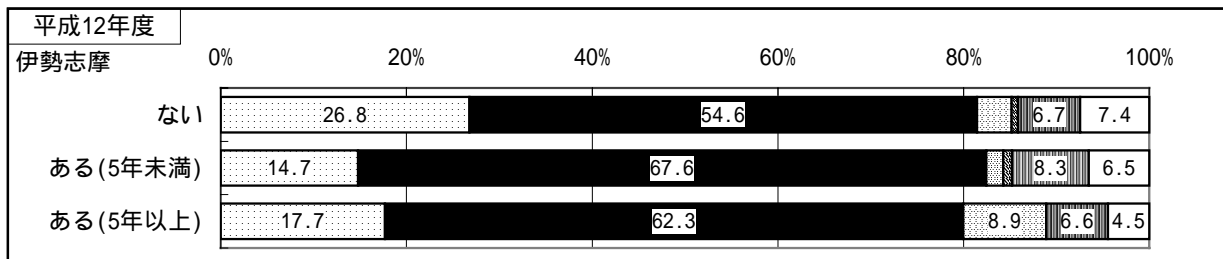
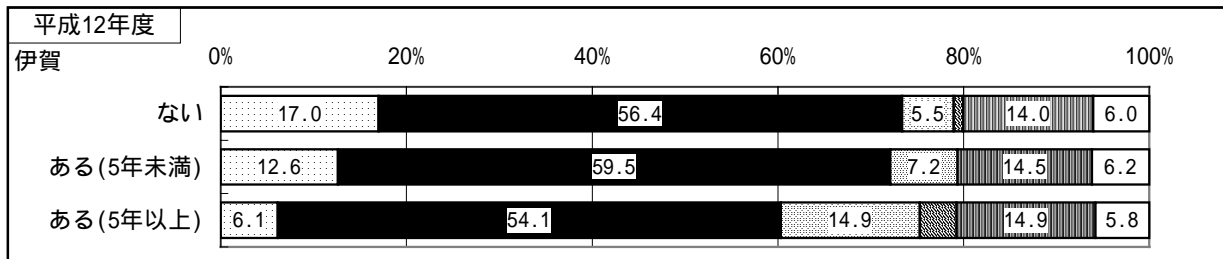
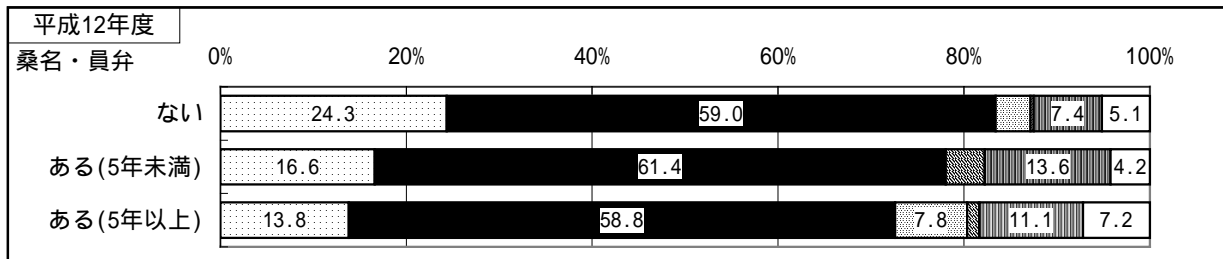
「市街地・住宅団地地域に住む人」と「農・山・漁村地域に住む人」とでは、「とても住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」を合わせた回答に差はあまりみられない。

[平成10年度との比較]

市街地・住宅団地地域の「とても住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」を合わせた回答は、平成10年度の76.5%から平成12年度の80.9%へと4.4ポイント増加している。

農・山・漁村地域の「とても住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」を合わせた回答は、平成10年度の76.3%から平成12年度の80.7%へと4.4ポイント増加している。

(6) 生活創造圏・県外在住経験別



〔平成 12 年度〕

「とても住みやすい」の回答率が県全体より低い桑名・員弁、伊賀、伊勢志摩、尾鷲、熊野について県外在住経験との関連をみると、桑名・員弁と伊賀では、「県外在住経験がない人」に比べて「県外在住経験のある人」の「とても住みやすい」の回答率が顕著に低くなっている。また、熊野は、「5 年未満の県外在住経験のある人」よりも「5 年以上の県外在住経験のある人」の方が「とても住みやすい」の回答率が高くなっている。

〔平成 10 年度との比較〕

生活創造圏・県外在住の経験別では、「とても住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」を合わせた回答は、平成 12 年度も平成 10 年度と同様の傾向を示している。

2. 県行政の各分野の取り組みについての重要度・満足度

問2 以下に掲げた各分野の県行政の取り組みは、あなたの今の、あるいはこれからの生活にとってどのくらい重要ですか。また現在のこれらの行政の取り組みに対してあなたはどのくらい満足されていますか。(重要度、満足度それぞれに○は1つずつ)

次ページに掲げた45項目のそれぞれについて、重要度と満足度の両面から意見を聞いた。

重要度の選択肢

- 重要
- どちらかといえば重要
- どちらともいえない
- どちらかといえば重要でない
- 重要でない
- わからない

満足度の選択肢

- 満足
- どちらかといえば満足
- どちらともいえない
- どちらかといえば不満
- 不満
- わからない

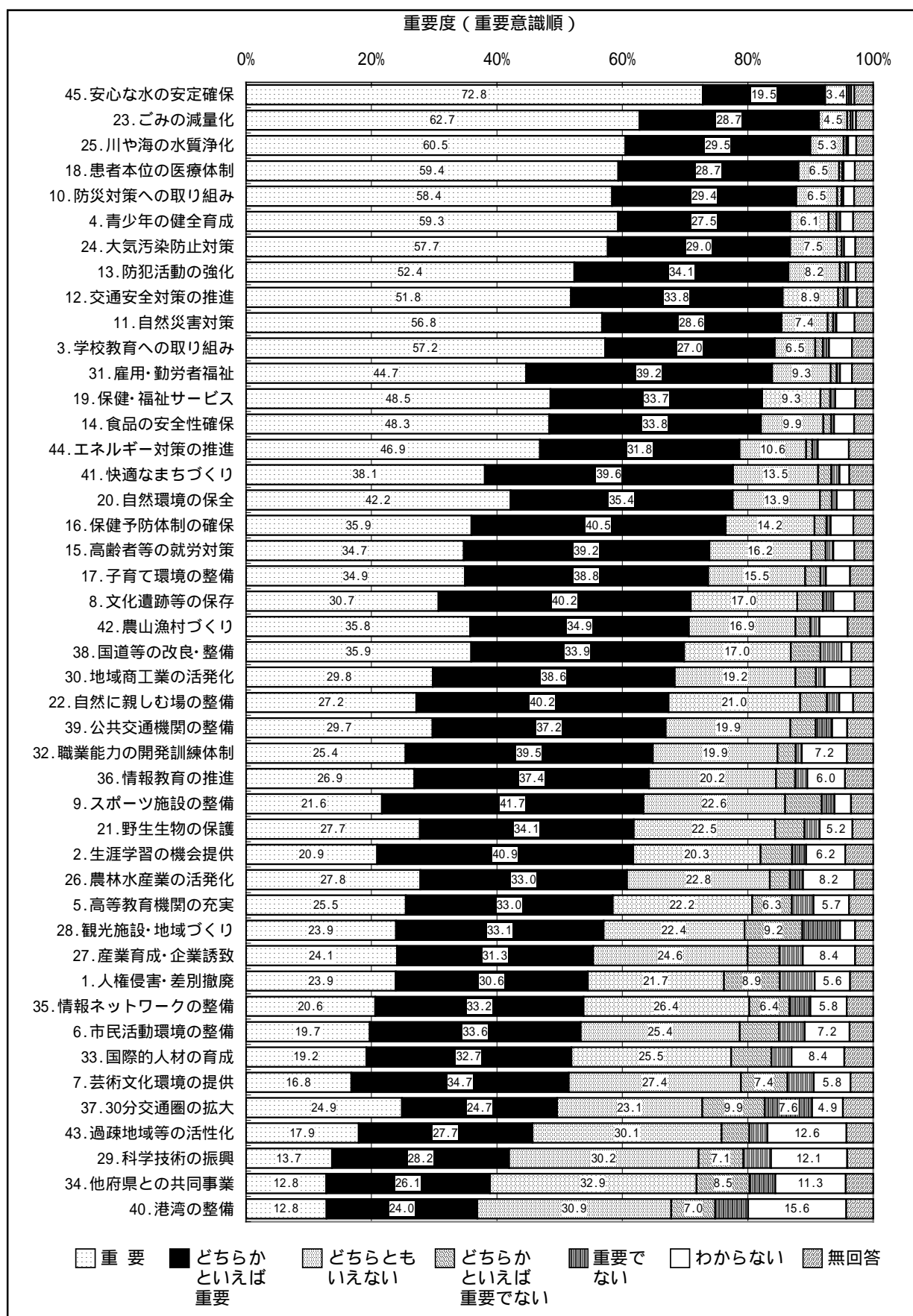
各項目について県民の考える重要度を測定するため、重要意識(「重要」「どちらかといえば重要」と答えた人の率の計)を用いる。

同様に、満足度については満足意識(「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計)と不満意識(「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計)を用いる。

番号	調査票での表現	報告書の省略表記
1	人権侵害や差別をなくすための取り組み	人権侵害・差別撤廃
2	生涯学習の場と機会の提供	生涯学習の機会提供
3	学校教育への取り組み	学校教育への取り組み
4	青少年の健全育成	青少年の健全育成
5	大学などの高等教育機関の充実	高等教育機関の充実
6	職場へのボランティア休暇の導入など、住民が市民活動に参加しやすい条件の整備	市民活動環境の整備
7	芸術文化にふれあう機会の提供	芸術文化環境の提供
8	文化遺産、史跡、天然記念物などの保存	文化遺跡等の保存
9	スポーツ・レクリエーション施設の整備	スポーツ施設の整備
10	防災対策への取り組み	防災対策への取り組み
11	洪水や高潮、土砂災害などへの対策	自然災害対策
12	交通安全対策の推進	交通安全対策の推進
13	防犯活動の強化	防犯活動の強化
14	食品の安全性確保のための衛生管理指導體制の整備	食品の安全性確保
15	高齢者や障害者の就労条件などの整備	高齢者等の就労対策
16	生活習慣病や感染症の予防など保健予防体制の確保	保健予防体制の確保
17	母子保健対策、保育サービスなど子育て環境の整備	子育て環境の整備
18	病状に応じて、適切な医療が受けられる患者本位の医療体制の確保	患者本位の医療体制
19	訪問介護など保健・福祉サービスの提供	保健・福祉サービス
20	自然環境の保全	自然環境の保全
21	希少な野生生物の保護	野生生物の保護
22	自然に親しむ場の整備	自然に親しむ場の整備
23	ごみの減量化	ごみの減量化
24	大気汚染防止対策の強化	大気汚染防止対策
25	川や海の水質浄化	川や海の水質浄化
26	農林水産業の活発化	農林水産業の活発化
27	新しい分野の産業の育成や先端的企業の誘致	産業育成・企業誘致
28	三重県を訪れる人が増加するような観光施設や地域づくり	観光施設・地域づくり
29	科学技術の振興	科学技術の振興
30	中小企業の支援や商店街づくりなど地域商工業の活発化	地域商工業の活発化
31	働く場の確保と勤労者福祉の向上	雇用・勤労者福祉
32	社会の変化に対応した職業能力の開発訓練体制の充実	職業能力の開発訓練体制
33	海外の学校との提携校の拡大など国際化社会に対応できる人材の育成	国際的人材の育成
34	県境を越えた児童生徒の受入れの弾力化など、他府県との共同事業の推進	他府県との共同事業
35	ケーブルテレビの普及など情報ネットワークの整備	情報ネットワークの整備
36	インターネットなどの新しい情報手段に対応できるような情報教育の推進	情報教育の推進
37	空港、新幹線、高速道路など高速交通機関までおおむね 30 分で到達できる地域の拡大	30 分交通圏の拡大
38	国道や県道の改良・整備	国道等の改良・整備
39	鉄道やバスなど公共交通機関の整備	公共交通機関の整備
40	港湾の整備	港湾の整備
41	公園や歩道、段差のない公共的施設など快適なまちづくり	快適なまちづくり
42	道路、生活排水処理施設の整備など若者が定住する農山漁村づくり	農山漁村づくり
43	過疎地域や離島、半島地域の活性化	過疎地域等の活性化
44	省エネルギー対策の推進、太陽光発電の普及など地球に優しいエネルギー対策	エネルギー対策の推進
45	安心して飲める水の安定確保	安心な水の安定確保

(1) 重要度に関する結果の概要

(重要意識は「重要」「どちらかといえば重要」と答えた人の率の計)



〔平成 12 年度〕

45 項目中 40 項目で、重要意識(「重要」「どちらかといえば重要」と答えた人の率の計)が 50% 以上に達しており、重要性に対する認識は全体として高い。

45 項目の中で重要意識が最も高いのは、「安心な水の安定確保」(92.3%)で、以下「ごみの減量化」(91.4%)「川や海の水質浄化」(90.0%)「患者本位の医療体制」(88.1%)「防災対策への取り組み」(87.4%)「青少年の健全育成」(86.8%)など安全・安心に関する項目と環境、青少年の育成に関する項目が上位となっている。

重要意識が最も低いのは、「港湾の整備」(36.8%)で、次いで「他府県との共同事業」(38.9%)「科学技術の振興」(41.9%)「過疎地域等の活性化」(45.6%)「30 分交通圏の拡大」(49.6%)となっている。

重要意識が下位の項目は、「どちらともいえない」あるいは「わからない」の回答率が高くなっている。

〔平成 10 年度との比較〕

重要意識が 50%を上回ったのは、平成 10 年度は 45 項目中 39 項目であったが、平成 12 年度では 45 項目中 40 項目となっている。

「青少年の健全育成」(86.8%)「情報教育の推進」(64.3%)、「情報ネットワークの整備」(53.8%)の重要意識が相対的に上がったことが目立つものの、その他の項目の順位に大きな変化はみられない。

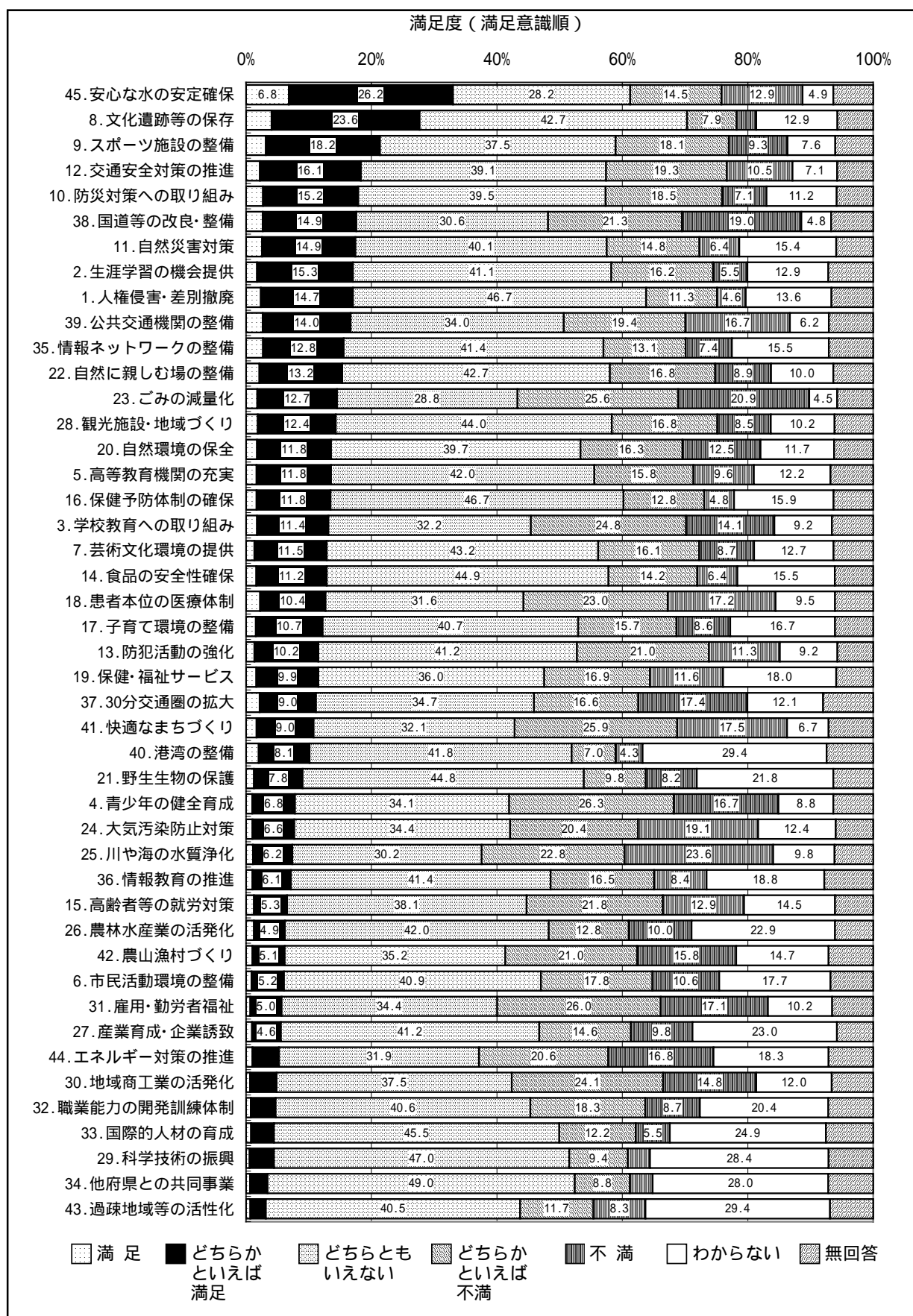
< 重要意識が 3 ランク以上、上がった項目 >

項 目	平成 12 年度	平成 10 年度
4. 青少年の健全育成	86.8% (6)	85.0% (12)
36. 情報教育の推進	64.3% (28)	58.6% (33)
35. 情報ネットワークの整備	53.8% (37)	48.3% (41)
14. 食品の安全性確保	82.1% (14)	79.1% (17)
28. 観光施設・地域づくり	57.0% (34)	54.1% (37)
27. 産業育成・企業誘致	55.4% (35)	53.6% (38)

()内は順位

(2) 満足度に関する結果の概要

(満足意識は「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計)



〔平成 12 年度〕

全体の特徴

各項目とも「どちらともいえない」が、ほぼ 30%～50%と多くを占めているが、満足意識（「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計）と不満意識（「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計）を比べると、ほとんどの項目で不満意識の方が高くなっている。満足意識は、「安心な水の安定確保」が 33.0%で最も高く、次いで高いのは「文化遺跡等の保存」（27.7%）、「スポーツ施設の整備」（21.4%）であるが、これら 3 項目以外は高いものでも 10%台となっている。

不満意識は、「ごみの減量化」が 46.5%で最も高く、次いで「川や海の水質浄化」（46.4%）、「快適なまちづくり」（43.4%）、「雇用・勤労者福祉」（43.1%）、「青少年の健全育成」（43.0%）、「国道等の改良・整備」（40.3%）、「患者本位の医療体制」（40.2%）と続いており、上位 7 項目までが 40%以上の不満意識となっている。

属性別の特徴

個別項目ごとの満足度に関する属性別（年代別、生活創造圏別）回答結果については、33 ページ以降に掲載しているが、特徴的なことをあげると以下のとおりである。

年代別にみると、ほとんどの項目で年代が高くなるほど満足意識が高くなり、逆に不満意識は低くなっている。年代による不満意識の差が特に大きいものは次の項目である。

<年代間の不満意識の差が特に大きい項目>

項 目	県全体	年代別の最大値	年代別の最小値
17. 子育て環境の整備	24.3	41.4 (30 歳代)	12.8 (70 歳以上)
9. スポーツ施設の整備	27.4	40.4 (30 歳代)	12.0 (70 歳以上)
18. 患者本位の医療体制	40.2	51.7 (30 歳代)	25.9 (70 歳以上)
41. 快適なまちづくり	43.4	53.8 (30 歳代)	28.8 (70 歳以上)
24. 大気汚染防止対策	39.5	50.5 (30 歳代)	29.0 (70 歳以上)

数値は不満意識（「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計）

圏域別にみると、満足意識については総じて圏域間の差が少ないが、不満意識については、圏域間の差が大きいものがみられる。圏域間の不満意識の差が特に大きいものは次の項目である。

<圏域間の不満意識の差が特に大きい項目>

項 目	県全体	圏域別の最大値	圏域別の最小値
37. 30 分交通圏の拡大	34.0	59.7 (熊野)	26.5 (桑名・員弁)
43. 過疎地域等の活性化	20.0	46.8 (尾鷲)	14.1 (四日市)
42. 農山漁村づくり	36.8	52.3 (尾鷲)	28.6 (桑名・員弁)
27. 産業育成・企業誘致	24.4	39.4 (尾鷲)	17.4 (鈴鹿・亀山)
31. 雇用、勤労者福祉	43.1	59.1 (尾鷲)	38.2 (桑名・員弁、四日市)

数値は不満意識（「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計）

(3) 生活創造圏別の重要度・満足度の概要

圏域別重要意識上位5項目

<平成12年度>

(単位:%)

生活創造圏	1位	2位	3位	4位	5位
県全体	45. 安心な水の安定確保 92.3	23. ごみの減量化 91.4	25. 川や海の水質浄化 90.0	18. 患者本位の医療体制 88.1	10. 防災対策への取り組み 87.7
桑名・員弁	45. 安心な水の安定確保 92.9	23. ごみの減量化 92.2	25. 川や海の水質浄化 88.8	10. 防災対策への取り組み 88.0	11. 自然災害対策 87.2
四日市	45. 安心な水の安定確保 94.2	23. ごみの減量化 93.2	18. 患者本位の医療体制 90.2	10. 防災対策への取り組み 89.8	25. 川や海の水質浄化 88.8
鈴鹿・亀山	45. 安心な水の安定確保 93.4	25. 川や海の水質浄化 89.4	23. ごみの減量化 89.0	18. 患者本位の医療体制 88.0	4. 青少年の健全育成 87.6
伊賀	45. 安心な水の安定確保 90.7	25. 川や海の水質浄化 89.4	23. ごみの減量化 89.3	12. 交通安全対策の推進 86.7	13. 防犯活動の強化 86.7
津・久居	23. ごみの減量化 93.3	45. 安心な水の安定確保 92.8	25. 川や海の水質浄化 91.2	18. 患者本位の医療体制 90.3	4. 青少年の健全育成 89.3
松阪・紀勢	45. 安心な水の安定確保 90.9	23. ごみの減量化 90.6	25. 川や海の水質浄化 90.5	4. 青少年の健全育成 87.0	24. 大気汚染防止対策 86.5
伊勢志摩	25. 川や海の水質浄化 92.0	45. 安心な水の安定確保 91.2	23. ごみの減量化 90.5	24. 大気汚染防止対策 88.9	10. 防災対策への取り組み 87.8
尾鷲	45. 安心な水の安定確保 92.3	23. ごみの減量化 91.3	25. 川や海の水質浄化 90.9	11. 自然災害対策 89.6	10. 防災対策への取り組み 89.4
熊野	23. ごみの減量化 88.1	45. 安心な水の安定確保 87.4	31. 雇用・勤労者福祉 86.8	10. 防災対策への取り組み 86.6	11. 自然災害対策 86.6

下段の数字は重要意識(「重要」「どちらかといえば重要」と答えた人の率の計)

[平成12年度]

「安心な水の安定確保」が津・久居、伊勢志摩、熊野を除く6圏域で第1位となっている。また「安心な水の安定確保」「ごみの減量化」の項目は、全ての圏域で上位5位までに入っている。

その他、「川や海の水質浄化」が8圏域で、「防災対策への取り組み」が5圏域で上位5位までに入っている。

「青少年の健全育成」が、鈴鹿・亀山、津・久居、松阪・紀勢の3圏域で上位に入っている。熊野では「雇用・勤労者福祉」が他圏域に比べ高くなっている。

[平成10年度との比較]

全体的に大きな変化はみられないものの、伊賀で「交通安全対策の推進」「防犯活動の強化」、鈴鹿・亀山、津・久居、松阪・紀勢で「青少年の健全育成」が加わっている。

「雇用・勤労者福祉」は、平成10年度調査においては尾鷲で第4位であったものが、平成12年度調査において第6位に後退している。

<平成 10 年度>

(単位：%)

生活創造圏	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
県全体	45. 安心な水の安定確保 94.0	23. ごみの減量化 92.7	25. 川や海の水質浄化 90.9	24. 大気汚染防止対策 89.1	18. 患者本位の医療体制 89.0
桑名・員弁	45. 安心な水の安定確保 94.8	23. ごみの減量化 93.4	25. 川や海の水質浄化 91.3	24. 大気汚染防止対策 89.6	10. 防災対策への取り組み 89.4
四日市	23. ごみの減量化 94.8	45. 安心な水の安定確保 93.3	24. 大気汚染防止対策 91.7	25. 川や海の水質浄化 91.3	10. 防災対策への取り組み 89.8
鈴鹿・亀山	23. ごみの減量化 94.6	45. 安心な水の安定確保 94.4	24. 大気汚染防止対策 91.1	25. 川や海の水質浄化 90.7	18. 患者本位の医療体制 90.2
伊賀	45. 安心な水の安定確保 93.3	25. 川や海の水質浄化 89.5	18. 患者本位の医療体制 89.1	23. ごみの減量化 88.6	10. 防災対策への取り組み 88.6
津・久居	45. 安心な水の安定確保 94.6	23. ごみの減量化 92.3	18. 患者本位の医療体制 90.1	25. 川や海の水質浄化 89.8	12. 交通安全対策の推進 89.5
松阪・紀勢	45. 安心な水の安定確保 94.5	23. ごみの減量化 92.7	25. 川や海の水質浄化 91.5	10. 防災対策への取り組み 89.9	12. 交通安全対策の推進 89.3
伊勢志摩	45. 安心な水の安定確保 93.8	23. ごみの減量化 92.2	25. 川や海の水質浄化 92.0	11. 自然災害対策 88.4	18. 患者本位の医療体制 88.3
尾鷲	45. 安心な水の安定確保 92.6	23. ごみの減量化 90.8	11. 自然災害対策 90.6	31. 雇用・勤労者福祉 90.6	25. 川や海の水質浄化 90.4
熊野	45. 安心な水の安定確保 92.0	11. 自然災害対策 91.3	23. ごみの減量化 90.5	25. 川や海の水質浄化 90.1	10. 防災対策への取り組み 89.6

下段の数字は重要意識（「重要」「どちらかといえば重要」と答えた人の率の計）

生活創造圏域別重要意識

(単位：%)

政策	項目	桑名・員弁	四日市	鈴鹿・亀山	伊賀	津・久居	松阪・紀勢	伊勢志摩	尾鷲	熊野
人権の尊重	1. 人権侵害・差別撤廃	52.2	58.1	53.8	56.4	54.5	50.8	55.0	54.3	50.1
人づくりの推進	2. 生涯学習の機会提供	61.7	61.6	58.6	59.8	65.7	61.8	63.0	56.4	55.7
	3. 学校教育への取り組み	83.0	83.4	83.2	81.6	87.7	85.6	85.3	83.0	77.0
	4. 青少年の健全育成	83.2	87.7	87.6	84.7	89.3	87.0	87.6	81.5	82.7
	5. 高等教育機関の充実	59.6	55.4	56.3	59.4	62.8	55.7	58.6	61.7	60.3
	6. 市民活動環境の整備	53.3	52.1	52.6	52.3	56.7	50.6	55.0	54.7	50.3
文化・スポーツの振興	7. 芸術文化環境の提供	50.1	53.7	45.6	50.7	56.1	50.8	50.2	50.4	49.3
	8. 文化遺産等の保存	67.4	69.9	66.7	71.3	76.3	73.5	70.0	67.7	69.5
	9. スポーツ施設の整備	60.7	65.1	64.6	60.7	65.7	63.6	61.1	63.0	62.5
安全な生活の確保	10. 防災対策への取り組み	88.0	89.8	86.1	85.8	88.8	85.8	87.8	89.4	86.6
	11. 自然災害対策	87.2	86.1	82.2	81.8	86.7	83.1	87.4	89.6	86.6
	12. 交通安全対策の推進	84.8	84.9	86.5	86.7	87.4	85.8	83.6	83.6	82.7
	13. 防犯活動の強化	86.3	88.0	86.2	86.7	89.2	85.2	84.0	81.5	81.9
健やかな生活の確保	14. 食品の安全性確保	79.6	81.7	80.4	80.9	85.8	82.8	82.4	82.3	79.1
	15. 高齢者等の就労対策	73.7	73.0	75.6	74.7	75.3	71.6	73.3	74.0	72.7
	16. 保健予防体制の確保	73.3	75.9	75.6	82.0	79.6	74.0	73.5	77.4	80.0
安心できる生活の確保	17. 子育て環境の整備	69.7	75.9	69.4	73.2	76.4	73.5	75.4	72.6	71.4
	18. 患者本位の医療体制	86.8	90.2	88.0	86.5	90.3	85.4	87.2	88.5	85.3
自然との共生の確保	19. 保健・福祉サービス	80.0	83.2	80.5	81.3	85.4	83.1	81.1	80.6	80.0
	20. 自然環境の保全	75.4	80.5	72.5	76.4	80.1	77.1	79.0	75.1	74.0
	21. 野生生物の保護	63.2	61.6	59.2	58.6	63.0	63.3	64.5	54.9	58.2
資源循環型社会の構築	22. 自然に親しむ場の整備	66.1	68.0	68.3	64.6	69.8	67.8	66.4	65.1	62.5
	23. ごみの減量化	92.2	93.2	89.0	89.3	93.3	90.6	90.5	91.3	88.1
	24. 大気汚染防止対策	85.3	88.2	85.9	84.4	87.4	86.5	88.9	86.8	80.2
安心を支える力強い農林水産業の振興	25. 川や海の水質浄化	88.8	88.8	89.4	89.4	91.2	90.5	92.0	90.9	85.9
	26. 農林水産業の活発化	55.4	57.3	59.8	58.4	59.6	62.1	69.1	74.5	69.5
戦略的な産業振興	27. 産業育成・企業誘致	50.9	51.9	49.7	52.5	58.1	56.6	62.6	68.7	63.3
	28. 観光施設・地域づくり	51.6	48.7	46.4	57.1	59.0	59.7	72.1	72.6	68.7
技術の高度化と競争力の強化	29. 科学技術の振興	39.2	44.4	34.8	40.1	42.6	42.2	48.5	40.0	38.2
	30. 地域商工業の活発化	66.7	66.0	61.9	64.4	72.4	70.1	72.9	76.6	70.6
充実した職業生活の推進	31. 雇用・勤労者福祉	82.1	83.8	81.2	83.7	86.8	81.4	84.8	88.9	86.8
	32. 職業能力の開発訓練体制	66.3	64.3	60.2	65.5	65.5	62.3	68.5	67.4	66.3
交流の促進	33. 国際的人材の育成	52.6	55.0	47.0	50.6	51.8	53.0	53.2	46.6	47.8
	34. 他府県との共同事業	38.2	38.6	34.6	40.8	38.5	39.4	39.7	43.0	49.3
高度情報化の推進	35. 情報ネットワークの整備	52.9	55.2	51.7	56.4	56.5	55.5	48.1	48.3	55.4
	36. 情報教育の推進	65.1	64.9	59.8	61.6	66.2	65.7	66.2	60.0	59.3
交流基盤の整備	37. 30分交通圏の拡大	49.9	47.9	51.4	53.4	45.1	48.5	48.7	60.0	70.4
	38. 国道等の改良・整備	68.2	68.0	71.0	77.0	66.1	70.2	68.9	73.2	82.3
	39. 公共交通機関の整備	70.5	68.9	68.5	72.8	63.0	61.2	65.2	67.4	69.5
	40. 港湾の整備	32.2	41.9	32.1	32.0	36.6	33.3	42.0	55.1	38.6
まちづくりの推進	41. 快適なまちづくり	77.0	79.0	78.3	75.9	80.9	75.7	76.7	73.0	71.4
	42. 農山漁村づくり	67.1	67.0	68.5	72.3	68.2	73.1	76.5	82.6	78.9
地域づくりの推進	43. 過疎地域等の活性化	39.3	38.2	42.5	43.1	44.6	49.3	56.3	68.5	67.6
計画的な県土利用と資源エネルギー対策の推進	44. エネルギー対策の推進	75.8	82.4	75.8	76.3	80.3	75.9	81.8	79.1	74.0
	45. 安心な水の安定確保	92.9	94.2	93.4	90.7	92.8	90.9	91.2	92.3	87.4

圏域別満足意識上位5項目

<平成12年度>

(単位：%)

生活創造圏	1位	2位	3位	4位	5位
県全体	45. 安心な水の安定確保 33.0	8. 文化遺跡等の保存 27.7	9. スポーツ施設の整備 21.4	12. 交通安全対策の推進 18.3	10. 防災対策への取り組み 17.9
桑名・員弁	45. 安心な水の安定確保 33.7	8. 文化遺跡等の保存 25.7	9. スポーツ施設の整備 21.2	37. 30分交通圏の拡大 20.8	10. 防災対策への取り組み 20.2
四日市	45. 安心な水の安定確保 35.1	35. 情報ネットワークの整備 22.2	8. 文化遺跡等の保存 21.8	9. スポーツ施設の整備 19.5	39. 公共交通機関の整備 18.9
鈴鹿・亀山	45. 安心な水の安定確保 32.1	8. 文化遺跡等の保存 27.3	9. スポーツ施設の整備 27.1	23. ごみの減量化 16.8	28. 観光施設・地域づくり 15.7
伊賀	8. 文化遺跡等の保存 29.6	45. 安心な水の安定確保 27.6	1. 人権侵害・差別撤廃 20.4	12. 交通安全対策の推進 20.2	9. スポーツ施設の整備 20.0
津・久居	45. 安心な水の安定確保 33.9	8. 文化遺跡等の保存 28.0	2. 生涯学習の機会提供 22.4	38. 国道等の改良・整備 22.2	39. 公共交通機関の整備 22.2
松阪・紀勢	8. 文化遺跡等の保存 32.9	45. 安心な水の安定確保 32.6	9. スポーツ施設の整備 22.4	38. 国道等の改良・整備 21.2	10. 防災対策への取り組み 20.3
伊勢志摩	45. 安心な水の安定確保 32.4	8. 文化遺跡等の保存 32.2	2. 生涯学習の機会提供 22.5	9. スポーツ施設の整備 22.5	11. 自然災害対策 38. 国道等の改良・整備 19.3
尾鷲	45. 安心な水の安定確保 40.6	12. 交通安全対策の推進 22.3	8. 文化遺跡等の保存 21.5	23. ごみの減量化 21.5	10. 防災対策への取り組み 20.9
熊野	45. 安心な水の安定確保 33.5	8. 文化遺跡等の保存 26.9	12. 交通安全対策の推進 25.8	23. ごみの減量化 22.6	10. 防災対策への取り組み 21.7

下段の数字は満足意識(「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計)

[平成12年度]

伊賀と松阪・紀勢以外の圏域は「安心な水の安定確保」が1位で、満足意識もほぼ32%から40%と似通っている。伊賀と松阪・紀勢では「文化遺跡等の保存」が1位で「安心な水の安定確保」は2位となっている。

「スポーツ施設の整備」が津・久居、尾鷲、熊野を除く6圏域で5位までに入っている。

「情報ネットワークの整備」は四日市にのみ入っている。

[平成10年度との比較]

満足意識上位5項目に大きな変化はみられない。

鈴鹿・亀山、尾鷲、熊野において「ごみの減量化」が平成12年度新たに満足意識の上位5項目に入っている。

<平成10年度>

(単位：%)

生活創造圏	1位	2位	3位	4位	5位
県全体	45. 安心な水の安定確保 34.9	8. 文化遺跡等の保存 31.5	9. スポーツ施設の整備 24.3	10. 防災対策への取り組み 18.4	12. 交通安全対策の推進 18.1
桑名・員弁	45. 安心な水の安定確保 37.5	8. 文化遺跡等の保存 32.3	9. スポーツ施設の整備 23.0	39. 公共交通機関の整備 22.3	38. 国道等の改良・整備 21.1
四日市	45. 安心な水の安定確保 37.4	8. 文化遺跡等の保存 23.9	9. スポーツ施設の整備 23.7	35. 情報ネットワークの整備 20.2	39. 公共交通機関の整備 18.9
鈴鹿・亀山	45. 安心な水の安定確保 35.6	8. 文化遺跡等の保存 33.7	9. スポーツ施設の整備 30.9	1. 人権侵害・差別撤廃 18.9	28. 観光施設・地域づくり 18.7
伊賀	8. 文化遺跡等の保存 37.7	45. 安心な水の安定確保 28.1	9. スポーツ施設の整備 23.5	12. 交通安全対策の推進 19.9	10. 防災対策への取り組み 18.2
津・久居	8. 文化遺跡等の保存 31.9	45. 安心な水の安定確保 30.7	9. スポーツ施設の整備 21.5	7. 芸術文化環境の提供 21.3	39. 公共交通機関の整備 19.0
松阪・紀勢	45. 安心な水の安定確保 37.7	8. 文化遺跡等の保存 33.8	38. 国道等の改良・整備 23.5	9. スポーツ施設の整備 22.8	22. 自然に親しむ場の整備 21.0
伊勢志摩	45. 安心な水の安定確保 36.6	8. 文化遺跡等の保存 32.9	9. スポーツ施設の整備 26.8	1. 人権侵害・差別撤廃 20.8	2. 生涯学習の機会提供 20.2
尾鷲	45. 安心な水の安定確保 35.7	8. 文化遺跡等の保存 23.3	12. 交通安全対策の推進 19.3	9. スポーツ施設の整備 16.9	11. 自然災害対策 16.5
熊野	45. 安心な水の安定確保 37.4	8. 文化遺跡等の保存 30.5	9. スポーツ施設の整備 24.7	12. 交通安全対策の推進 23.8	10. 防災対策への取り組み 23.0

下段の数字は満足意識（「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計）

生活創造圏域別満足意識

(単位：%)

政策	項目	桑名・員弁	四日市	鈴鹿・亀山	伊賀	津・久居	松阪・紀勢	伊勢志摩	尾鷲	熊野
人権の尊重	1. 人権侵害・差別撤廃	17.4	16.8	14.5	20.4	17.3	17.0	16.6	13.8	19.8
人づくりの推進	2. 生涯学習の機会提供	15.8	12.0	14.1	15.2	22.4	17.4	22.5	13.0	16.4
	3. 学校教育への取り組み	14.9	10.8	10.5	13.3	16.1	12.5	13.2	12.6	15.6
	4. 青少年の健全育成	7.8	6.8	5.0	8.8	9.4	8.0	8.2	7.2	11.1
	5. 高等教育機関の充実	12.0	14.1	13.0	10.8	15.5	15.5	13.5	8.3	11.3
	6. 市民活動環境の整備	5.7	7.5	4.0	6.0	7.0	5.5	5.3	6.2	7.9
文化・スポーツの振興	7. 芸術文化環境の提供	11.2	12.4	11.8	11.4	17.5	12.5	11.8	11.7	10.7
	8. 文化遺跡等の保存	25.7	21.8	27.3	29.6	28.0	32.9	32.2	21.5	26.9
	9. スポーツ施設の整備	21.2	19.5	27.1	20.0	20.2	22.4	22.5	13.4	20.0
安全な生活の確保	10. 防災対策への取り組み	20.2	16.0	14.5	15.2	19.9	20.3	17.7	20.9	21.7
	11. 自然災害対策	20.0	16.0	13.7	14.6	19.0	18.4	19.3	18.1	19.2
	12. 交通安全対策の推進	20.0	17.2	13.2	20.2	20.8	17.0	17.0	22.3	25.8
	13. 防犯活動の強化	11.2	9.5	8.1	12.0	15.9	10.8	11.1	12.6	15.1
	14. 食品の安全性確保	11.6	12.4	10.1	11.6	14.4	13.5	15.5	11.3	13.2
健やかな生活の確保	15. 高齢者等の就労対策	6.8	5.8	5.2	7.7	7.8	6.8	5.9	7.2	6.4
	16. 保健予防体制の確保	13.9	13.3	9.5	13.3	13.7	15.5	13.6	16.2	17.9
	17. 子育て環境の整備	14.3	11.0	10.4	12.5	11.0	14.6	12.8	11.3	14.9
安心できる生活の確保	18. 患者本位の医療体制	10.1	15.1	8.9	13.7	12.6	17.0	11.3	7.7	11.9
	19. 保健・福祉サービス	9.9	9.9	9.3	12.2	11.7	15.7	10.9	14.3	17.1
自然との共生の確保	20. 自然環境の保全	13.7	12.4	12.4	12.0	15.9	12.3	14.7	13.6	17.3
	21. 野生生物の保護	8.4	9.8	9.3	7.5	9.9	8.9	8.4	7.7	10.9
	22. 自然に親しむ場の整備	13.7	16.2	15.3	15.3	14.1	15.5	15.7	18.5	20.7
資源循環型社会の構築	23. ごみの減量化	15.0	13.1	16.8	15.0	12.8	14.6	13.2	21.5	22.6
	24. 大気汚染防止対策	7.6	9.3	7.3	6.4	8.3	7.2	6.5	8.3	7.9
	25. 川や海の水質浄化	7.3	6.6	6.8	7.1	8.3	7.6	7.5	7.2	8.5
安心を支える力強い農林水産業の振興	26. 農林水産業の活発化	5.1	6.0	5.0	6.0	7.9	6.4	6.5	5.3	5.8
戦略的な産業振興	27. 産業育成・企業誘致	7.2	7.3	5.0	5.6	5.4	4.4	4.4	3.0	3.6
	28. 観光施設・地域づくり	15.6	15.1	15.7	15.0	13.2	17.0	11.1	8.1	10.9
技術の高度化と競争力の強化	29. 科学技術の振興	4.4	6.6	3.7	4.1	4.1	4.3	3.8	2.1	3.0
	30. 地域商工業の活発化	5.0	4.8	5.4	6.2	5.4	4.9	3.6	2.6	2.6
充実した職業生活の推進	31. 雇用・勤労者福祉	7.6	5.8	5.8	7.7	4.9	6.4	3.4	3.4	4.3
	32. 職業能力の開発訓練体制	3.4	6.2	3.5	5.2	4.9	5.3	4.4	3.0	3.0
交流の促進	33. 国際的人材の育成	4.2	5.2	5.2	4.9	3.6	4.9	4.0	4.5	3.0
	34. 他府県との共同事業	3.4	4.1	3.3	2.8	2.5	4.2	3.6	4.3	3.8
高度情報化の推進	35. 情報ネットワークの整備	10.5	22.2	12.2	17.6	20.4	15.9	8.8	5.7	7.7
	36. 情報教育の推進	4.6	8.3	7.4	6.4	8.7	7.8	6.5	5.5	5.1
交流基盤の整備	37. 30分交通圏の拡大	20.8	12.4	9.7	5.3	11.2	10.2	10.1	6.0	2.8
	38. 国道等の改良・整備	18.6	14.8	14.7	12.2	22.2	21.2	19.3	14.5	11.5
	39. 公共交通機関の整備	17.7	18.9	12.4	10.8	22.2	18.6	14.9	9.6	7.0
	40. 港湾の整備	9.7	12.9	6.2	5.6	10.5	10.4	13.1	11.7	8.7
まちづくりの推進	41. 快適なまちづくり	13.3	10.8	8.3	8.2	11.4	9.9	13.0	8.5	10.2
	42. 農山漁村づくり	8.6	6.0	5.4	6.9	6.7	5.3	5.3	3.2	5.1
地域づくりの推進	43. 過疎地域等の活性化	2.3	1.7	3.1	2.5	4.3	4.6	4.2	1.5	3.2
計画的な県土利用と資源エネルギー対策の推進	44. エネルギー対策の推進	5.3	5.0	3.1	4.7	8.5	5.3	4.2	3.8	3.0
	45. 安心な水の安定確保	33.7	35.1	32.1	27.6	33.9	32.6	32.4	40.6	33.5

圏域別不満意識上位5項目

<平成12年度>

(単位：%)

生活創造圏	1位	2位	3位	4位	5位
県全体	23.ごみの減量化 46.5	25.川や海の水質浄化 46.4	41.快適なまちづくり 43.4	31.雇用・勤労者福祉 43.1	4.青少年の健全育成 43.0
桑名・員弁	23.ごみの減量化 46.5	25.川や海の水質浄化 46.5	4.青少年の健全育成 42.5	18.患者本位の医療体制 40.7	41.快適なまちづくり 39.4
四日市	23.ごみの減量化 50.2	4.青少年の健全育成 48.5	25.川や海の水質浄化 47.1	41.快適なまちづくり 45.8	24.大気汚染防止対策 45.4
鈴鹿・亀山	41.快適なまちづくり 46.6	18.患者本位の医療体制 43.9	23.ごみの減量化 43.3	4.青少年の健全育成 43.1	31.雇用・勤労者福祉 42.9
伊賀	38.国道等の改良・整備 50.0	39.公共交通機関の整備 44.7	25.川や海の水質浄化 44.6	23.ごみの減量化 44.0	41.快適なまちづくり 43.4
津・久居	23.ごみの減量化 49.5	41.快適なまちづくり 48.5	25.川や海の水質浄化 47.5	30.地域商工業の活発化 45.5	31.雇用・勤労者福祉 42.6
松阪・紀勢	25.川や海の水質浄化 47.3	4.青少年の健全育成 46.0	31.雇用・勤労者福祉 44.3	23.ごみの減量化 43.6	41.快適なまちづくり 41.7
伊勢志摩	31.雇用・勤労者福祉 50.0	23.ごみの減量化 49.2	25.川や海の水質浄化 48.7	42.農山漁村づくり 43.7	30.地域商工業の活発化 43.5
尾鷲	31.雇用・勤労者福祉 59.1	42.農山漁村づくり 52.3	18.患者本位の医療体制 51.3	30.地域商工業の活発化 49.1	25.川や海の水質浄化 48.7
熊野	37.30分交通圏の拡大 59.7	38.国道等の改良・整備 53.7	31.雇用・勤労者福祉 53.9	42.農山漁村づくり 50.3	39.公共交通機関の整備 45.2

下段の数字は不満意識(「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計)

[平成12年度]

「ごみの減量化」は、尾鷲、熊野を除く7圏域で、4位までに入っている。また、「川や海の水質浄化」は、鈴鹿・亀山、熊野を除く7圏域で5位までに入っている。

伊賀と熊野では「国道等の改良・整備」や「公共交通機関の整備」についての不満意識が他圏域に比べ高くなっている。熊野では、さらに「30分交通圏の拡大」が1位になっている。

伊勢志摩以南の3圏域では「雇用・勤労者福祉」についての不満意識が50%を越えている。

尾鷲では、不満意識が50%を超えているものが3項目、熊野では4項目あり、他圏域に比べ不満意識が高くなっている。

松阪・紀勢以北の6圏域では「快適なまちづくり」の不満意識が高く、伊勢志摩以南の3圏域では「農山漁村づくり」についての不満意識が高い。

[平成10年度との比較]

平成10年度にはなかった「青少年の健全育成」が桑名・員弁、四日市、鈴鹿・亀山、松阪・紀勢において2位～4位を占めるようになった。

平成10年度には尾鷲のみであった「地域商工業の活発化」が津・久居、伊勢志摩においても上位を占めるようになった。

<平成10年度>

(単位：%)

生活創造圏	1位	2位	3位	4位	5位
県全体	23.ごみの減量化 52.2	25.川や海の水質浄化 50.1	31.雇用・勤労者福祉 47.9	41.快適なまちづくり 47.3	24.大気汚染防止対策 45.0
桑名・員弁	23.ごみの減量化 53.4	25.川や海の水質浄化 48.4	24.大気汚染防止対策 47.5	41.快適なまちづくり 47.0	18.患者本位の医療体制 46.6
四日市	23.ごみの減量化 54.9	41.快適なまちづくり 48.2	25.川や海の水質浄化 47.6	18.患者本位の医療体制 45.1	24.大気汚染防止対策 44.9
鈴鹿・亀山	23.ごみの減量化 53.2	41.快適なまちづくり 48.9	18.患者本位の医療体制 48.2	25.川や海の水質浄化 48.0	38.国道等の改良・整備 45.9
伊賀	38.国道等の改良・整備 57.9	39.公共交通機関の整備 54.7	31.雇用・勤労者福祉 49.8	41.快適なまちづくり 49.1	25.川や海の水質浄化 47.5
津・久居	41.快適なまちづくり 51.2	25.川や海の水質浄化 50.6	23.ごみの減量化 50.6	42.農山漁村づくり 45.1	24.大気汚染防止対策 44.4
松阪・紀勢	23.ごみの減量化 53.7	25.川や海の水質浄化 53.0	31.雇用・勤労者福祉 51.9	42.農山漁村づくり 47.9	24.大気汚染防止対策 47.7
伊勢志摩	31.雇用・勤労者福祉 55.4	25.川や海の水質浄化 54.8	23.ごみの減量化 52.6	42.農山漁村づくり 51.2	24.大気汚染防止対策 45.4
尾鷲	31.雇用・勤労者福祉 63.5	42.農山漁村づくり 61.0	25.川や海の水質浄化 57.0	23.ごみの減量化 55.4	30.地域商工業の活発化 54.4
熊野	37.30分交通圏の拡大 63.6	38.国道等の改良・整備 59.7	31.雇用・勤労者福祉 57.2	42.農山漁村づくり 56.9	39.公共交通機関の整備 52.6

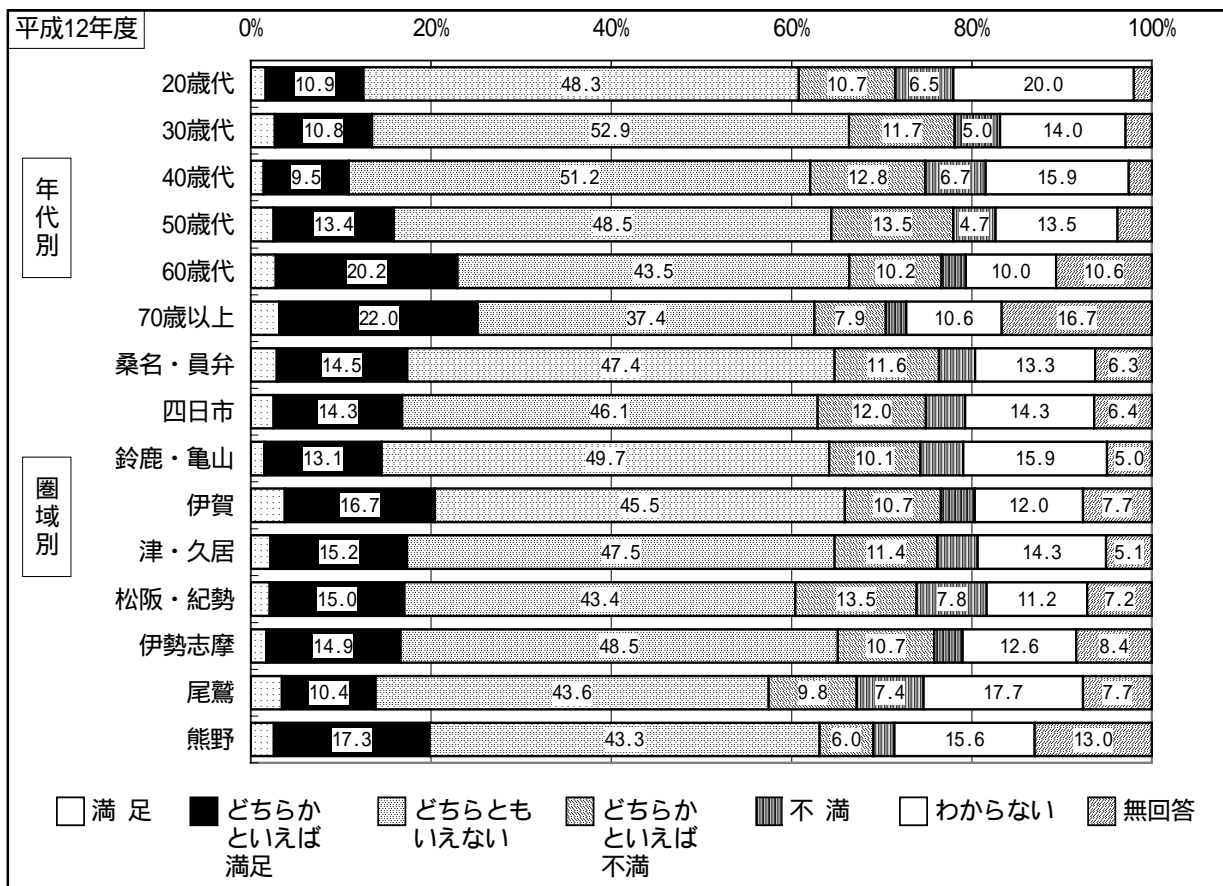
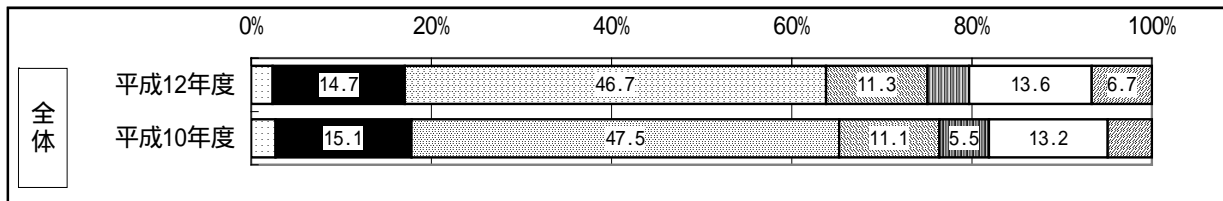
下段の数字は不満足識(「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計)

政策	項目	桑名・員弁	四日市	鈴鹿・亀山	伊賀	津・久居	松阪・紀勢	伊勢志摩	尾鷲	熊野
人権の尊重	1. 人権侵害・差別撤廃	15.6	16.4	14.9	14.5	15.9	21.2	13.9	17.2	8.3
人づくりの推進	2. 生涯学習の機会提供	25.1	24.5	19.9	21.7	18.4	21.4	21.6	22.1	19.0
	3. 学校教育への取り組み	36.0	41.5	40.0	38.1	39.9	39.6	36.6	38.7	32.0
	4. 青少年の健全育成	42.5	48.5	43.1	39.9	42.2	46.0	38.9	39.8	31.8
	5. 高等教育機関の充実	24.8	23.8	25.3	29.6	26.2	21.2	25.0	36.0	30.7
	6. 市民活動環境の整備	28.8	26.3	29.2	29.2	28.7	26.5	31.7	29.4	22.8
文化・スポーツの振興	7. 芸術文化環境の提供	25.6	27.4	23.6	23.8	20.6	25.4	26.7	27.9	28.8
	8. 文化遺産等の保存	10.6	13.5	9.1	12.6	9.9	10.8	10.5	11.3	9.6
	9. スポーツ施設の整備	26.7	31.3	24.0	28.7	29.6	26.5	21.9	32.1	27.9
安全な生活の確保	10. 防災対策への取り組み	24.4	26.1	24.2	25.1	28.0	24.4	25.0	31.3	23.0
	11. 自然災害対策	18.5	21.0	19.0	21.3	22.2	19.5	22.7	30.9	27.5
	12. 交通安全対策の推進	31.6	31.5	33.1	27.9	30.0	28.8	27.5	24.0	19.2
	13. 防犯活動の強化	36.4	35.5	35.0	32.9	32.5	30.5	26.5	24.5	22.4
健やかな生活の確保	14. 食品の安全性確保	19.4	19.9	20.9	20.6	18.9	20.8	23.7	24.3	17.5
	15. 高齢者等の就労対策	32.6	35.5	34.8	36.1	35.2	35.2	33.2	36.8	32.0
	16. 保健予防体制の確保	16.6	17.6	15.3	21.2	17.3	17.8	18.1	18.5	15.6
安心できる生活の確保	17. 子育て環境の整備	22.9	26.1	25.3	23.8	23.8	24.2	24.0	24.3	17.9
	18. 患者本位の医療体制	40.7	40.3	43.9	39.9	39.2	34.9	39.9	51.3	44.1
	19. 保健・福祉サービス	29.0	30.3	31.2	26.6	28.7	25.6	27.9	29.8	22.2
自然との共生の確保	20. 自然環境の保全	30.5	30.5	25.9	24.9	29.8	31.3	28.4	26.4	20.7
	21. 野生生物の保護	17.5	19.1	14.9	18.5	18.4	18.9	18.7	17.2	14.1
	22. 自然に親しむ場の整備	24.6	25.7	27.3	23.4	27.8	27.1	24.2	23.0	19.2
資源循環型社会の構築	23. ごみの減量化	46.5	50.2	43.3	44.0	49.5	43.6	49.2	37.0	32.0
	24. 大気汚染防止対策	38.1	45.4	36.4	39.0	36.6	41.3	40.5	36.4	28.1
	25. 川や海の水質浄化	46.5	47.1	42.8	44.6	47.5	47.3	48.7	48.7	39.4
安心を支える力強い農林水産業の振興	26. 農林水産業の活発化	19.6	19.9	19.9	22.5	21.1	26.1	27.1	39.1	29.9
戦略的な産業振興	27. 産業育成・企業誘致	24.4	21.1	17.4	22.3	23.6	27.1	31.1	39.4	33.9
	28. 観光施設・地域づくり	22.3	20.5	18.4	25.3	26.9	22.6	37.2	37.4	33.3
技術の高度化と競争力の強化	29. 科学技術の振興	12.0	14.1	12.4	10.8	13.9	12.0	14.3	12.8	10.0
	30. 地域商工業の活発化	36.4	36.7	33.1	34.1	45.5	38.2	43.5	49.1	38.0
充実した職業生活の推進	31. 雇用・勤労者福祉	38.2	38.2	42.9	42.0	42.6	44.3	50.0	59.1	53.9
	32. 職業能力の開発訓練体制	28.0	26.4	24.0	26.1	25.1	27.7	30.5	32.8	33.8
交流の促進	33. 国際的人材の育成	21.2	16.4	15.9	16.7	19.1	18.0	16.8	16.8	14.7
	34. 他府県との共同事業	13.9	9.6	12.4	13.1	14.4	11.0	11.7	13.6	18.6
高度情報化の推進	35. 情報ネットワークの整備	24.7	19.3	25.3	22.5	16.2	19.3	19.1	19.1	21.3
	36. 情報教育の推進	28.4	25.3	26.9	22.6	22.4	25.6	24.8	20.4	22.2
交流基盤の整備	37. 30分交通圏の拡大	26.5	32.1	37.9	40.5	31.2	31.4	34.0	46.6	59.7
	38. 国道等の改良・整備	37.1	43.6	41.6	50.0	35.7	37.5	37.2	38.1	53.7
	39. 公共交通機関の整備	39.1	34.8	40.0	47.7	29.2	29.9	34.5	40.9	45.2
	40. 港湾の整備	7.2	11.6	9.3	8.6	11.2	11.6	15.5	23.0	13.4
まちづくりの推進	41. 快適なまちづくり	39.4	45.8	46.6	43.4	48.5	41.7	37.4	40.9	36.0
	42. 農山漁村づくり	28.6	32.0	36.4	37.1	36.4	39.4	43.5	52.3	50.3
地域づくりの推進	43. 過疎地域等の活性化	13.7	14.1	17.6	16.5	17.3	23.9	29.0	46.8	44.1
計画的な県土利用と資源エネルギー対策の推進	44. エネルギー対策の推進	34.1	40.5	34.2	32.0	36.1	39.8	41.6	40.9	39.4
	45. 安心な水の安定確保	26.7	25.1	28.5	30.5	27.3	26.7	29.8	25.7	24.3

(3) 個別項目ごとの満足度(年代別、生活創造圏別)

■人権の尊重

1) 人権侵害や差別をなくすための取り組み



[平成12年度]

全体では「どちらともいえない」(46.7%)、「わからない」(13.6%)という回答を合わせると60.3%と多くなっている。

年代別では、年代が上がるに従って、おおむね満足意識が増加している。

[平成10年度との比較]

全体の傾向に大きな変化はない。

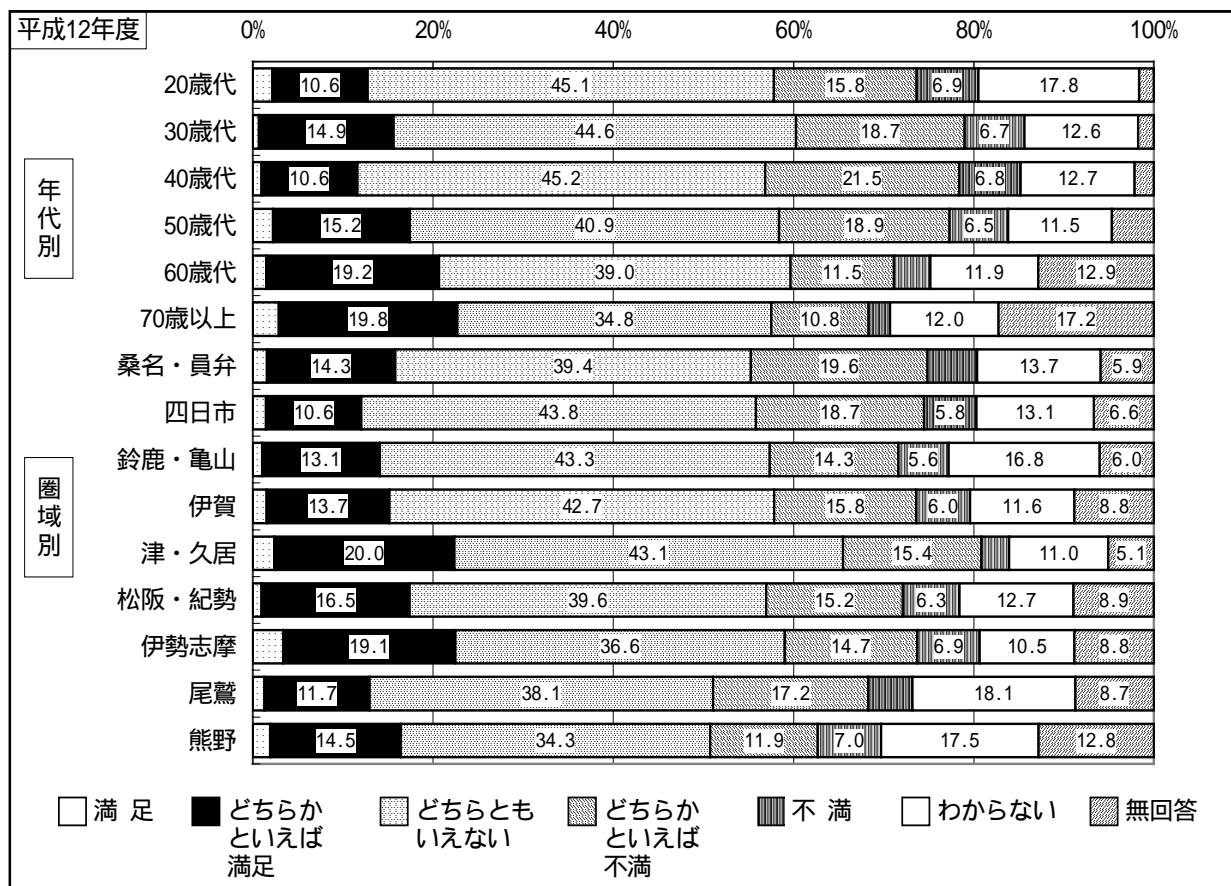
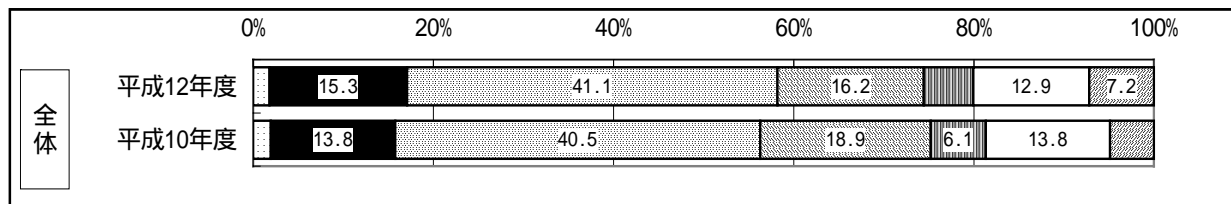
年代別では、40歳代の満足意識が14.8%から10.9%へ3.9ポイント減少し、50歳代の不満意識が14.9%から18.2%へと3.3ポイント増加している。

圏域別では、熊野の不満足意識が14.1%から8.3%へ5.8ポイント減少している。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
不満足意識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

人づくりの推進

2) 生涯学習の場と機会の提供



〔平成12年度〕

年代別では、60歳代以上になると不満意識が低くなり、満足意識の方が高くなっている。

圏域別で満足意識が高いのは、伊勢志摩（22.4%）、津・久居（22.3%）であり、不満意識が高いのは桑名・員弁（25.1%）、四日市（24.5%）などである。

〔平成10年度との比較〕

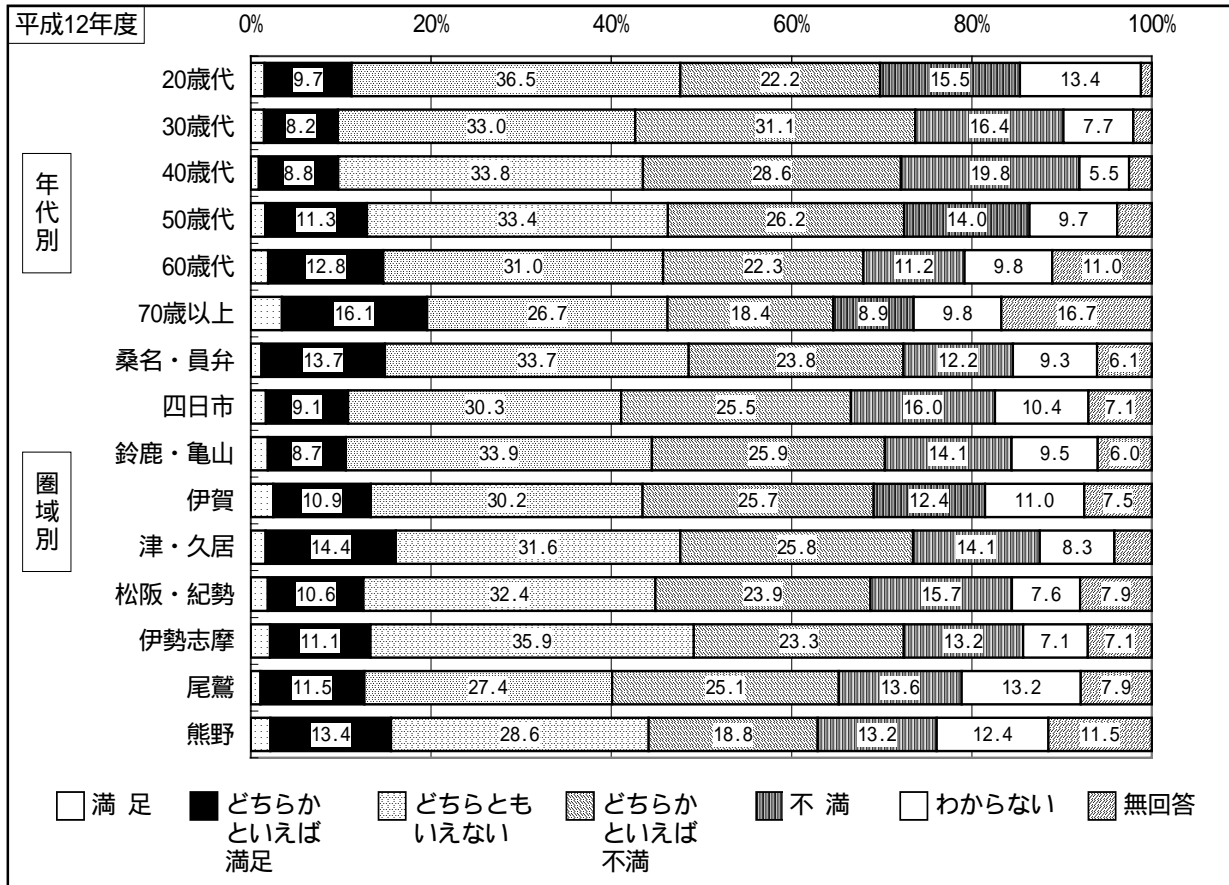
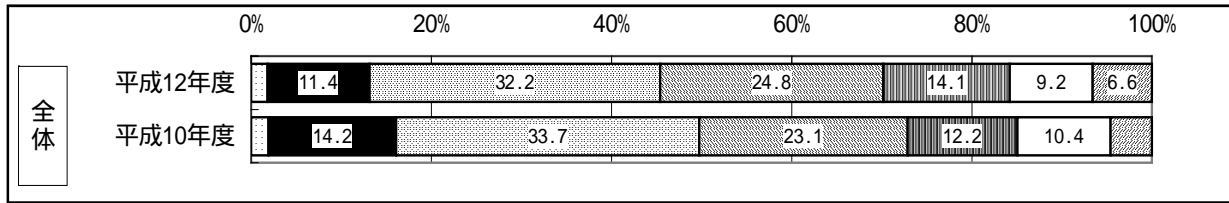
全体では、不満意識が25.0%から21.7%へと3.3ポイント減少している。

年代別では、20歳代の不満意識が28.2%から22.7%へ5.5ポイント減少した。

圏域別の傾向に大きな変化はない。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
 不満意識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

3) 学校教育への取り組み



〔平成12年度〕

年代別では、30歳代、40歳代の不満意識が高く、特に40歳代では48.4%と約半数に達している。

30歳代以上では、年代が上がるに従って満足意識が高くなっている。

〔平成10年度との比較〕

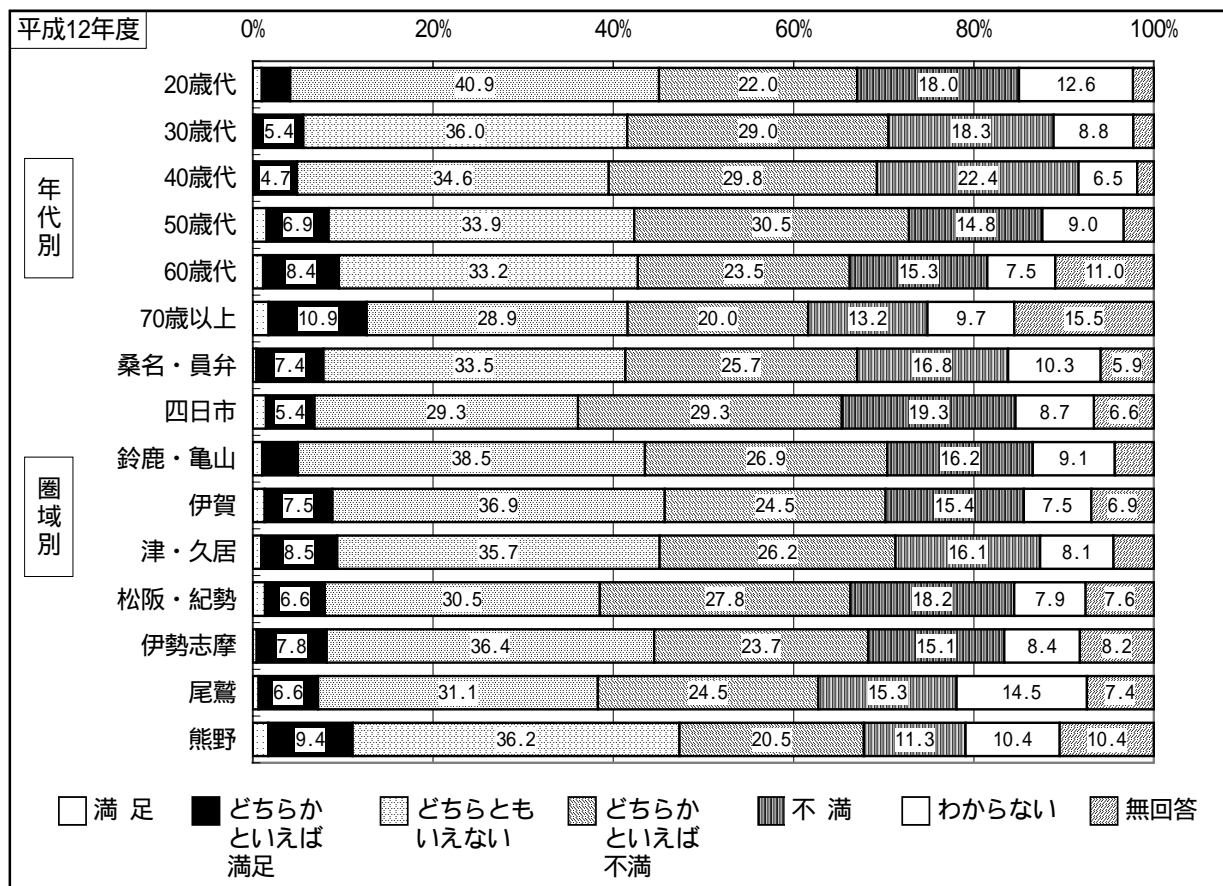
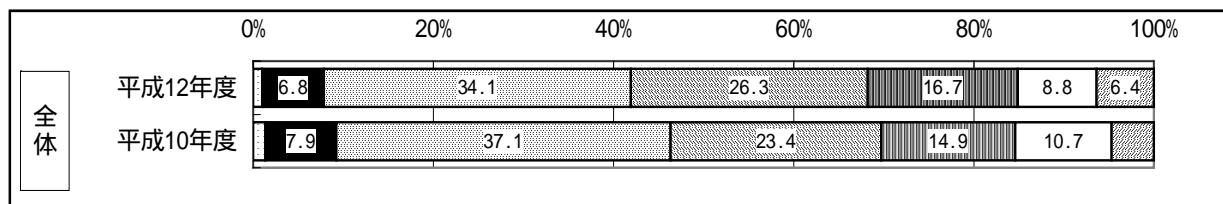
全体では、満足意識は、16.1%から13.2%へ2.9ポイント減少している。一方、不満意識は35.3%から38.9%へ3.6ポイント増加している。

年代別では、50歳代以上の満足意識が減少し、不満意識が増加している。

圏域別では、四日市、松阪・紀勢の不満意識が増加している。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
 不満意識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

4) 青少年の健全育成



〔平成12年度〕

全体では不満足識が43.0%（5位）と高くなっている。

全ての年代で不満足識が満足意識を上回っており、とりわけ40歳代の不満足識が52.2%と高くなっている。

圏域別でも全ての圏域で不満足識が満足意識を上回っており、とりわけ四日市の不満足識が48.6%と高くなっている。

〔平成10年度との比較〕

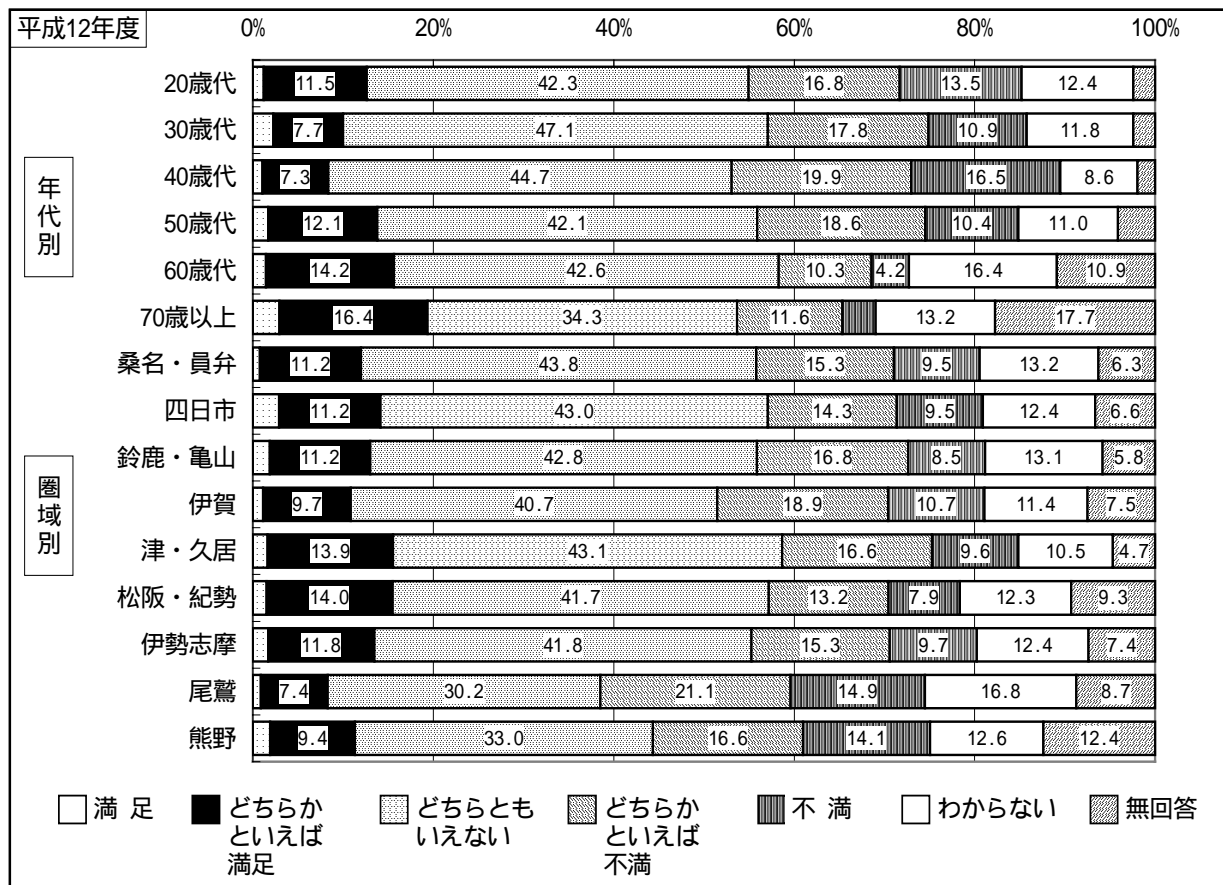
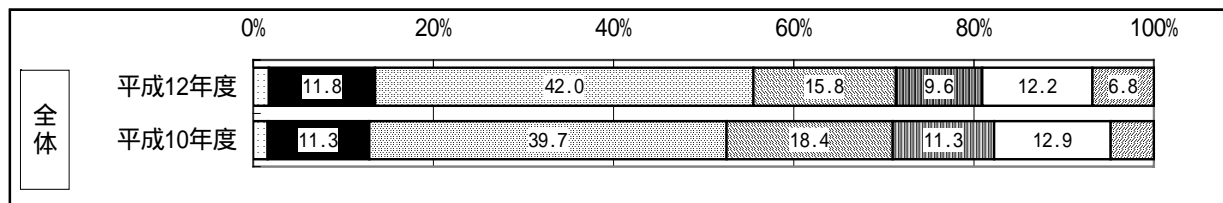
全体の不満足識は、38.3%から43.0%へと4.7ポイント増加している。

年代別では、30歳以上で不満足識が増加している。

圏域別では松阪・紀勢の不満足識が35.8%から46.0%へと10.2ポイント増加したことが目立っている。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
 不満足識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

5) 大学などの高等教育機関の充実



〔平成12年度〕

40歳代の不満意識（36.4%）が最も高く、次いで20歳代（30.3%）、50歳代（29.0%）の順となっている。

圏域別の不満意識では、尾鷲（36.0%）が最も高く、次いで熊野（30.7%）、伊賀（29.6%）の順となっている。

〔平成10年度との比較〕

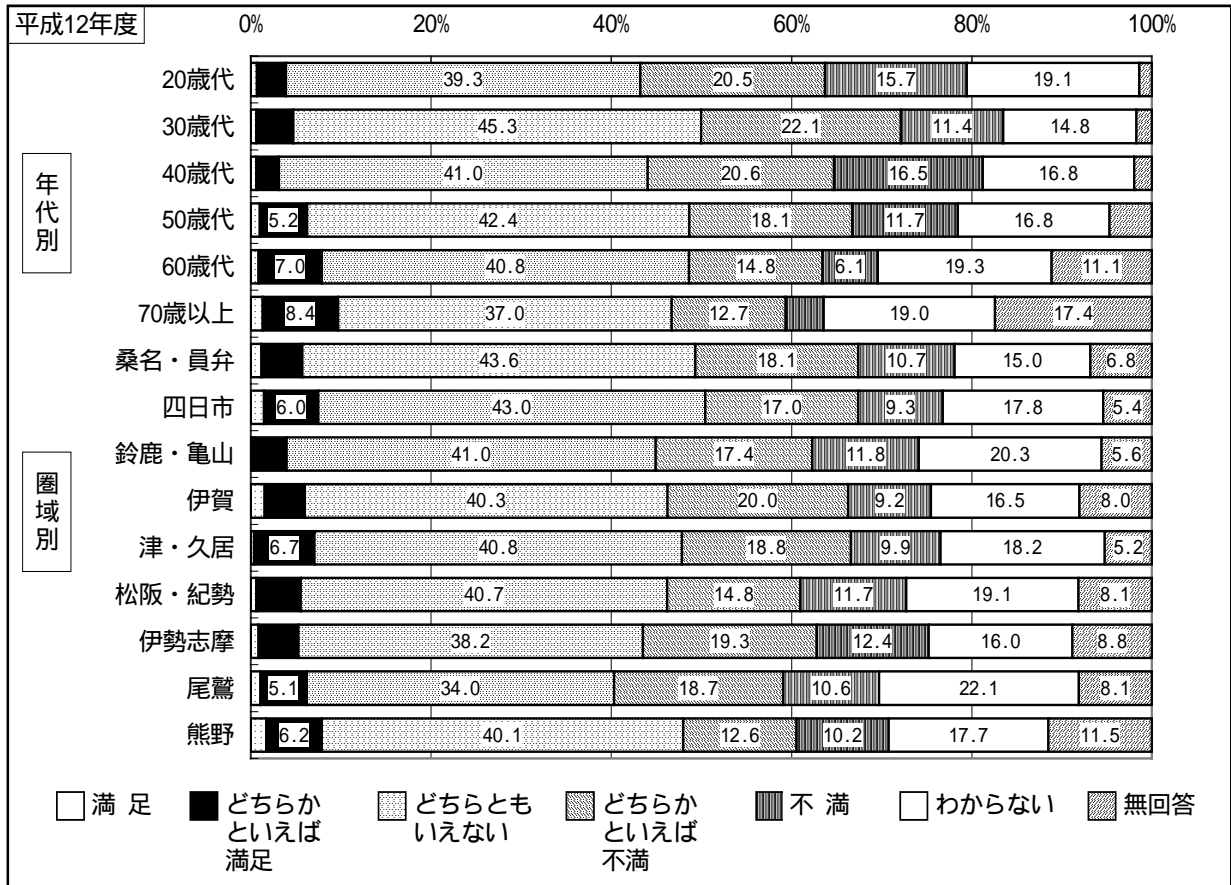
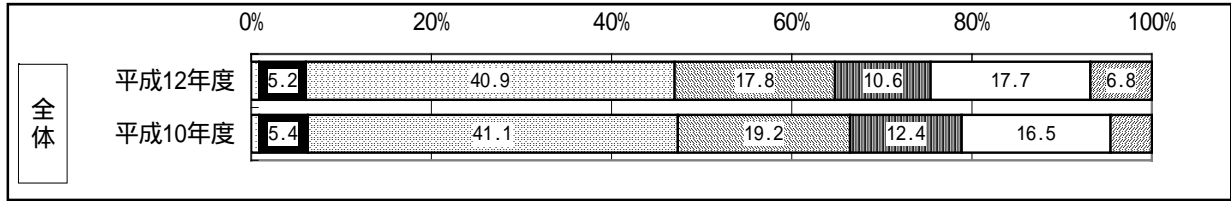
全体の不満意識は、29.7%から25.4%へと4.3ポイント減少している。

年代別では、40歳代以下の年代で不満意識が減少している。

圏域別では、桑名・員弁の不満意識が34.6%から24.8%へと9.8ポイント減少したことが目立っている。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
 不満意識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

6) 職場へのボランティア休暇の導入など、住民が市民活動に参加しやすい条件の整備



〔平成12年度〕

年代別では、40歳代以下で不満意識が高くなっている。

〔平成10年度との比較〕

全体では不満意識が31.6%から28.4%へ3.2ポイント減少している。

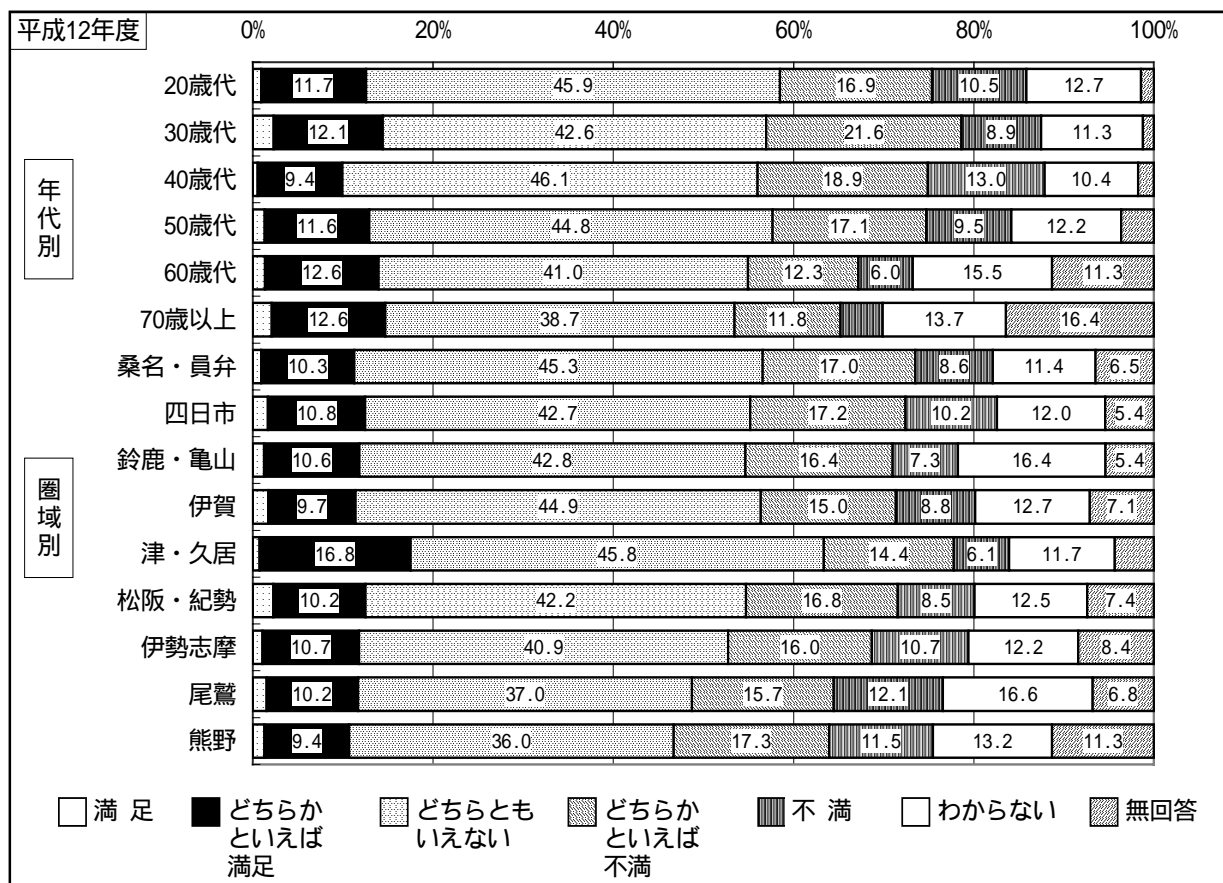
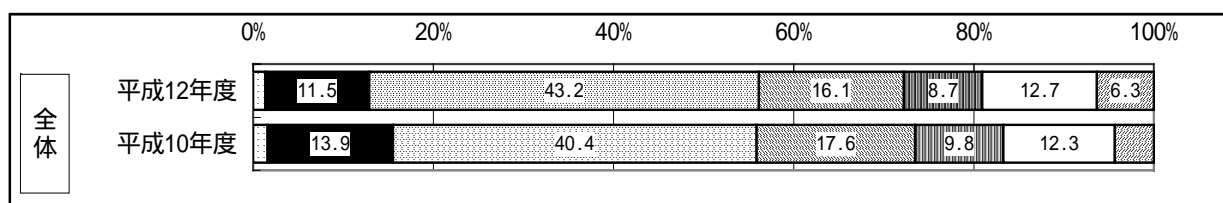
年代別では、50歳代の不満意識が35.9%から29.8%へ6.1ポイント減少している。

圏域別では、鈴鹿・亀山、松阪・紀勢の不満意識が減少している。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
 不満意識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

■文化・スポーツの振興

7) 芸術文化にふれあう機会の提供



〔平成12年度〕

圏域別では、津・久居（17.5%）の満足意識が最も高くなっている。

不満意識が高いのは熊野の28.8%で、次いで尾鷲の27.8%、四日市の27.4%、伊勢志摩の26.7%の順となっている。

〔平成10年度との比較〕

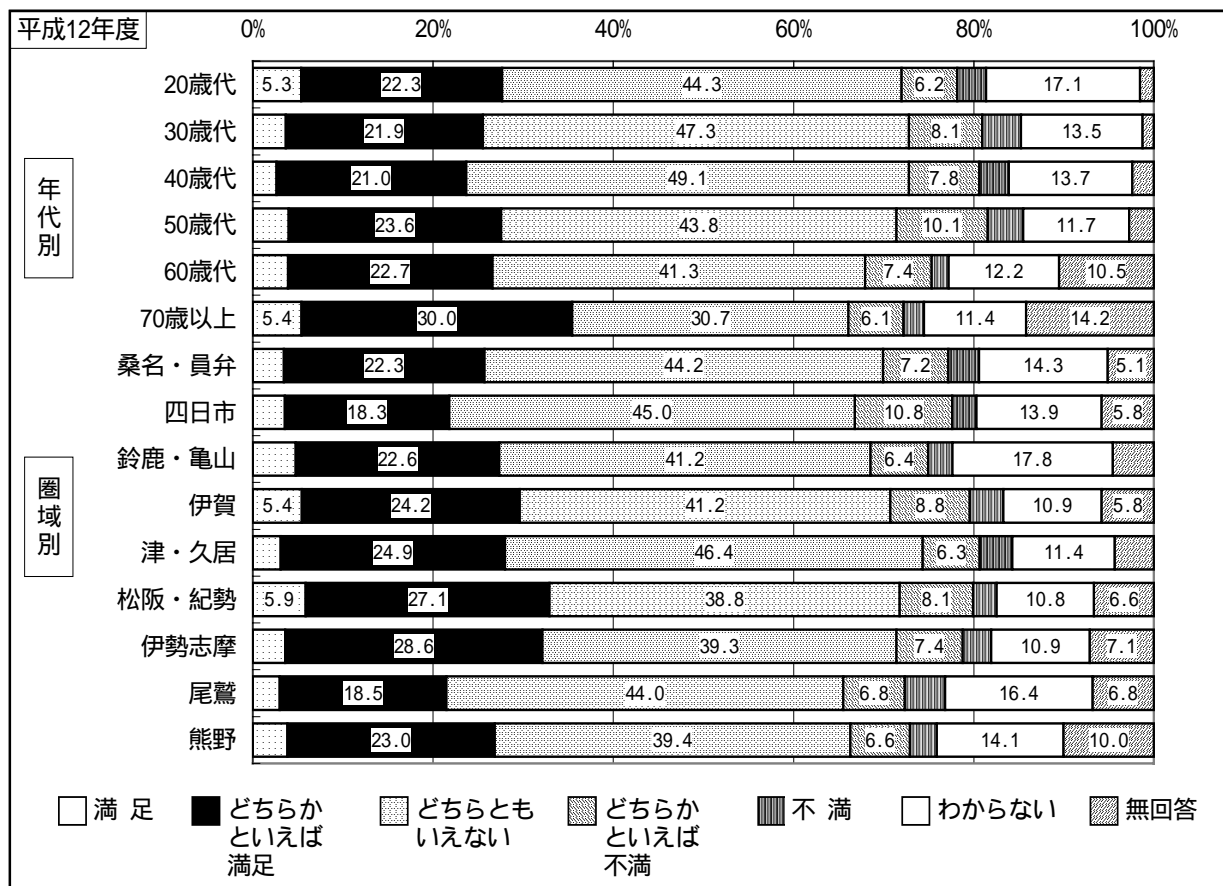
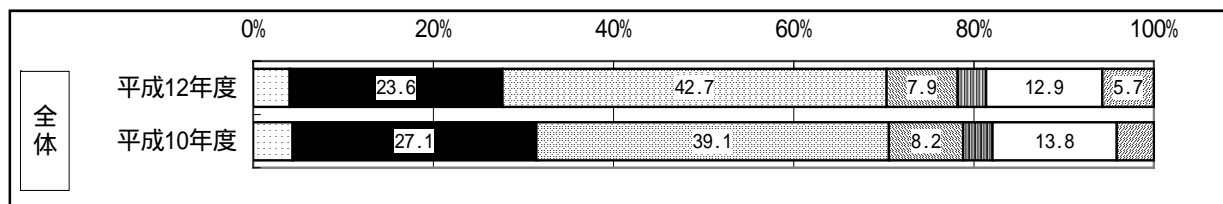
全体の傾向に大きな変化はない。

年代別では、60歳代以上の満足意識が減少している。

圏域別では、尾鷲の不満足意識が33.2%から27.8%へ5.4ポイント減少している。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
 不満意識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

8) 文化遺産、史跡、天然記念物などの保存



〔平成12年度〕

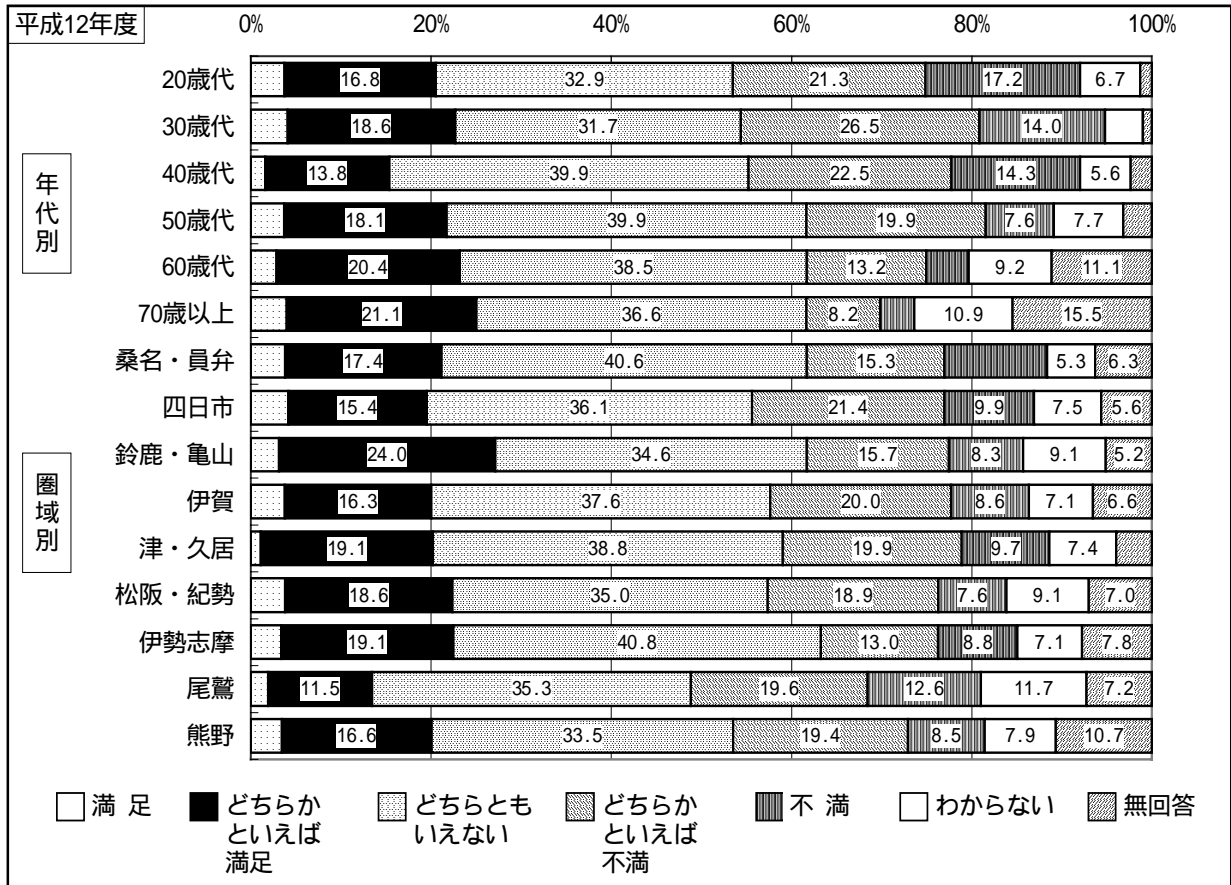
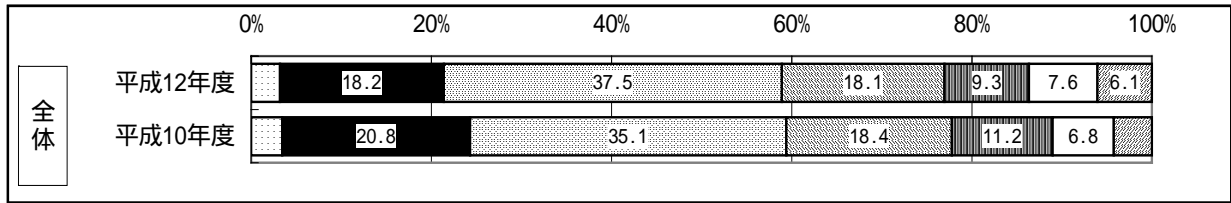
全体では、満足意識が27.7%（2位）と高くなっている。
 全ての年代及び圏域で満足意識が不満意識を上回っている。

〔平成10年度との比較〕

全体では、満足意識が31.5%から27.7%へ3.8ポイント減少している。
 年代別では、60歳代の満足意識が、35.1%から26.6%へ8.5ポイント減少している。
 圏域別では、桑名・員弁、鈴鹿・亀山、伊賀の満足意識が減少している。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
 不満意識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

9) スポーツ・レクリエーション施設の整備



〔平成12年度〕

全体では、満足意識が 21.4% (3位) と高くなっている。しかし、20歳代～50歳代は不満意識が満足意識を上回っており、中でも20歳代 38.5%、30歳代 40.5% と不満意識が高くなっている。

圏域別では、鈴鹿・亀山のみが満足意識が不満意識を 3.1ポイント上回っている。

〔平成10年度との比較〕

全体の傾向に大きな変化はない。

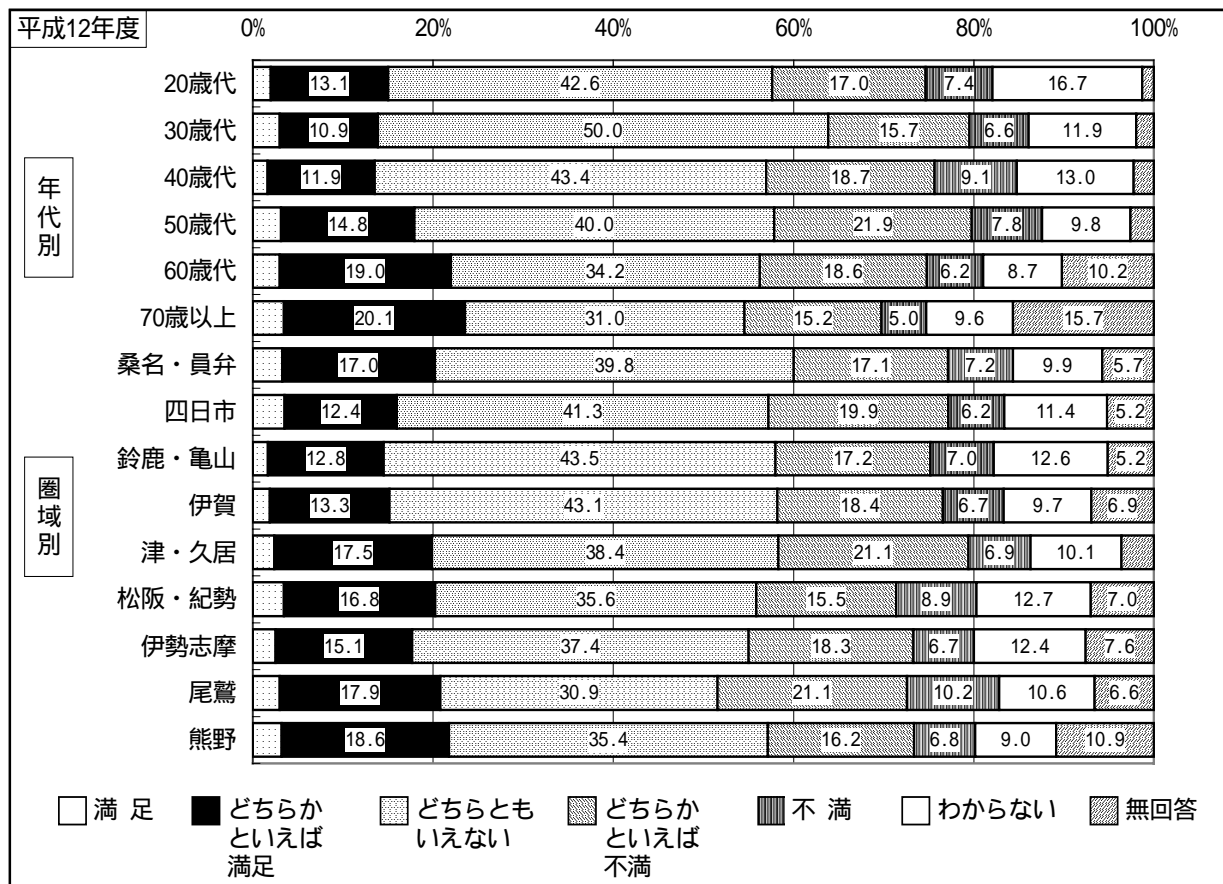
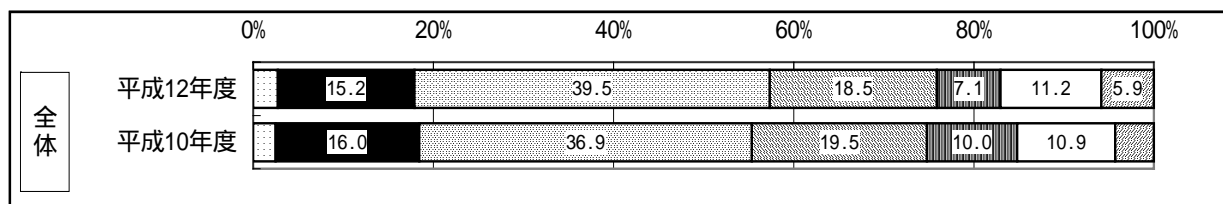
20歳代の不満意識が 46.2% から 38.5% へ 7.7ポイント減少している。一方、40歳代、60歳代の満足意識が減少している。

圏域別では、桑名・員弁、伊勢志摩の不満意識が減少している。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
 不満意識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

■安全な生活の確保

10) 防災対策への取り組み



〔平成12年度〕

全体では、満足意識が17.9%（5位）と高くなっている。

年代別では、50歳代以上では、年代が上がるに従っておおむね満足意識が高くなっている。

圏域別では、熊野の満足意識が最も高く（21.8%）、不満意識が最も低い（23.0%）。

〔平成10年度との比較〕

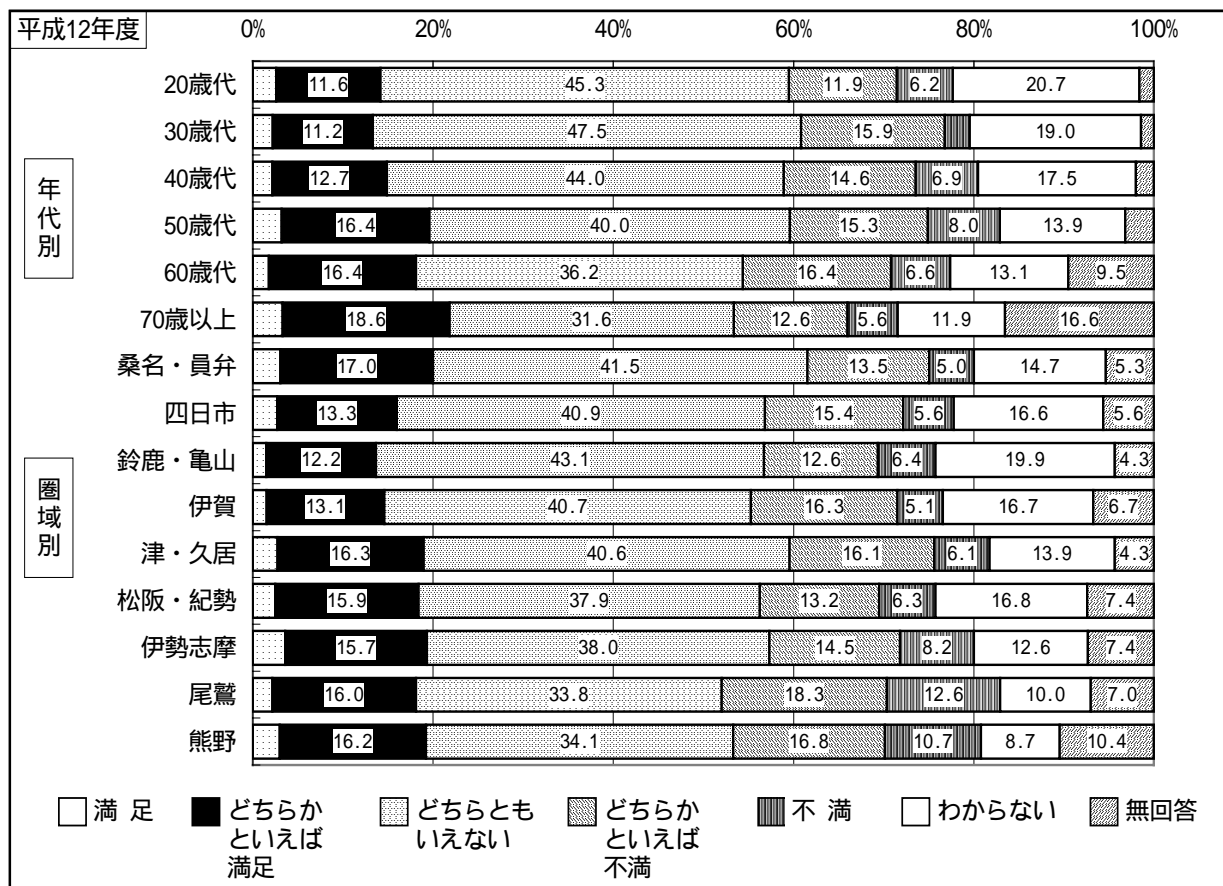
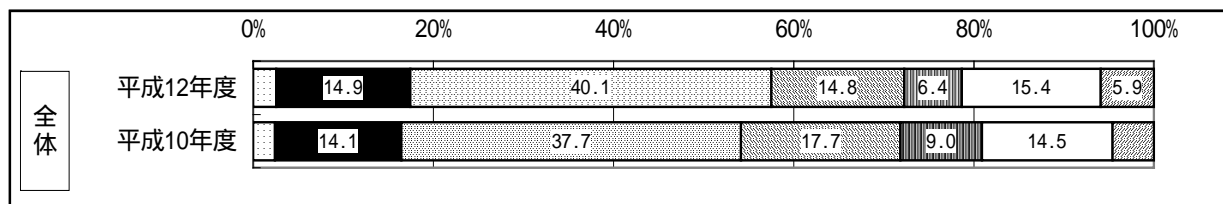
全体では、不満意識が29.5%から25.6%へと3.9ポイント減少している。

年代別では、30歳代、40歳代の不満意識が減少している。

圏域別では、松阪・紀勢、伊勢志摩、熊野の不満意識が減少し、尾鷲の満足意識が増加している。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
 不満意識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

11) 洪水や高潮、土砂災害などへの対策



〔平成12年度〕

圏域別では、尾鷲と熊野の不満足識がそれぞれ30.9%、27.5%と特に高くなっている。

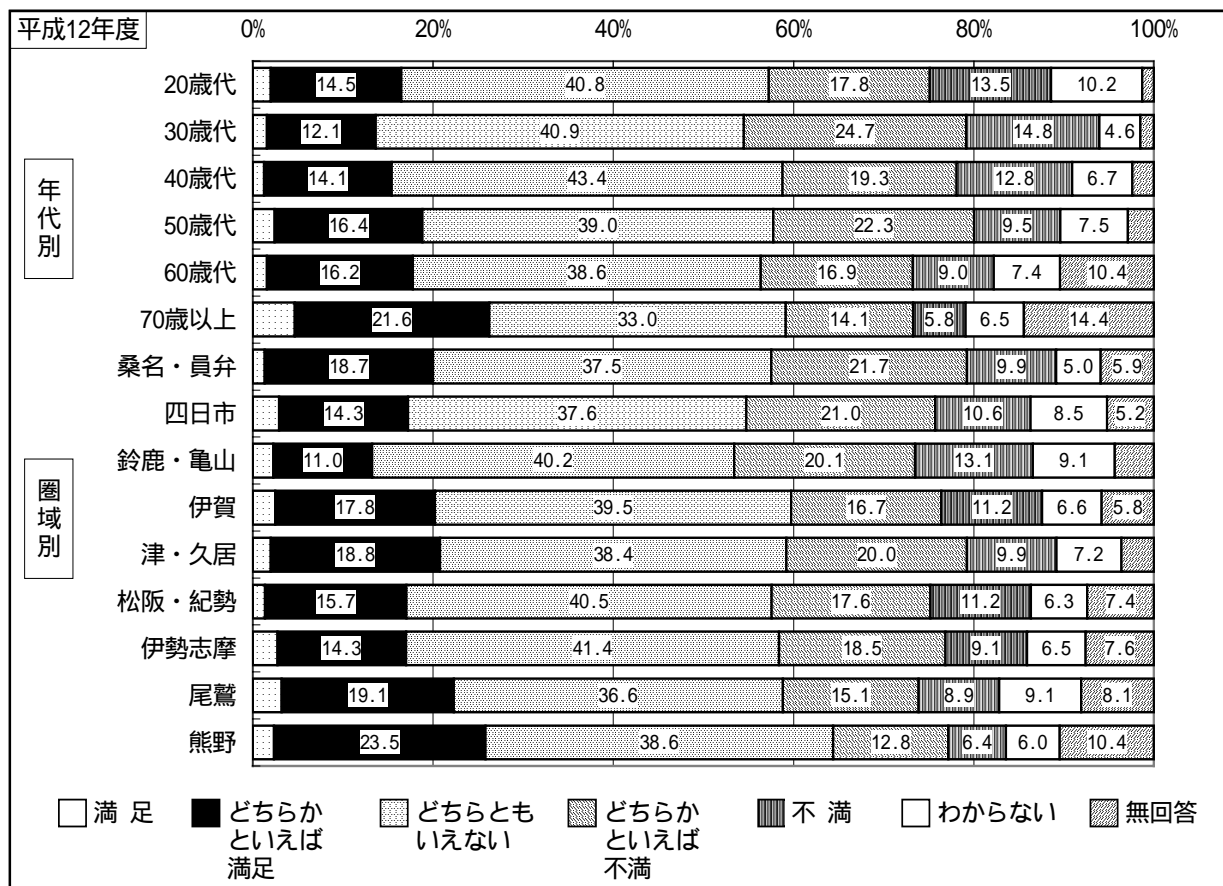
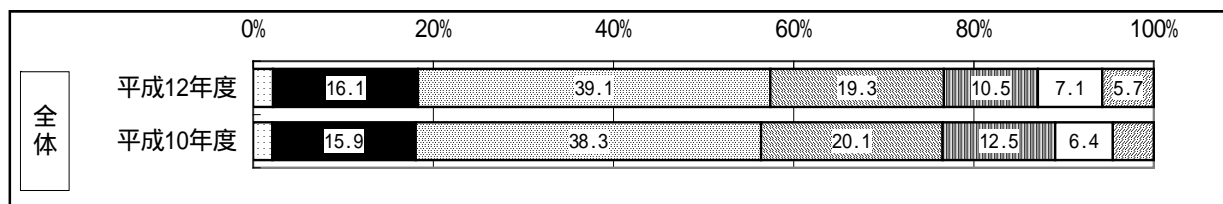
〔平成10年度との比較〕

全体では、不満足識が26.7%から21.2%へ5.5ポイント減少している。

年齢別、圏域別でも、おおむね不満足識が減少している。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
不満足識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

12) 交通安全対策の推進



〔平成12年度〕

全体では、満足意識が18.3%（4位）と高くなっている。

圏域別の不満意識では、鈴鹿・亀山（33.2%）、桑名・員弁（31.6%）、四日市（31.6%）が高い。

年代別では、70歳代以上の満足意識が特に高くなっている。

〔平成10年度との比較〕

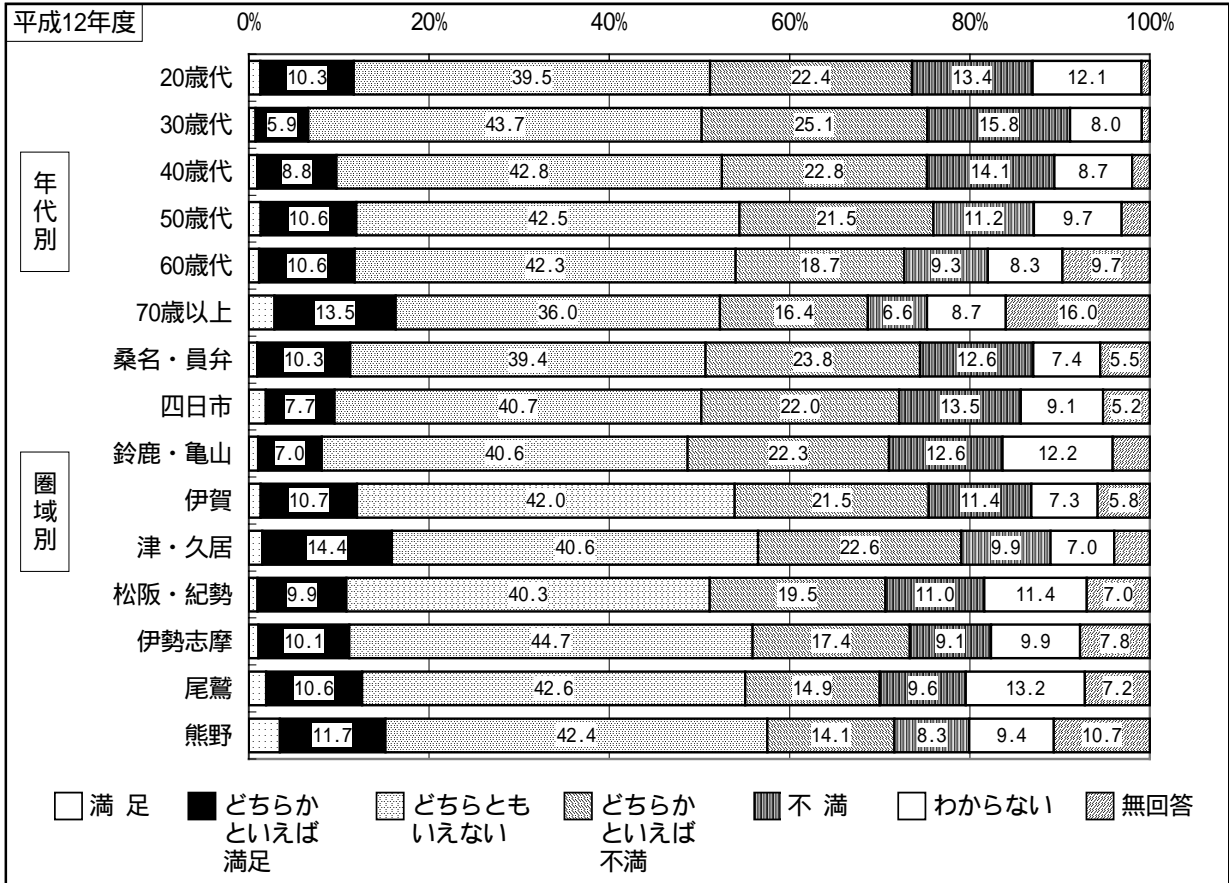
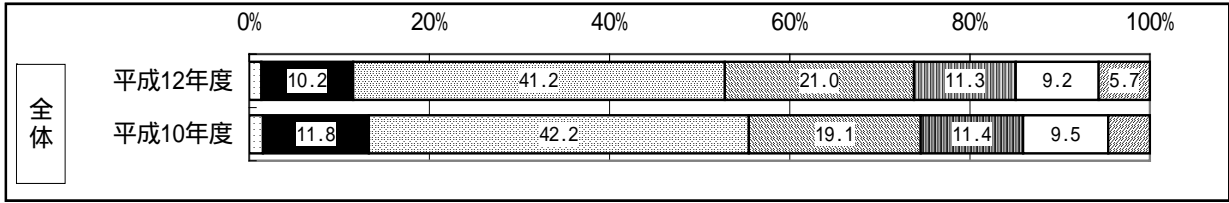
全体の傾向に大きな変化はない。

年代別では、40歳代の不満意識が38.1%から32.1%へ6.0ポイント減少している。

圏域別では、松阪・紀勢、熊野の不満意識が減少している。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
 不満意識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

13) 防犯活動の強化



〔平成12年度〕

年代別では不満足識は、30歳代が40.9%と最も高い。

圏域別では、桑名・員弁の不満足識が最も高く（36.4%）、熊野が最も低い（22.4%）。県北部ほど不満足識が高い。

〔平成10年度との比較〕

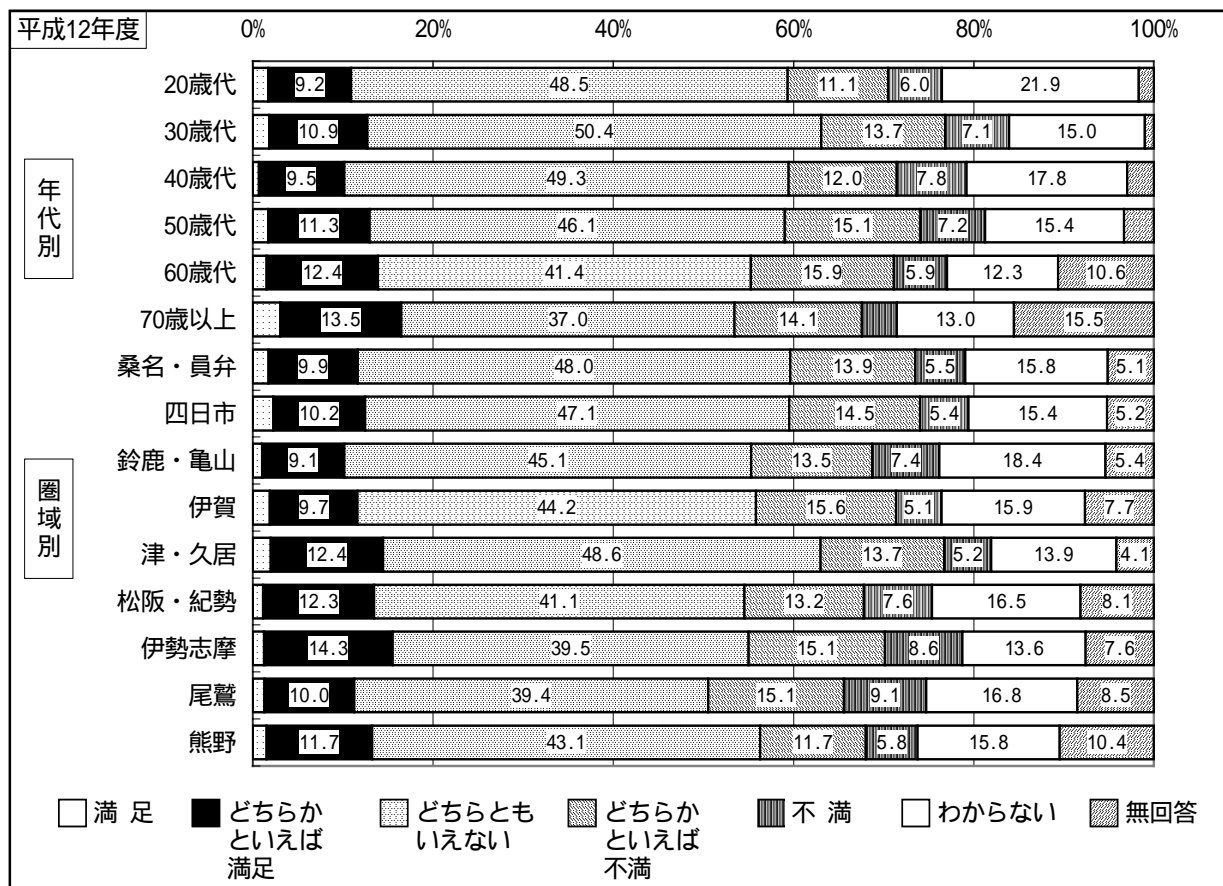
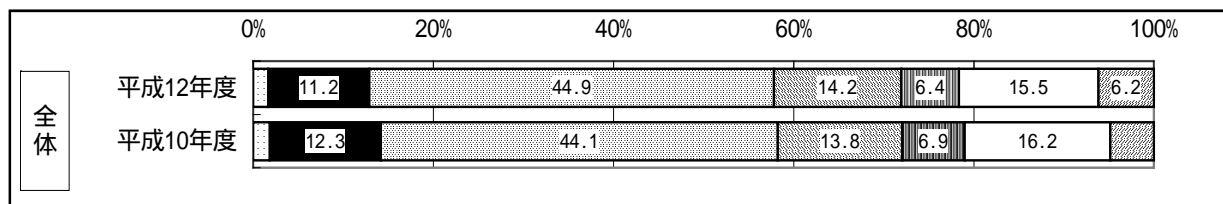
全体の傾向に大きな変化はない。

年代別では、30歳代の不満足識が35.2%から40.9%へ5.4ポイント増加している。

圏域別では、桑名・員弁の不満足識が30.8%から36.4%へ5.6ポイント増加している。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
不満足識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

14) 食品の安全性確保のための衛生管理指導体制の整備



〔平成12年度〕

全体では「どちらともいえない」(44.9%)、「わからない」(15.5%)という回答を合わせると60.4%と高くなっている。

年代別、圏域別による大きな意識の差はない。

〔平成10年度との比較〕

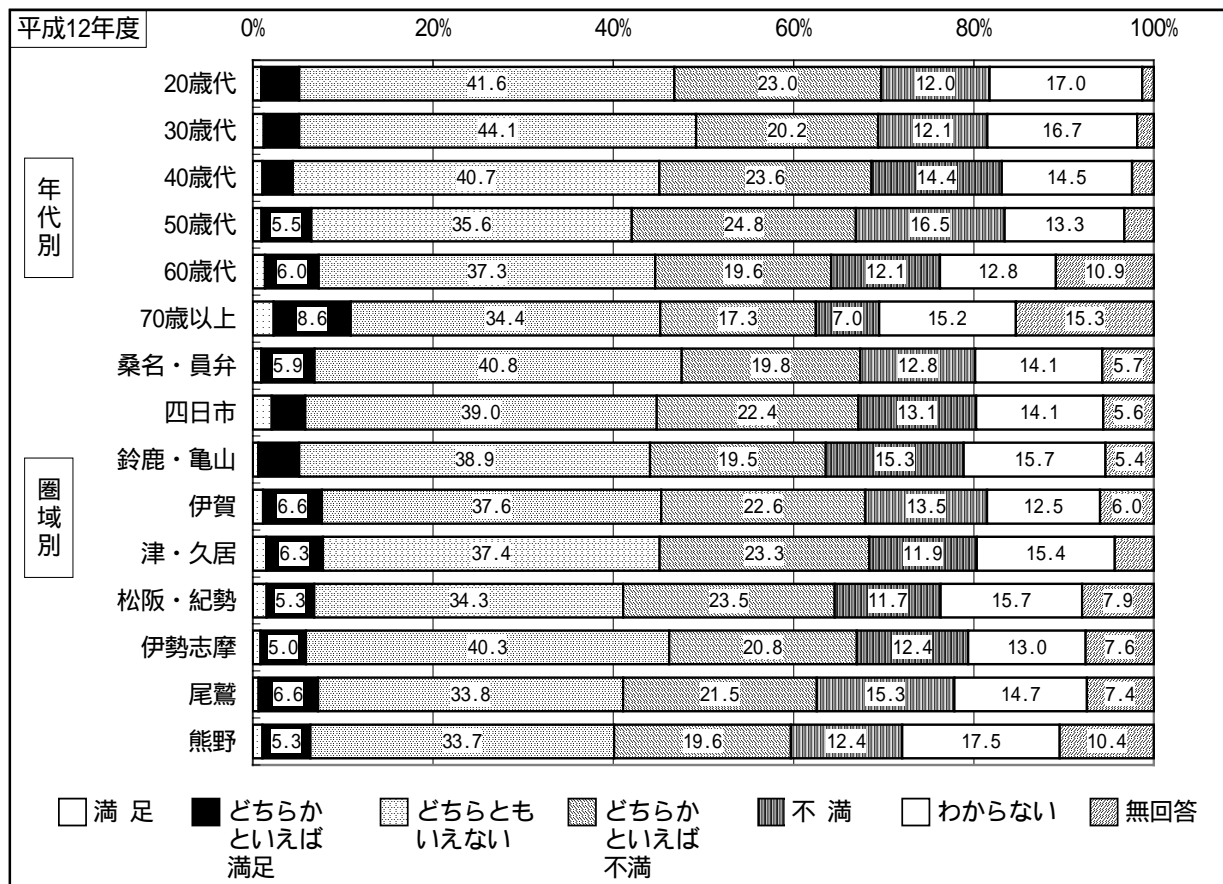
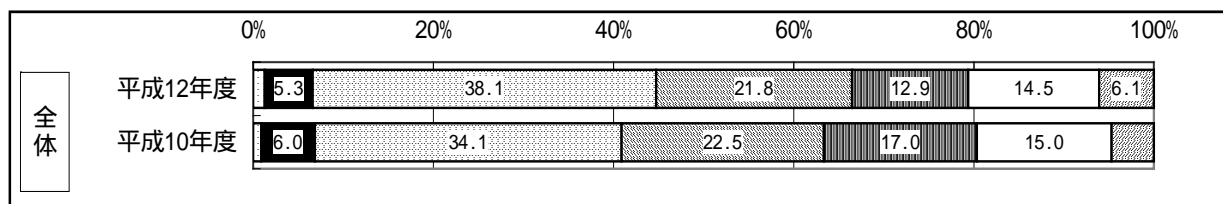
全体の傾向に大きな変化はない。

年代別では、20歳代の不満意識が23.4%から17.1%へ6.3ポイント減少した。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
 不満意識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

■ 健やかな生活の確保

15) 高齢者や障害者の就労条件などの整備



〔平成12年度〕

年代別では、50歳代の不満意識が41.3%と最も高い。

〔平成10年度との比較〕

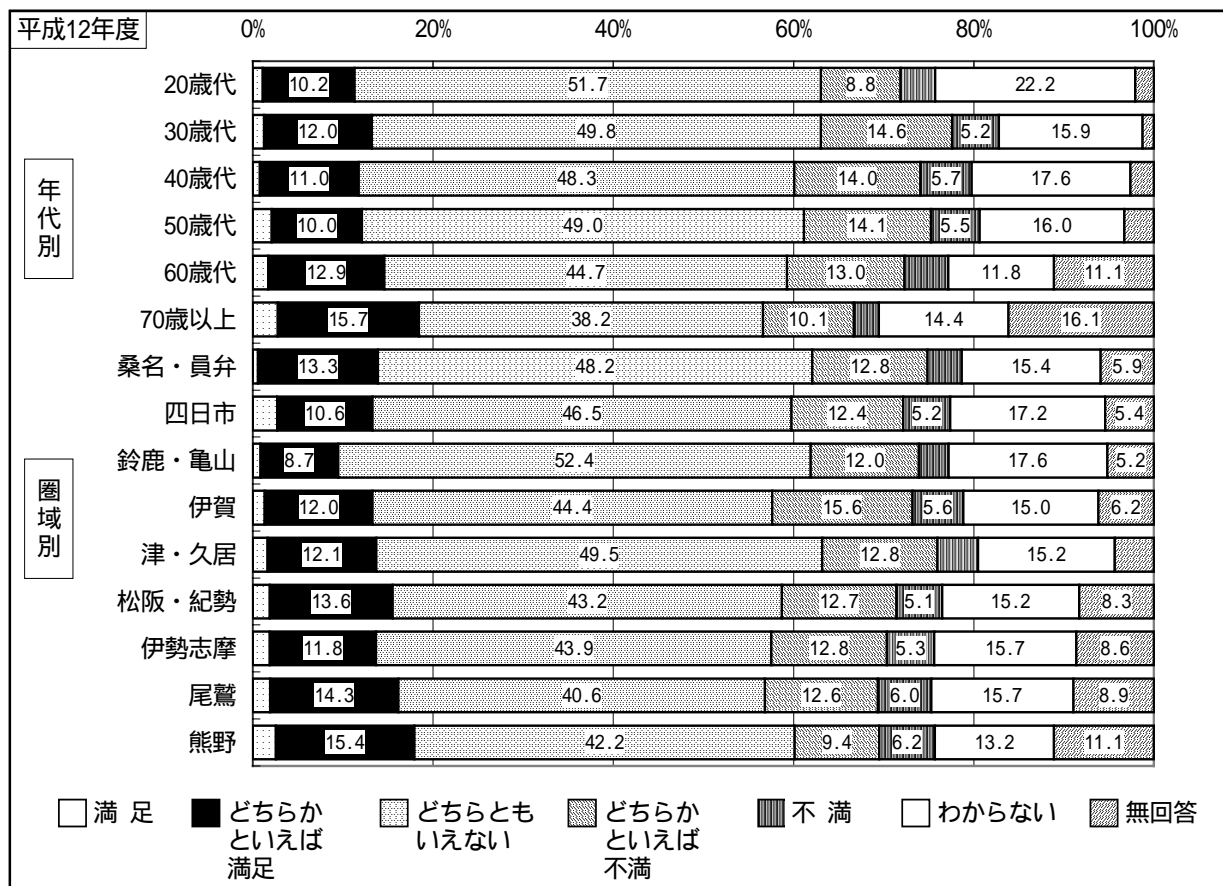
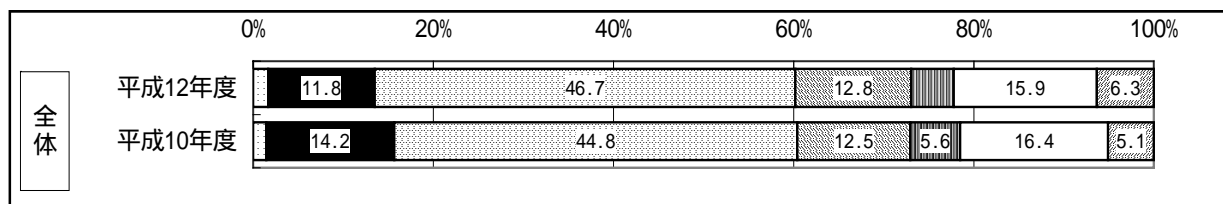
全体の不満意識は、39.5%から34.7%へ4.8ポイント減少している。

年代別では、30歳代、40歳代、50歳代の不満意識が減少している。

圏域別では、桑名・員弁、鈴鹿・亀山、松阪・紀勢、伊勢志摩の不満意識が減少している。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
 不満意識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

16) 生活習慣病や感染症の予防など保健予防体制の確保



〔平成12年度〕

全体では「どちらともいえない」(46.7%)、「わからない」(15.9%)という回答を合わせると62.6%と高くなっている。

〔平成10年度との比較〕

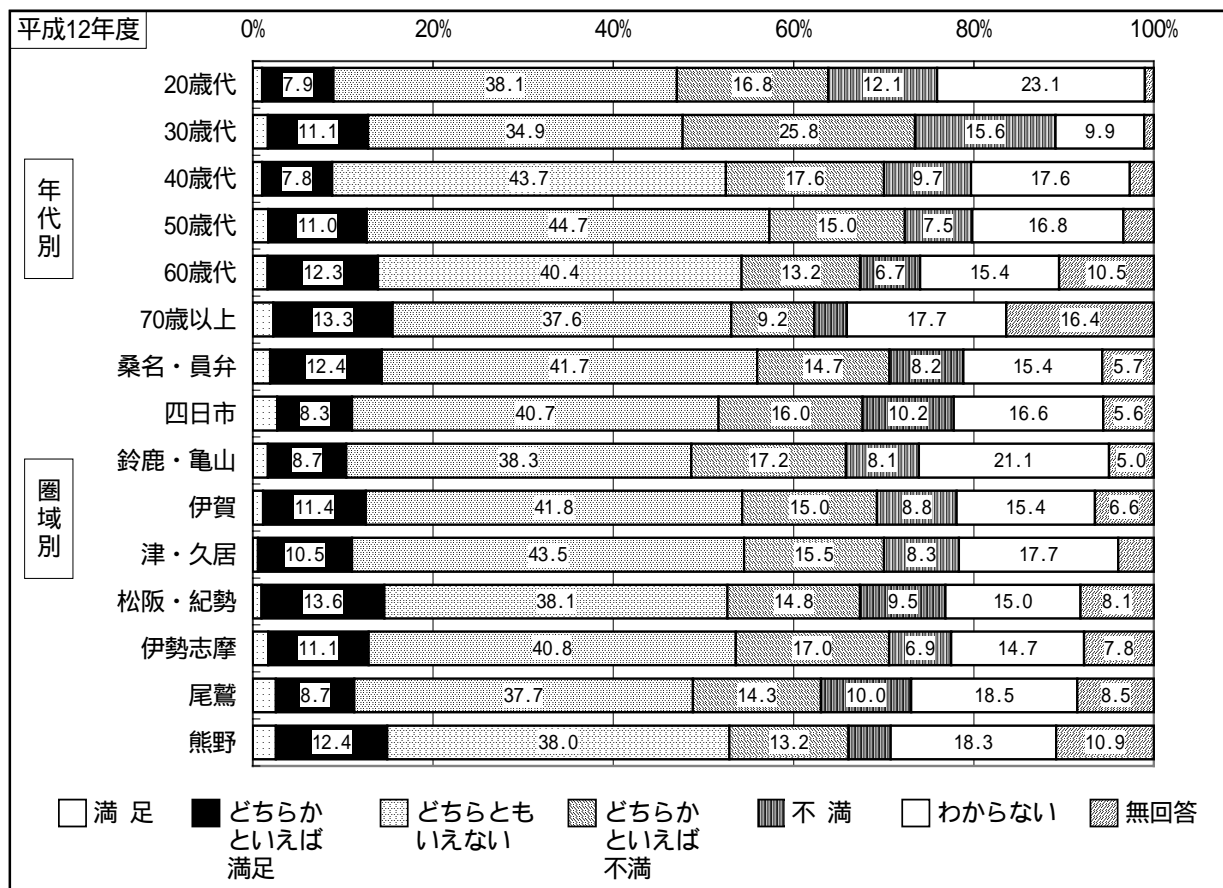
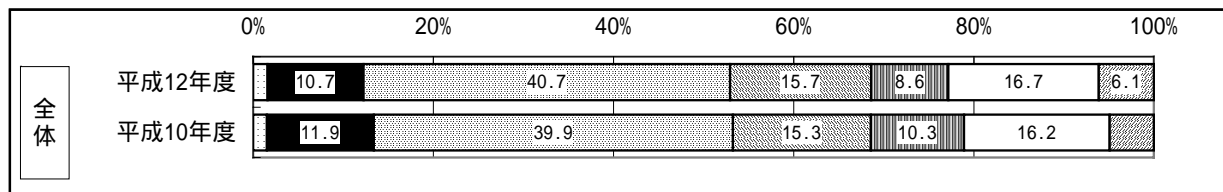
全体の傾向に大きな変化はない。

年代別では、20歳代の不満意識が減少した一方、60歳代、70歳以上で満足意識が減少している。

圏域別では、鈴鹿・亀山、伊勢志摩の満足意識が減少している。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
 不満意識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

17) 母子保健対策、保育サービスなど子育て環境の整備



〔平成12年度〕

30歳代の不満意識が41.4%と最も高く、次に20歳代が28.9%、40歳代が27.3%となっている。

圏域別の不満意識は、四日市が26.2%と最も高く、次に鈴鹿・亀山が25.3%となっている。

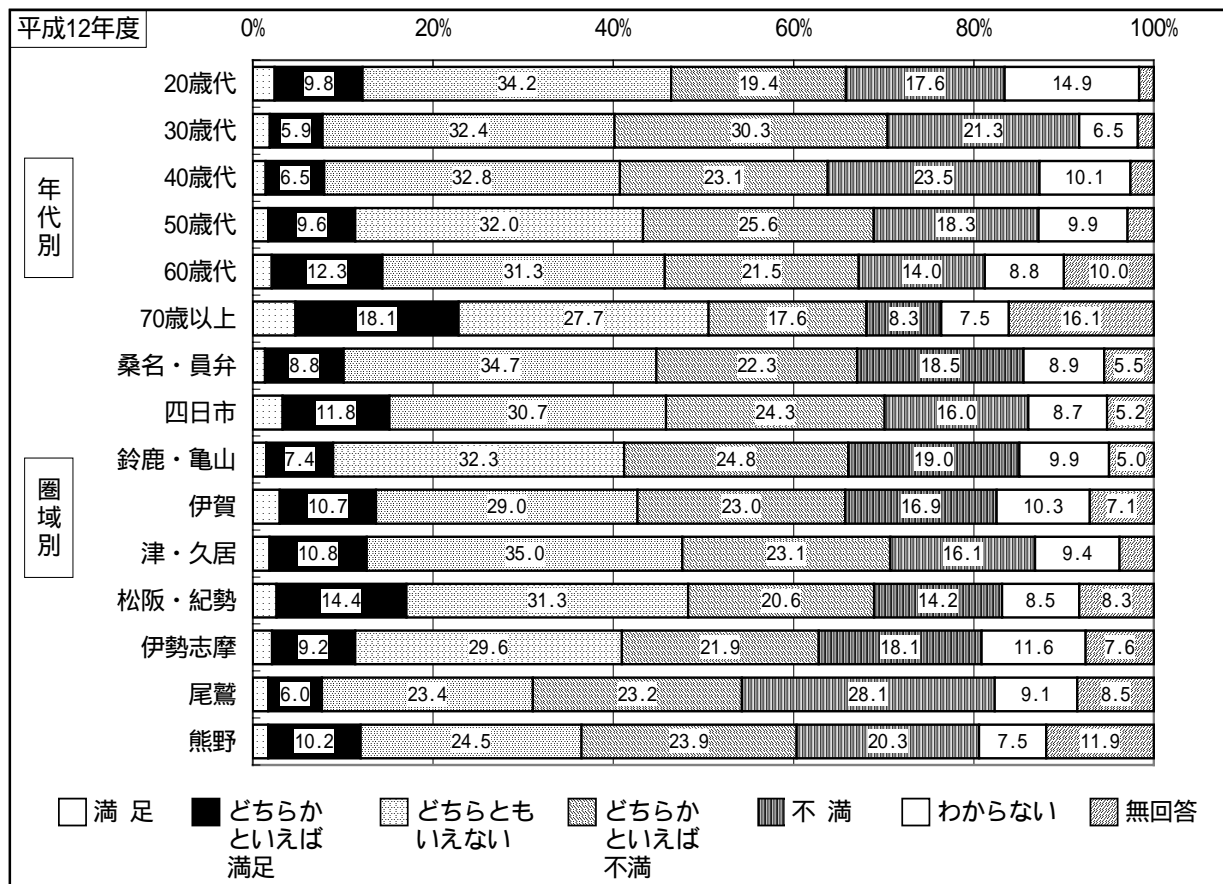
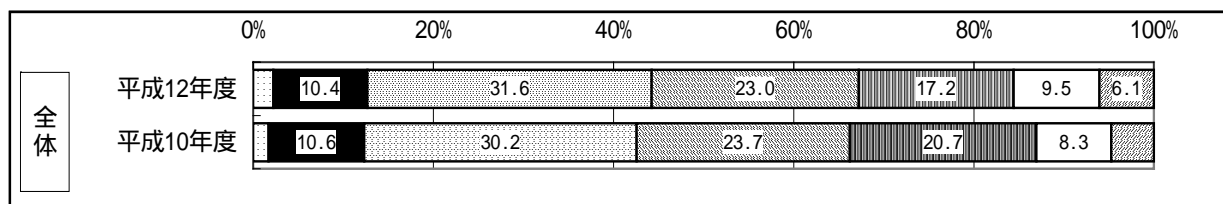
〔平成10年度との比較〕

全体の傾向に大きな変化はない。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
 不満意識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

■安心できる生活の確保

18) 病状に応じて、適切な医療が受けられる患者本位の医療体制の確保



〔平成12年度〕

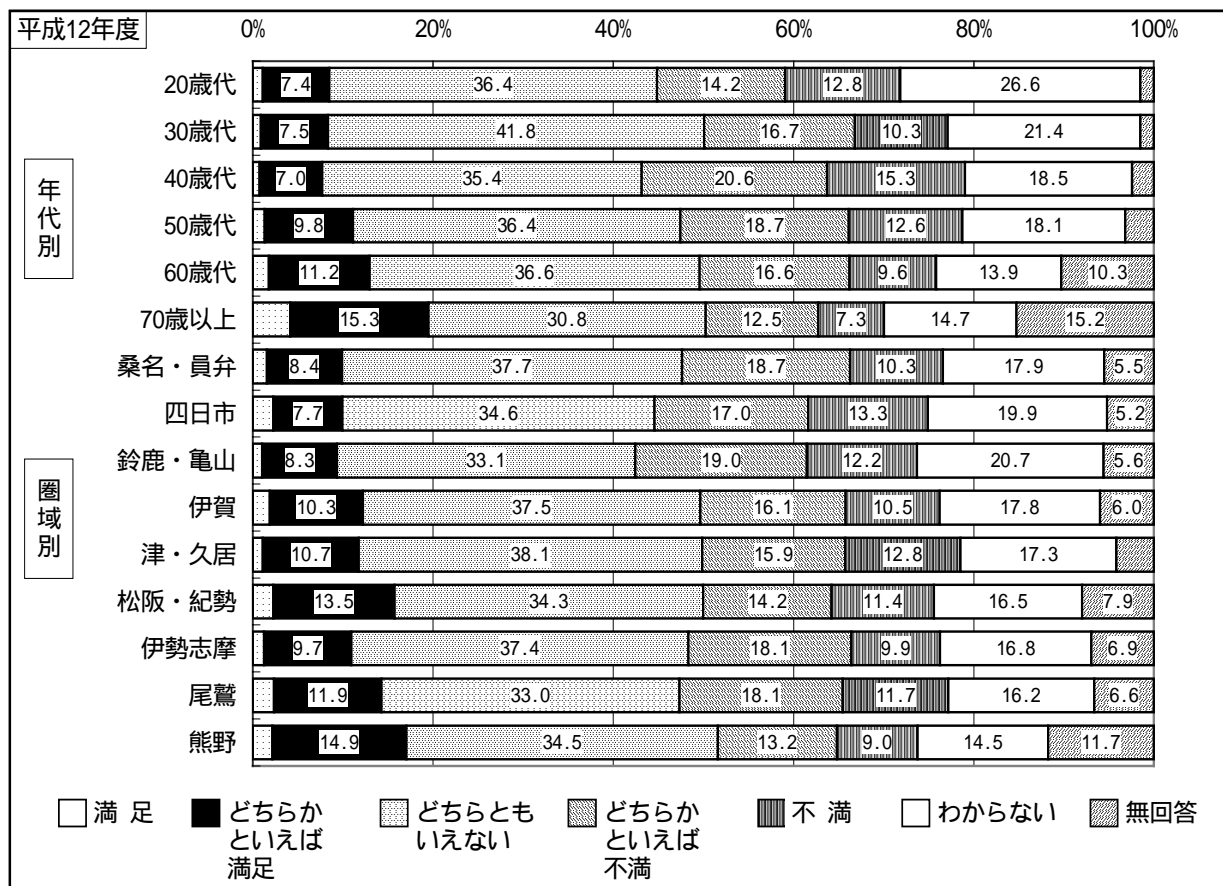
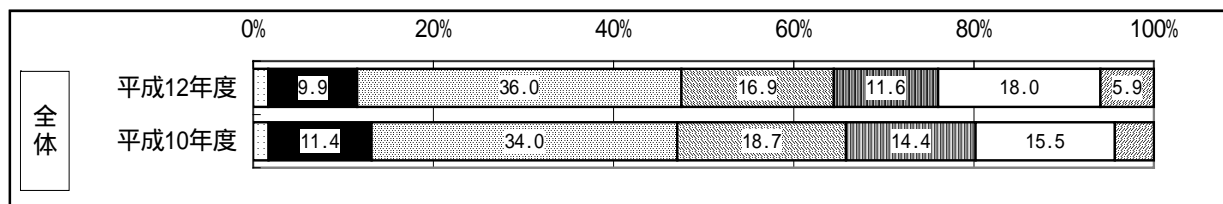
不満足意識が全体的に高く（40.2%）、特に30歳代（51.6%）が50%を超えている。
 圏域別の不満足意識では、尾鷲（51.3%）が高くなっている。

〔平成10年度との比較〕

全体の不満足意識は、44.4%から40.2%へ4.2ポイント減少した。
 年代別では、20歳代、40歳代の不満足意識が減少している。とりわけ、20歳代の不満足意識は、48.7%から37.0%へ11.7ポイント減少したことが目立っている。
 圏域別では、桑名・員弁、松阪・紀勢の不満足意識が減少している。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
 不満足意識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

19) 訪問介護など保健・福祉サービスの提供



〔平成12年度〕

年代別の不満意識では40歳代が最も高く（35.9%）になっている。

圏域別の不満意識は、鈴鹿・亀山が最も高く（31.2%）次に四日市（30.3%）となっている。

〔平成10年度との比較〕

全体の不満意識は、33.1%から28.5%へ4.6ポイント減少した。

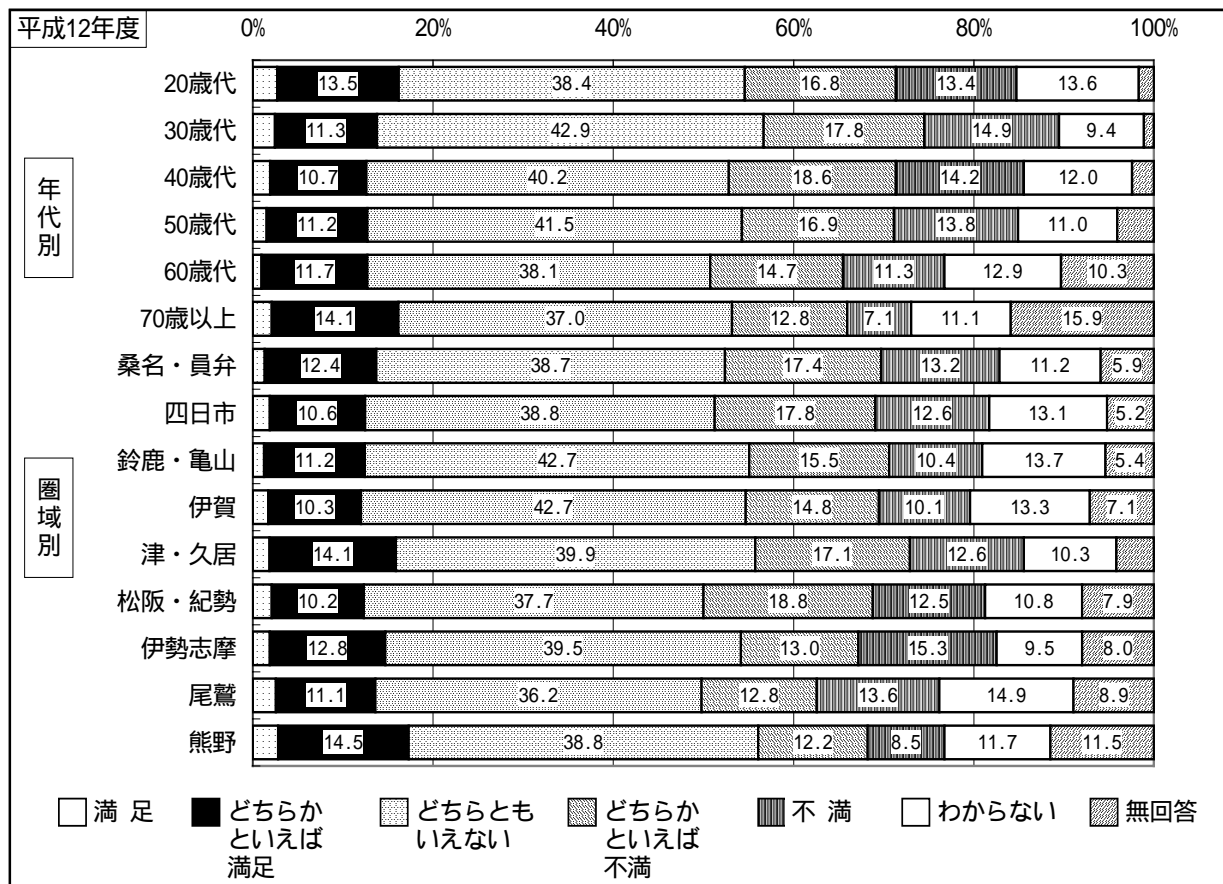
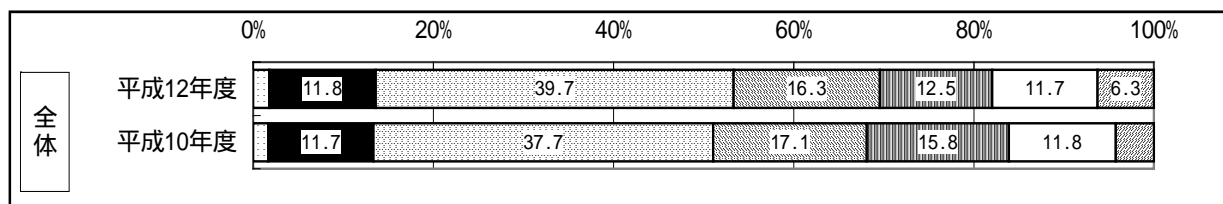
年代別では、20歳代、30歳代、50歳代の不満意識が減少している。

圏域別では、四日市、鈴鹿・亀山、松阪・紀勢、熊野の不満意識が減少している。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
 不満意識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

■自然との共生の確保

20) 自然環境の保全



〔平成12年度〕

年代別では、50歳代以下の不満足意識が高くなっている。

圏域別の不満足意識は、松阪・紀勢が最も高く（31.3%）、熊野が最も低い（20.7%）

〔平成10年度との比較〕

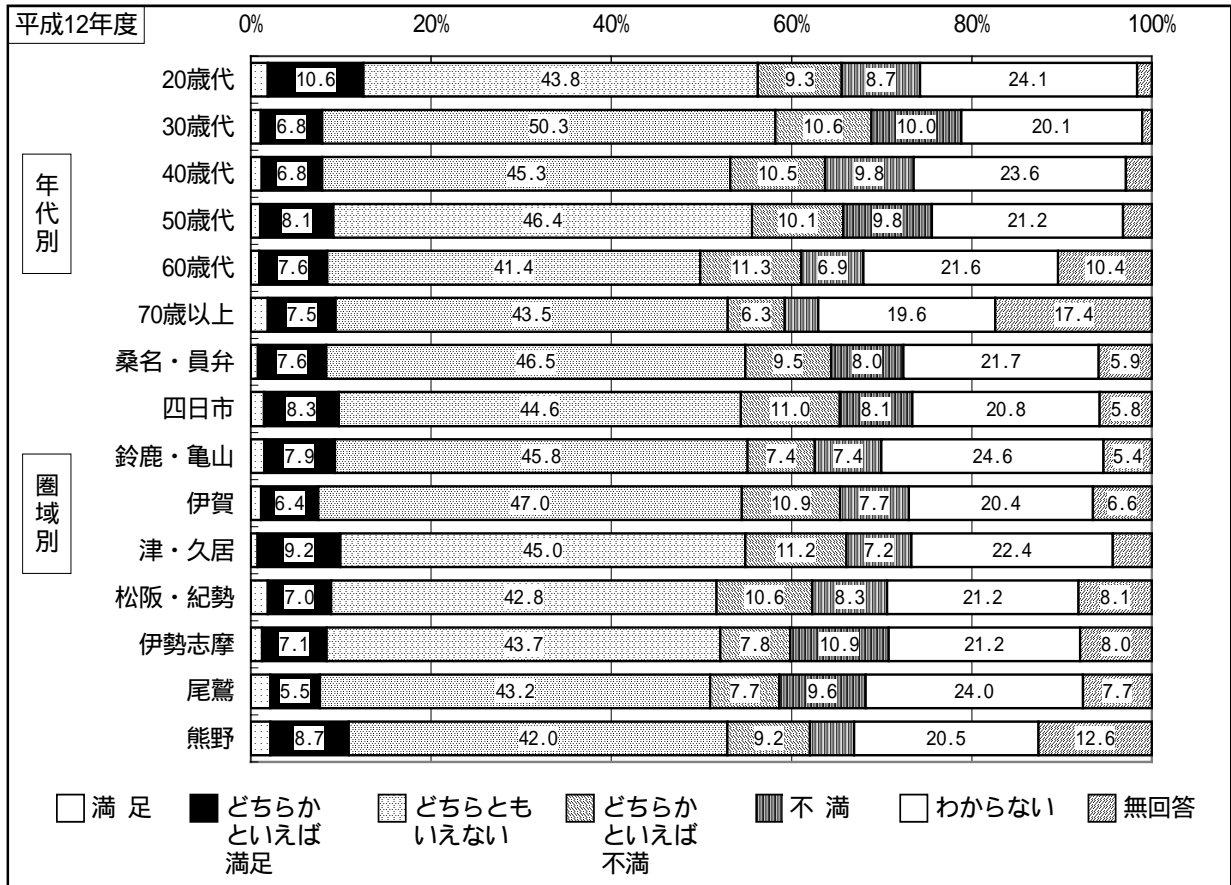
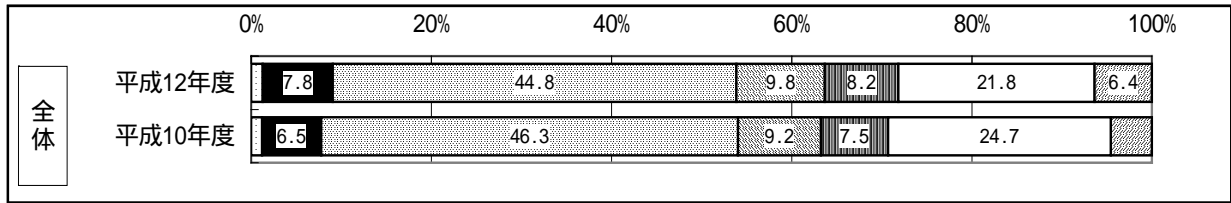
全体の不満足意識は32.9%から28.8%へ4.1ポイント減少した。

年代別では、20歳代の不満足意識が40.7%から30.2%へ10.5ポイント減少したことが目立っている。

圏域別では、四日市、鈴鹿・亀山、尾鷲、熊野の不満足意識が減少したほか、津・久居の満足意識が増加している。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえれば満足」と答えた人の率の計
不満足意識とは、「不満」「どちらかといえれば不満」と答えた人の率の計

21) 希少な野生生物の保護



〔平成12年度〕

全体では「どちらともいえない」(44.8%)、「わからない」(21.8%)を合わせて66.6%と高くなっている。

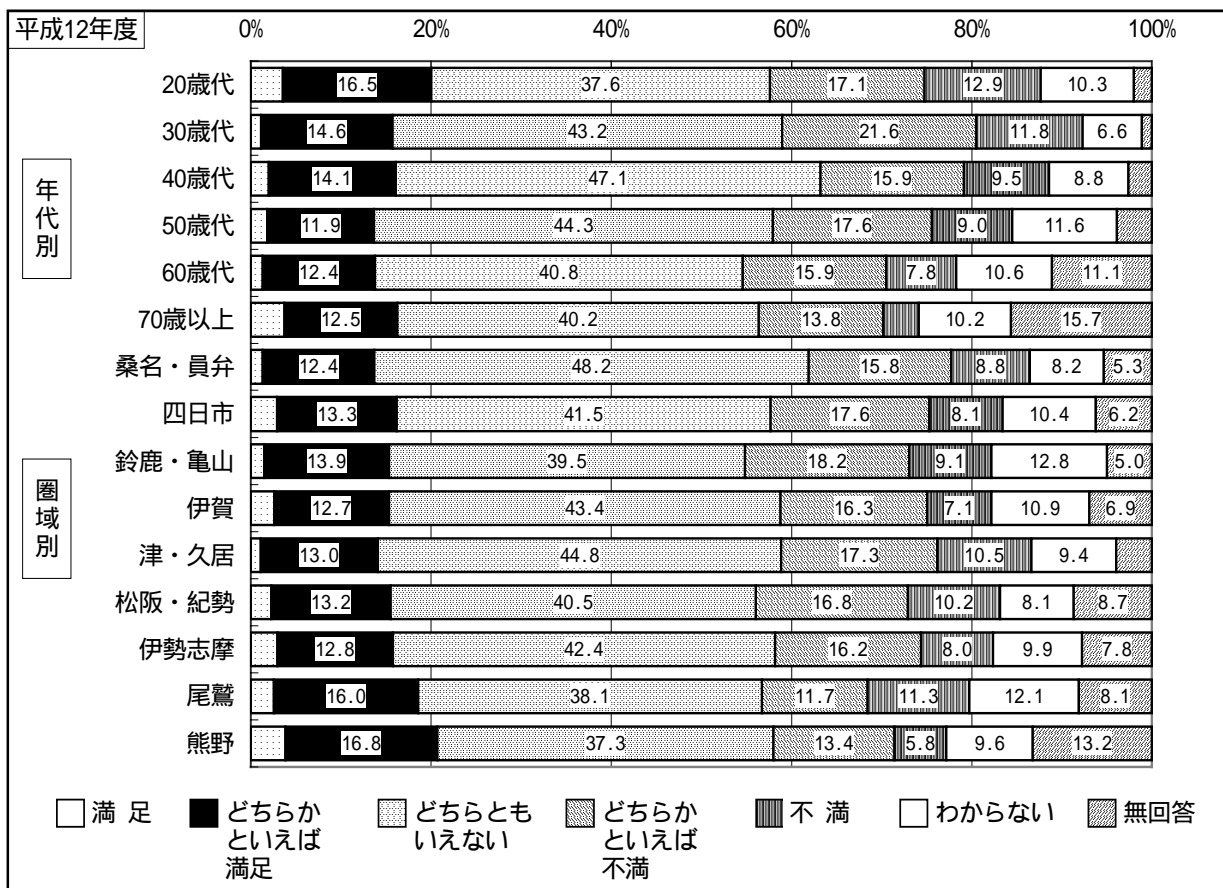
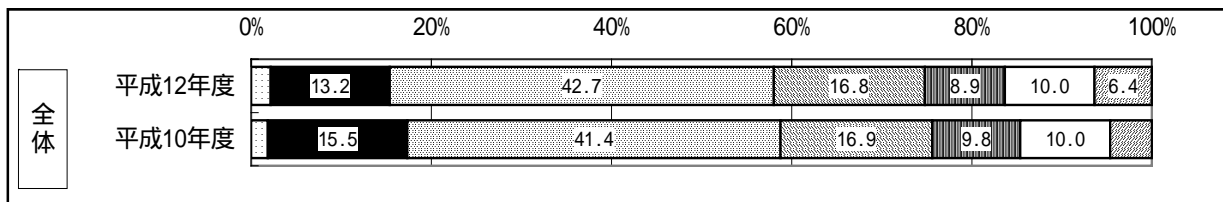
年代別、圏域別による大きな意識の差はない。

〔平成10年度との比較〕

全体の傾向に大きな変化はない。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
 不満意識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

22) 自然に親しむ場の整備



〔平成12年度〕

年代別の不満意識は30歳代が33.4%で最も高く、70歳以上が17.7%と最も低い。
 圏域別の不満意識は、津・久居が27.8%と最も高く、熊野が19.2%と最も低い。

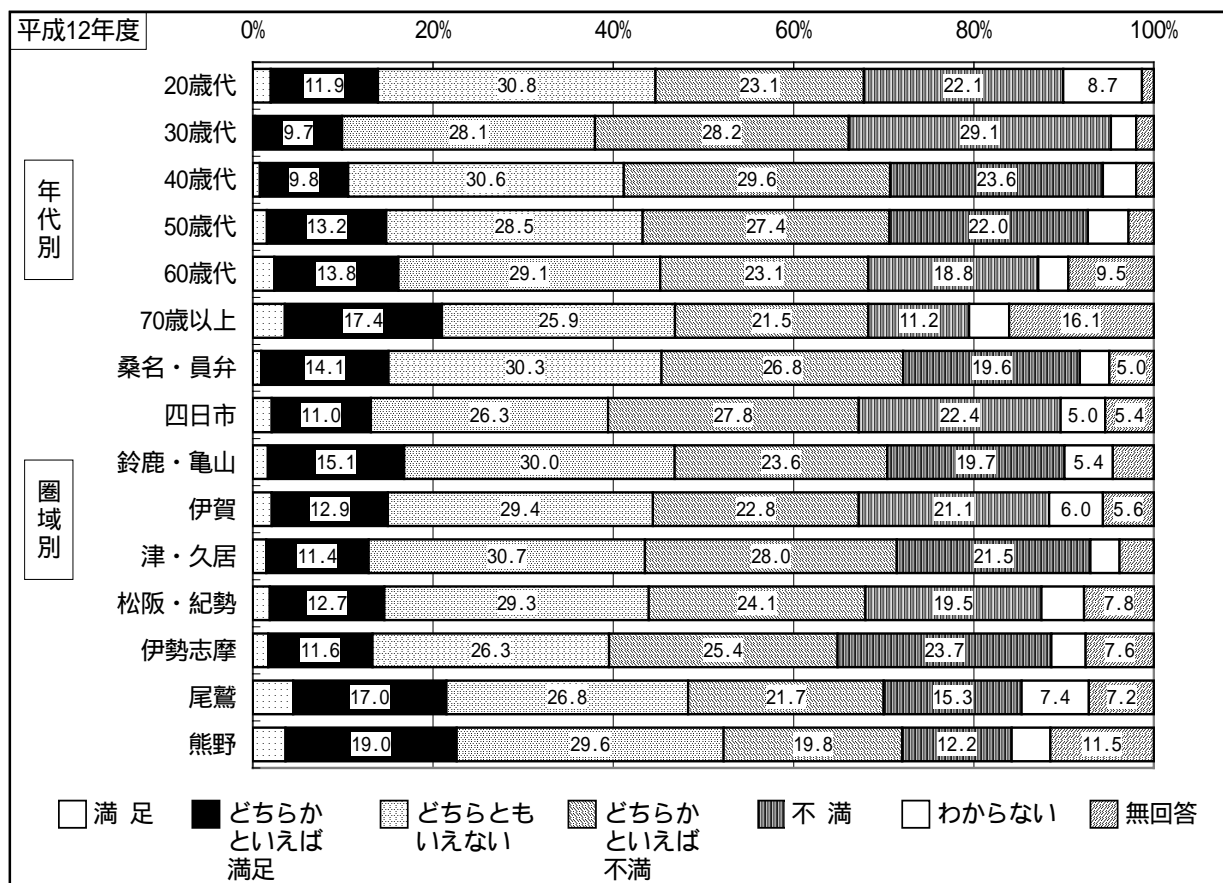
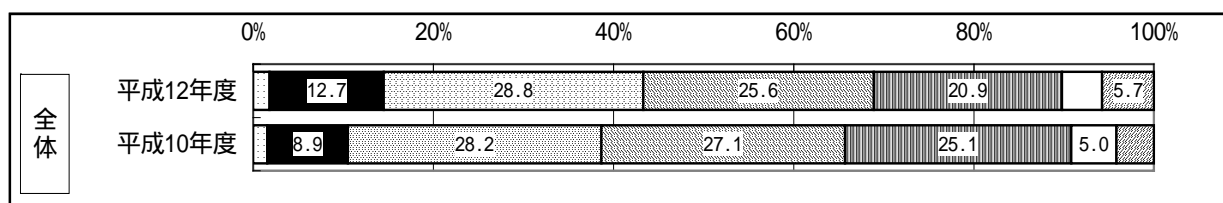
〔平成10年度との比較〕

年代別では、20歳代の不満意識が35.2%から30.0%へ5.2ポイント減少した。
 圏域別では、松阪・紀勢の満足意識が21.0%から15.5%へ5.5ポイント減少した。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
 不満意識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

■資源循環型社会の構築

23) ごみの減量化



〔平成12年度〕

全体では、不満足意識が46.5%（1位）と高くなっている。

年代別の不満足意識では、30歳代が57.3%と最も高く、70歳以上が32.7%と最も低い。

圏域別の不満足意識では、四日市が50.2%と最も高くなっている。

〔平成10年度との比較〕

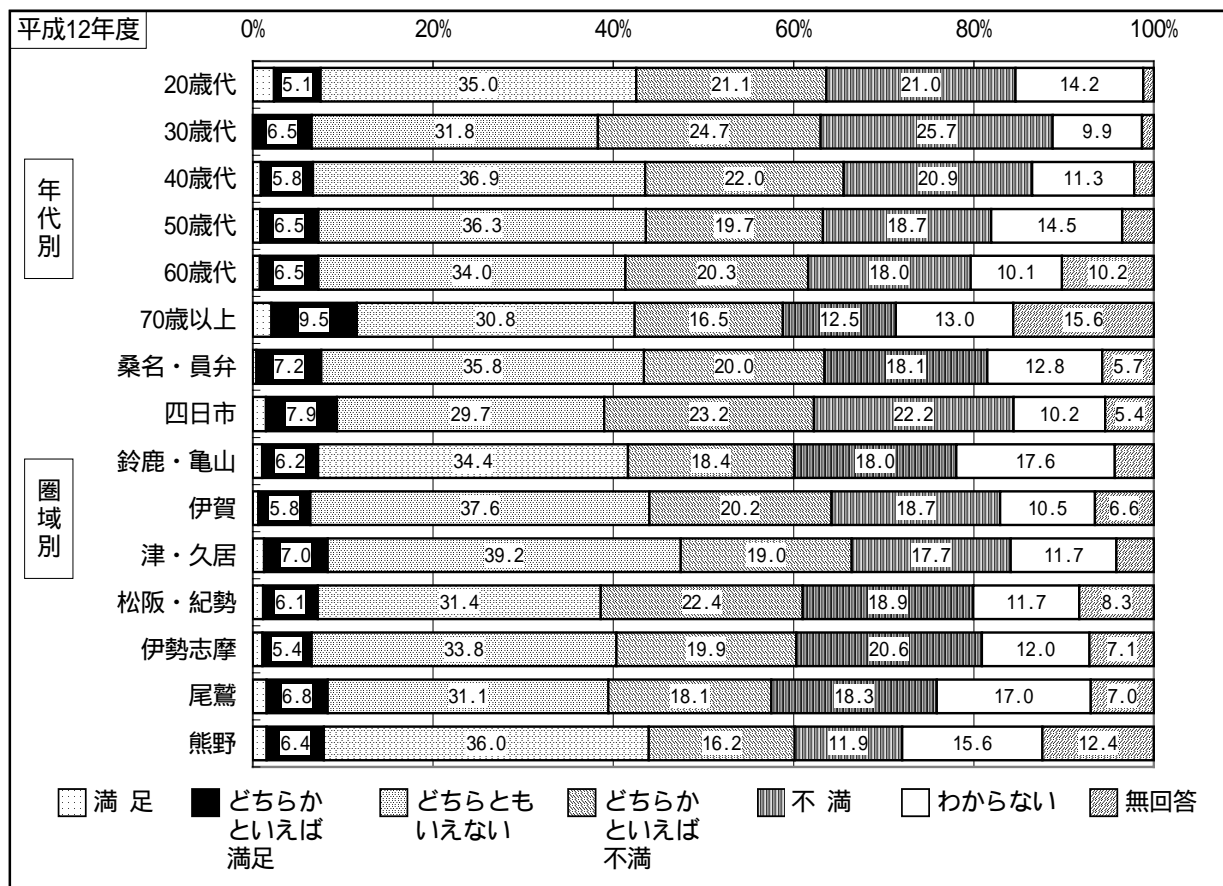
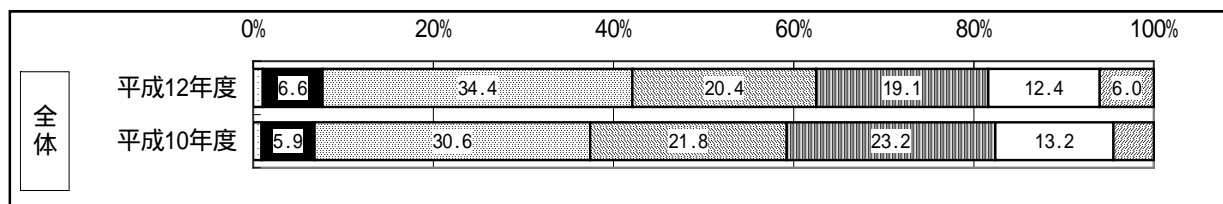
全体では、不満足意識が52.2%から46.5%へ5.7ポイント減少し、満足意識が10.5%から14.5%へ4.0ポイント増加した。

年代別では、20歳代の不満足意識が56.2%から45.2%へと11.0ポイント減少したことが目立つほか、各年代で不満足意識が減少した。

圏域別では、松阪・紀勢、尾鷲の不満足意識の減少が目立つほか、各圏域で不満足意識が減少した。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
不満足意識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

24) 大気汚染防止対策の強化



〔平成12年度〕

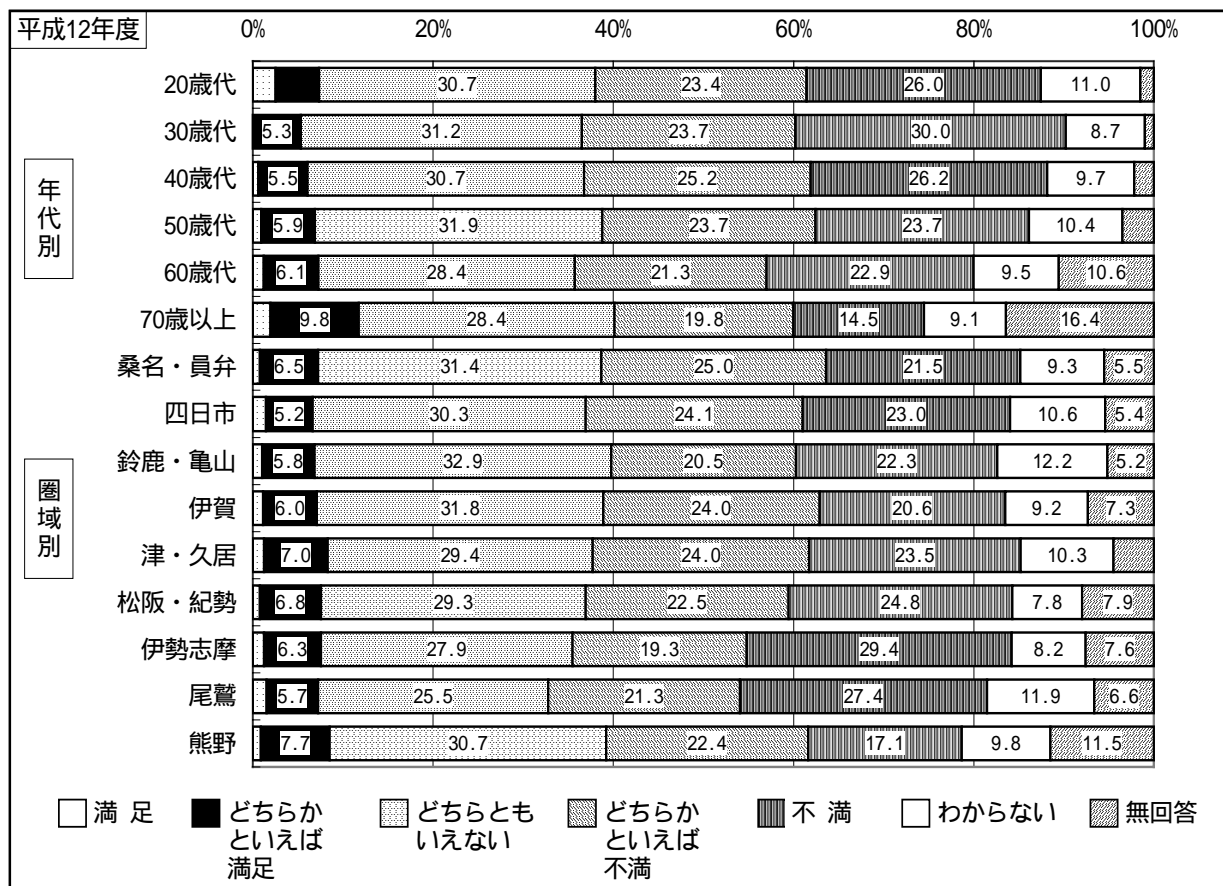
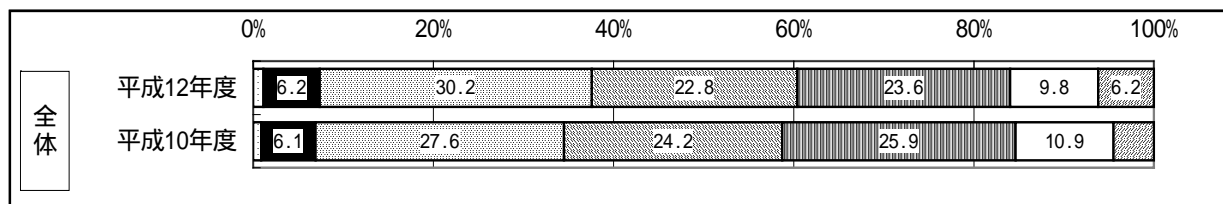
年代別の不満意識は、30歳代が50.4%と最も高く、70歳以上が29.0%と最も低い。
圏域別の不満意識は、四日市が45.4%と最も高く、熊野が28.1%と最も低い。

〔平成10年度との比較〕

全体では、不満意識が45.0%から39.5%へ5.5ポイント減少した。
年代別では、20歳代、50歳代、60歳代の不満意識が減少した。
圏域別では、おおむね不満意識が減少している。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
不満意識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

25) 川や海の水質浄化



〔平成12年度〕

全体では不満足識が46.4%（2位）と高くなっている。

年齢別の不満足識では、30歳代が53.7%と最も高く、70歳以上が34.3%と最も低い。

圏域別の不満足識では、伊勢志摩、尾鷲が48.7%と最も高く、熊野が39.5%と最も低い。

〔平成10年度との比較〕

全体では、不満足識が、50.1%から46.4%へ3.7ポイント減少した。

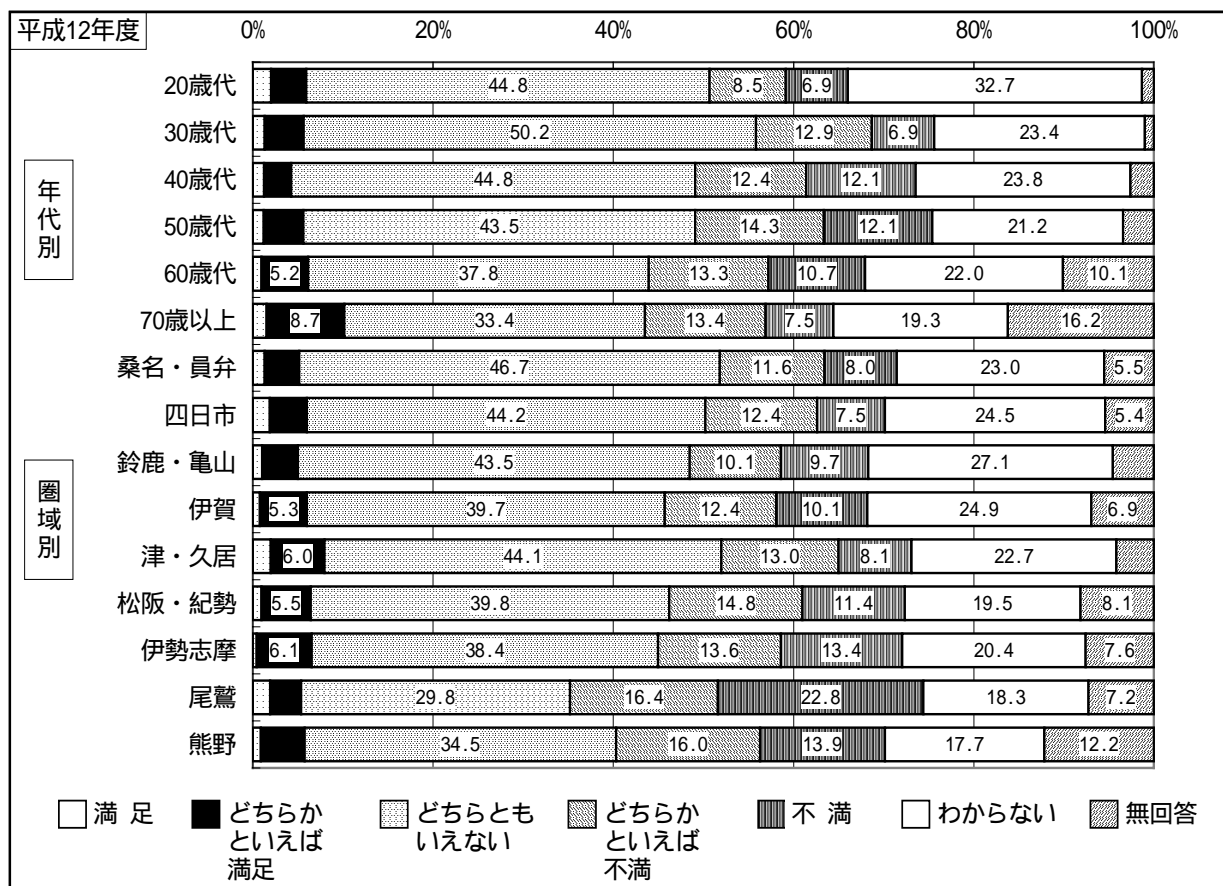
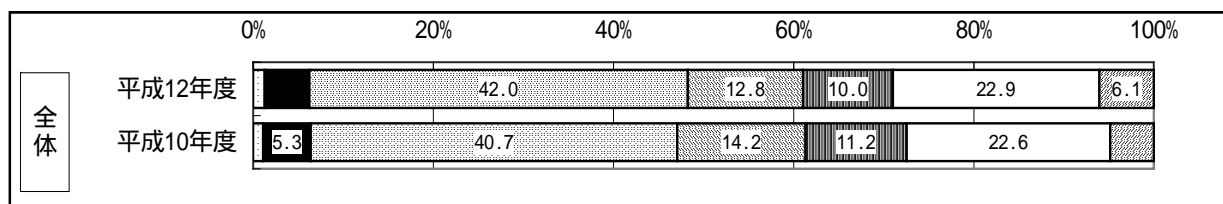
年代別では、50歳代の不満足識が52.6%から47.4%へ5.2ポイント減少した。

圏域別では、鈴鹿・亀山、松阪・紀勢、伊勢志摩、尾鷲、熊野の不満足識が減少した。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
 不満足識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

■安心を支える力強い農林水産業の振興

26) 農林水産業の活発化



〔平成12年度〕

全体では「どちらともいえない」(42.0%)、「わからない」(22.9%)という回答を合わせると64.9%と高くなっている。

圏域別にみると、尾鷲の不満足識が39.2%と最も高くなっている。

〔平成10年度との比較〕

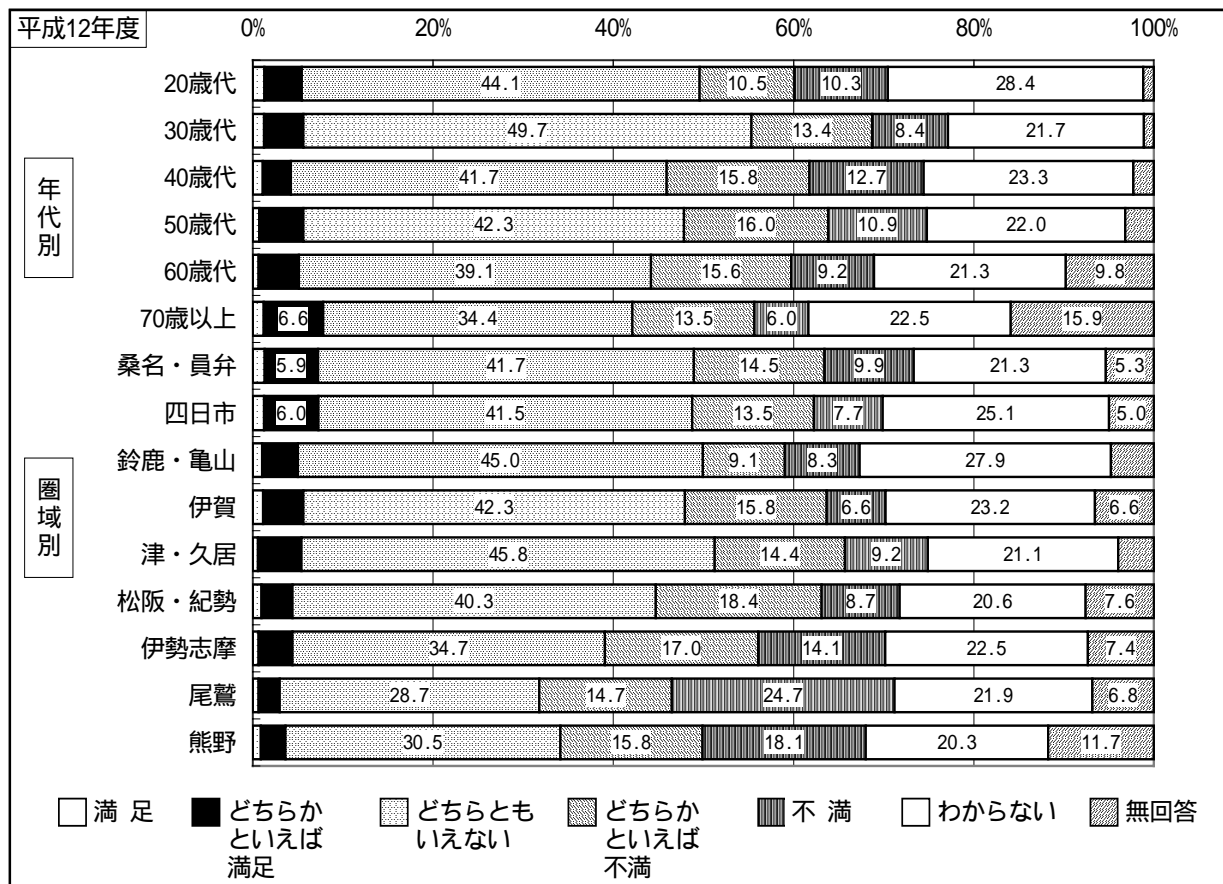
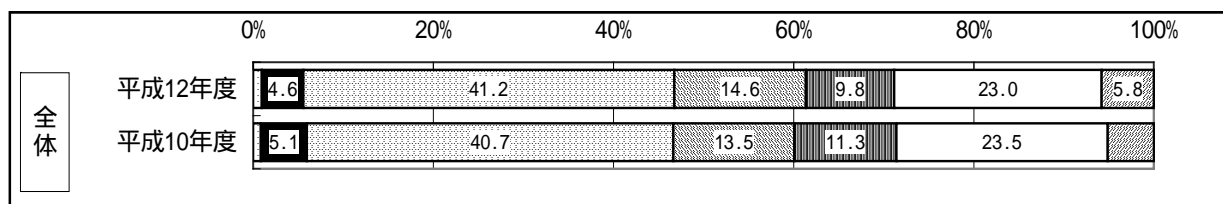
全体の傾向に大きな変化はない。

年代別では、松阪・紀勢、尾鷲の不満足識が減少している。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
不満足識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

■戦略的な産業振興

27) 新しい分野の産業の育成や先端的企业の誘致



〔平成12年度〕

全体では「どちらともいえない」(41.2%)、「わからない」(23.0%)という回答を合わせると64.2%と高くなっている。

圏域別の不満意識では、尾鷲(39.4%)、熊野(33.9%)、伊勢志摩(31.1%)が高くなっている。

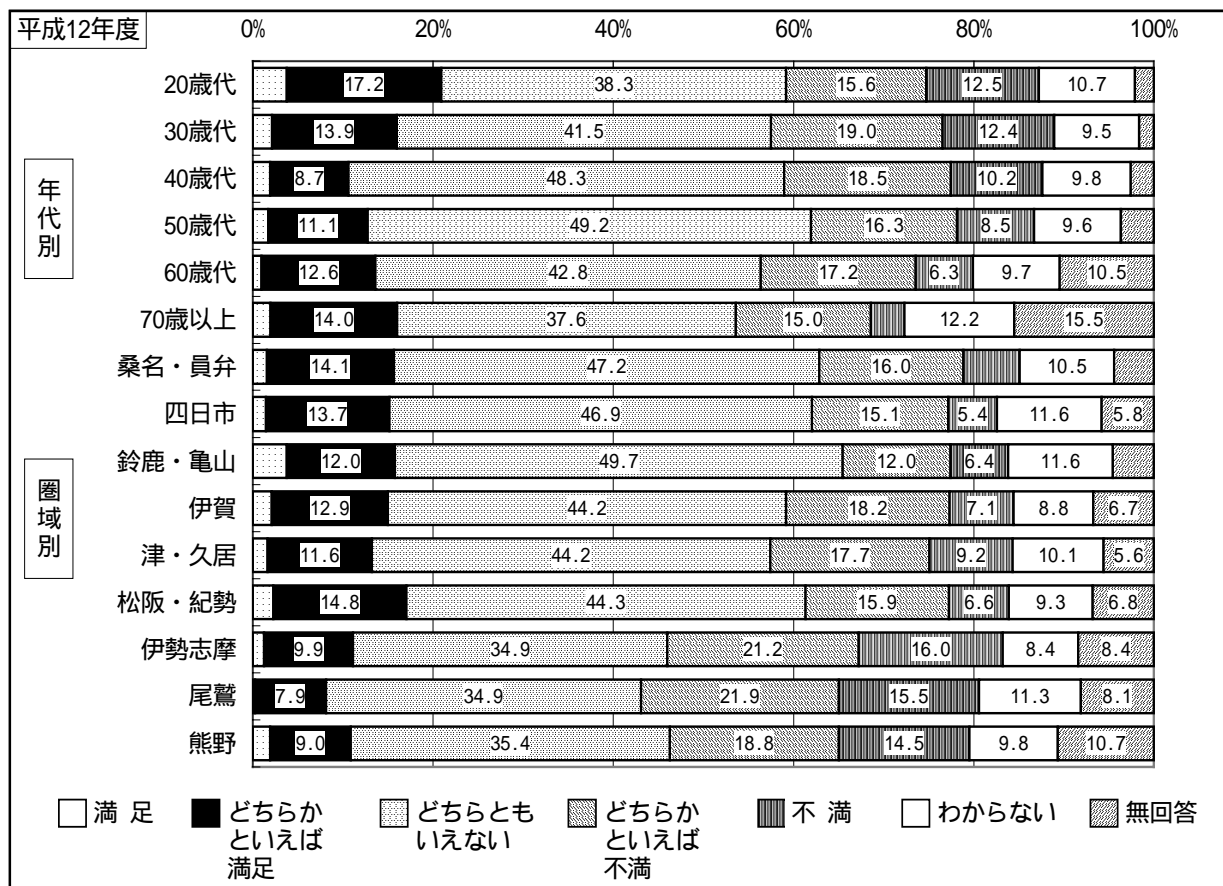
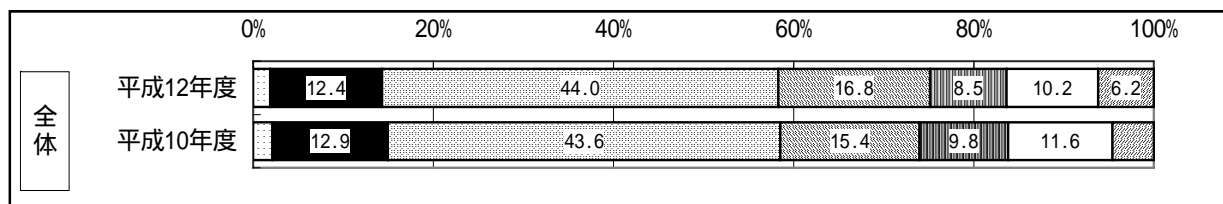
〔平成10年度との比較〕

全体の傾向に大きな変化はない。

圏域別では、桑名・員弁の不満足意識が19.2%から24.4%へ増加した。一方、伊勢志摩、熊野の不満足意識は減少している。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
不満足意識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

28) 三重県を訪れる人が増加するような観光施設や地域づくり



〔平成12年度〕

圏域別では、尾鷲（37.4%）、伊勢志摩（37.2%）、熊野（33.3%）の不満足意識が高くなっている。

〔平成10年度との比較〕

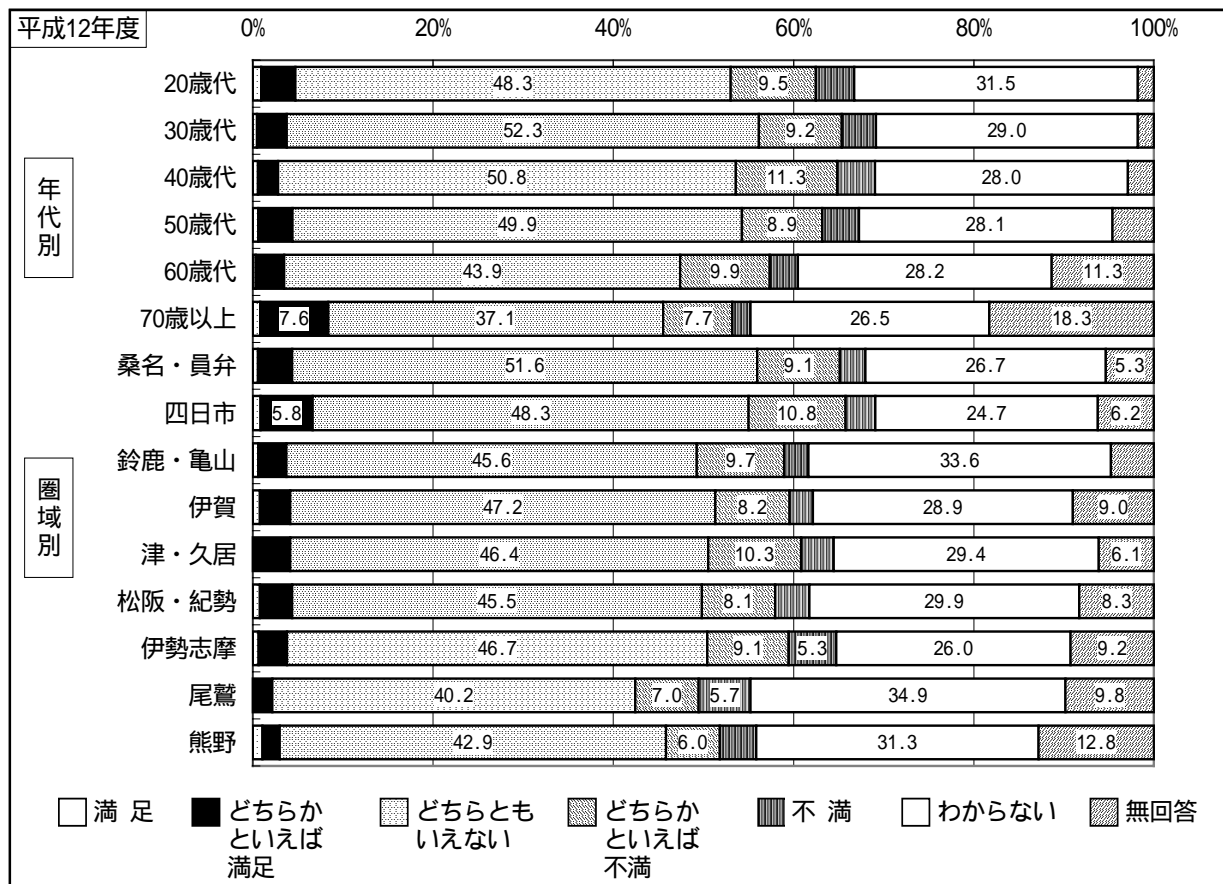
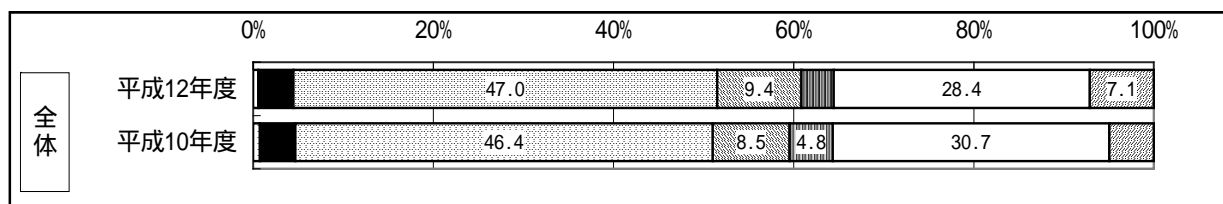
全体の傾向に大きな変化はない。

年代別では、30歳代の不満足意識が、23.6%から31.4%へ7.8ポイント増加している。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
不満足意識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

■技術の高度化と競争力の強化

29) 科学技術の振興



〔平成12年度〕

全体では「どちらともいえない」(47.0%)、「わからない」(28.4%)を合わせると75.4%と高くなっている。

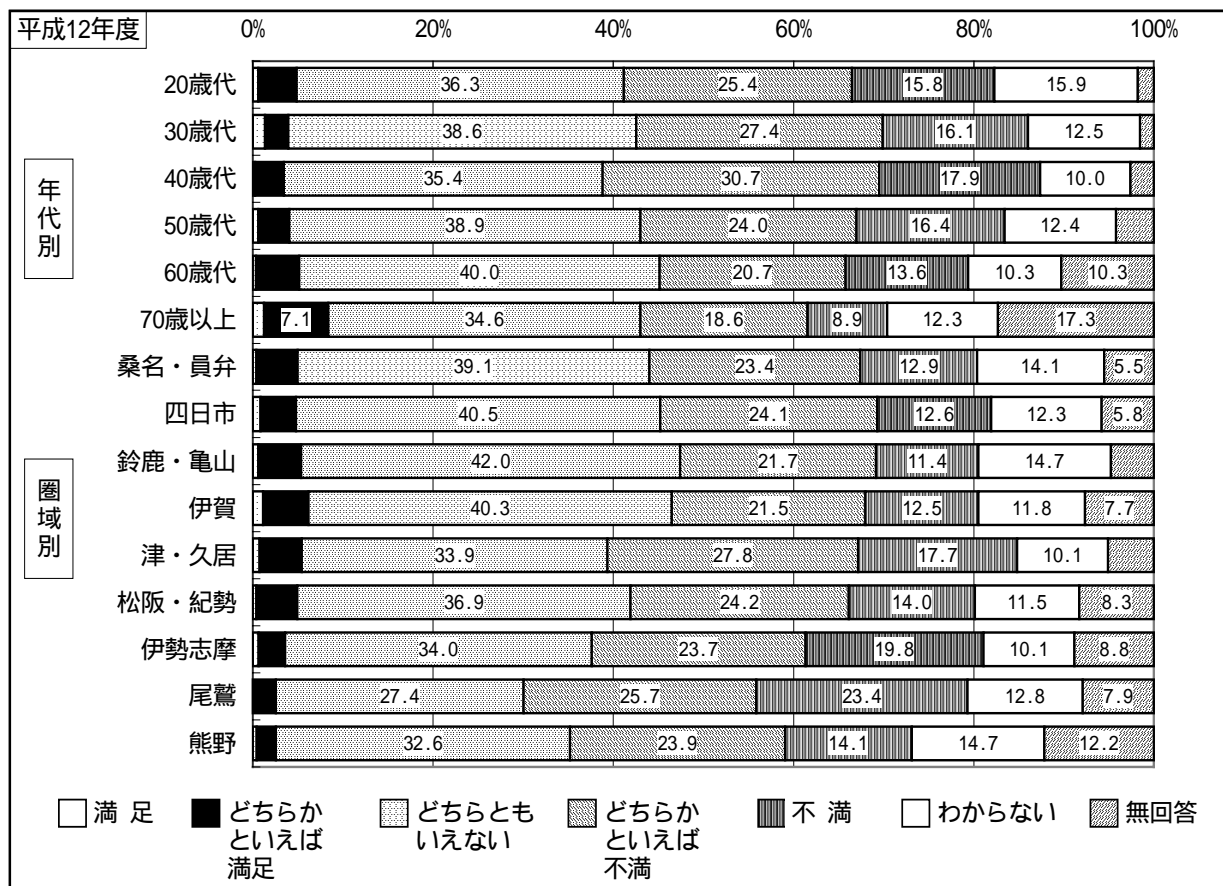
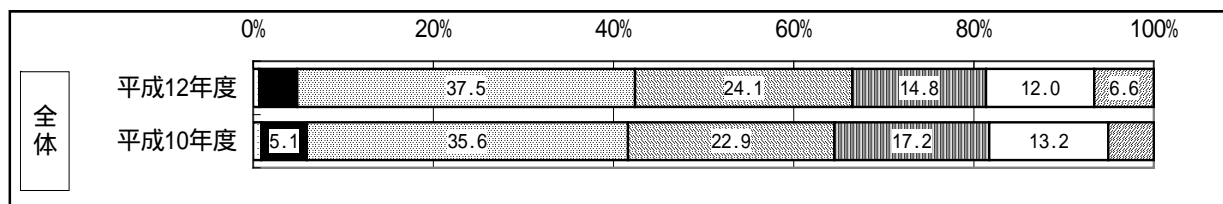
年代別、圏域別による大きな意識の差はない。

〔平成10年度との比較〕

全体の傾向に大きな変化はない。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
 不満意識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

30) 中小企業の支援や商店街づくりなど地域商工業の活発化



〔平成12年度〕

年代別の不満意識は、40歳代が48.6%と最も高く、70歳以上が27.5%と最も低い。

圏域別の不満意識は、尾鷲が49.1%と最も高いほか、津・久居（45.5%）、伊勢志摩（43.5%）の順となっている。

〔平成10年度との比較〕

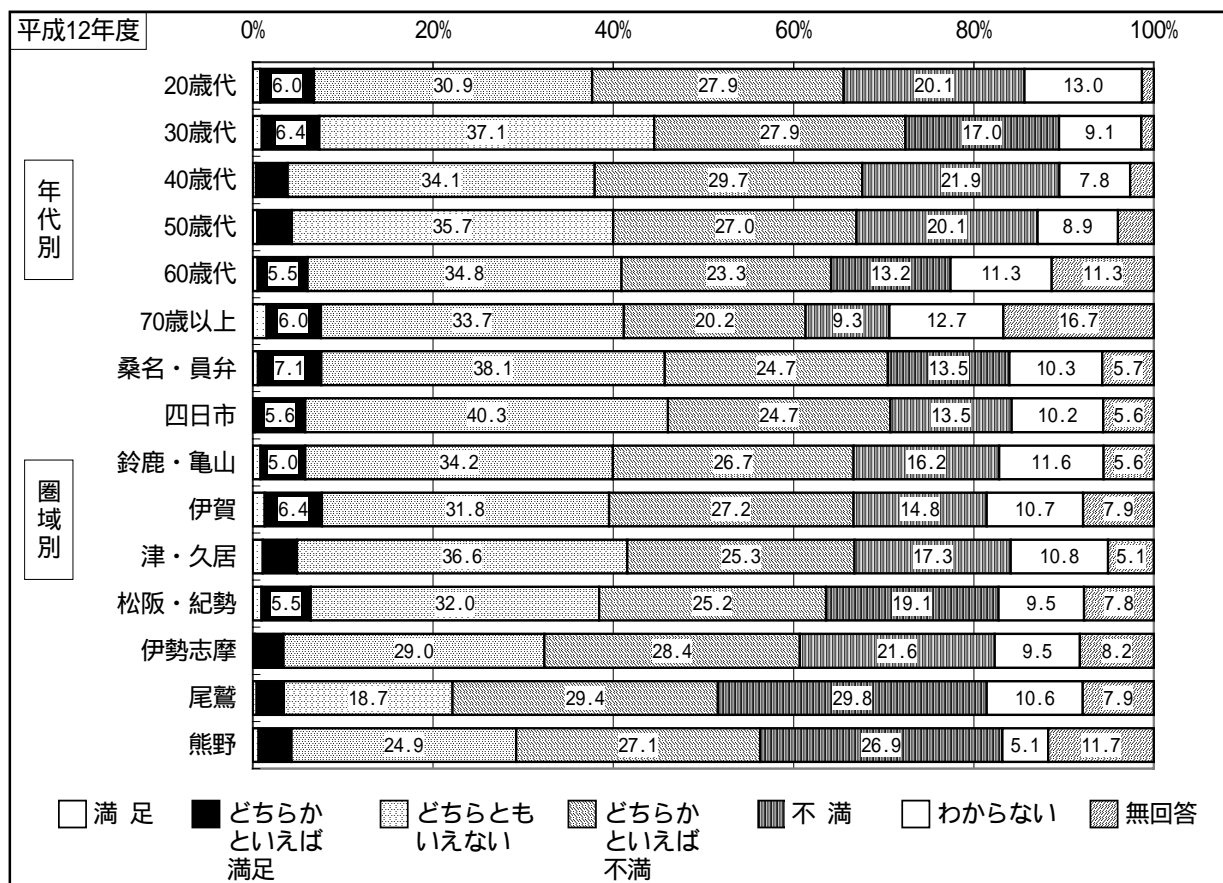
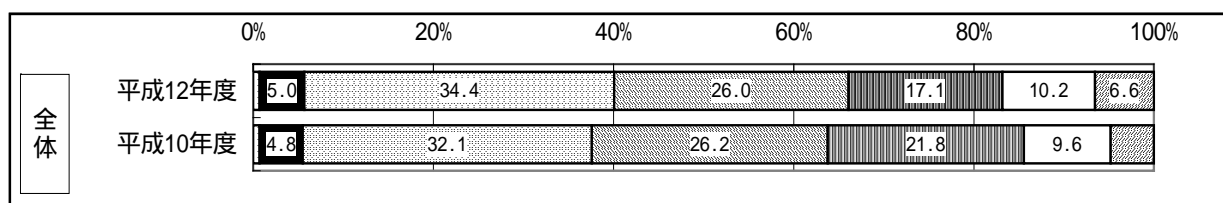
全体の傾向に大きな変化はない。

圏域別では、鈴鹿・亀山、尾鷲の不満意識が減少した。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
 不満意識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

■充実した職業生活の推進

31) 働く場の確保と勤労者福祉の向上



〔平成12年度〕

全体では、不満足意識が43.1%（4位）と高くなっている。

年代別では、40歳代の不満足意識が51.6%と最も高い。

圏域別の不満足意識は、尾鷲（59.2%）、熊野（54.0%）、伊勢志摩（50.0%）の順となっている。

〔平成10年度との比較〕

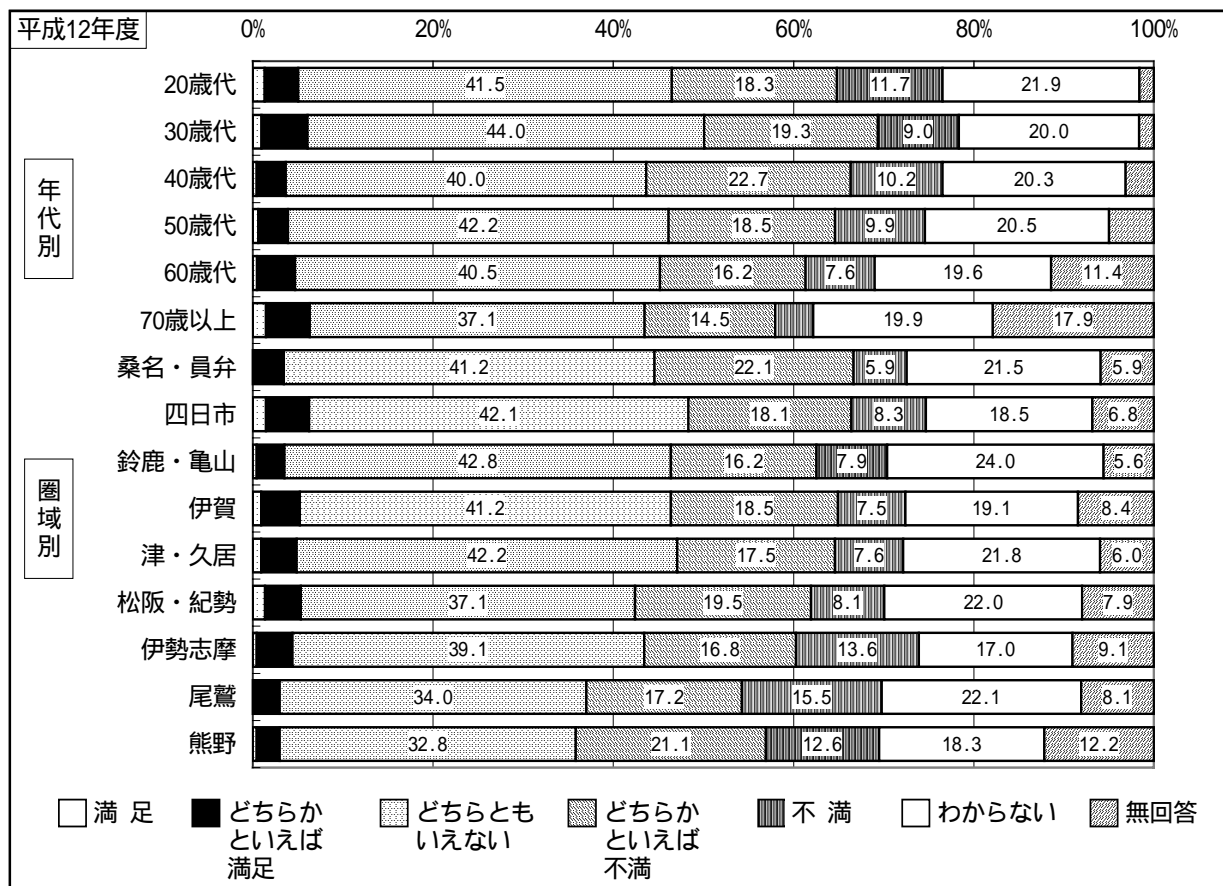
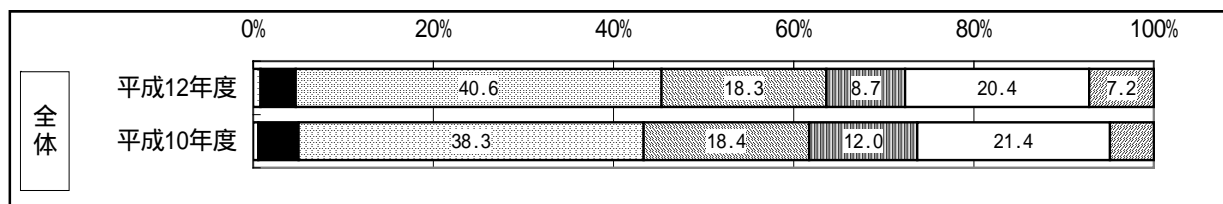
全体では、不満足意識が48.0%から43.1%へ4.9ポイント減少した。

年代別では、30歳代、50歳代、60歳代の不満足意識が減少した。

圏域別では、おおむね不満足意識が減少している。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
不満足意識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

32) 社会の変化に対応した職業能力の開発訓練体制の充実



〔平成12年度〕

全体では「どちらともいえない」(40.6%)、「わからない」(20.4%)という回答を合わせると61.0%と高くなっている。

年代別の不満意識では、40歳代が32.9%と最も高くなっている。

〔平成10年度との比較〕

全体では、不満意識が30.4%から27.0%へ3.4ポイント減少した。

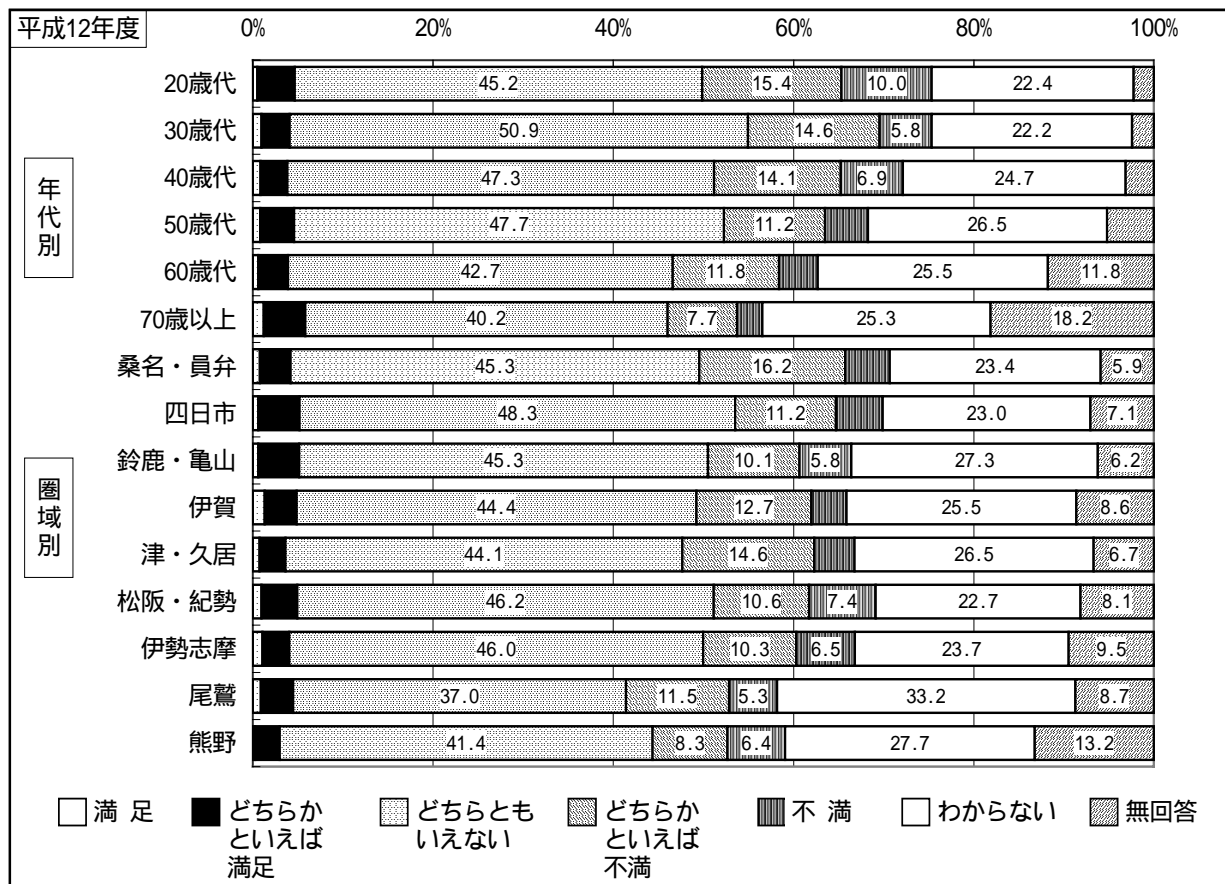
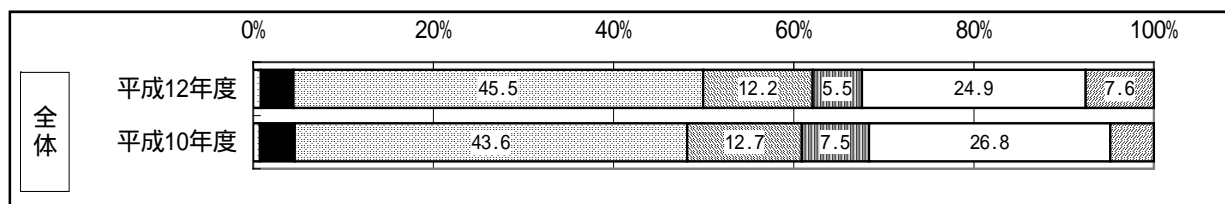
年代別では、50歳代の不満意識が34.3%から28.4%へ5.9ポイント減少した。

圏域別では、鈴鹿・亀山、伊賀、尾鷲の不満意識が減少した。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
 不満意識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

■ 交流の促進

33) 海外の学校との提携校の拡大など国際化社会に対応できる人材の育成



〔平成12年度〕

全体では「どちらともいえない」(45.5%)、「わからない」(24.9%)という回答を合わせると70.4%と高くなっている。

年代別では、年代が上がるに従って、不満意識がおおむね減少している。

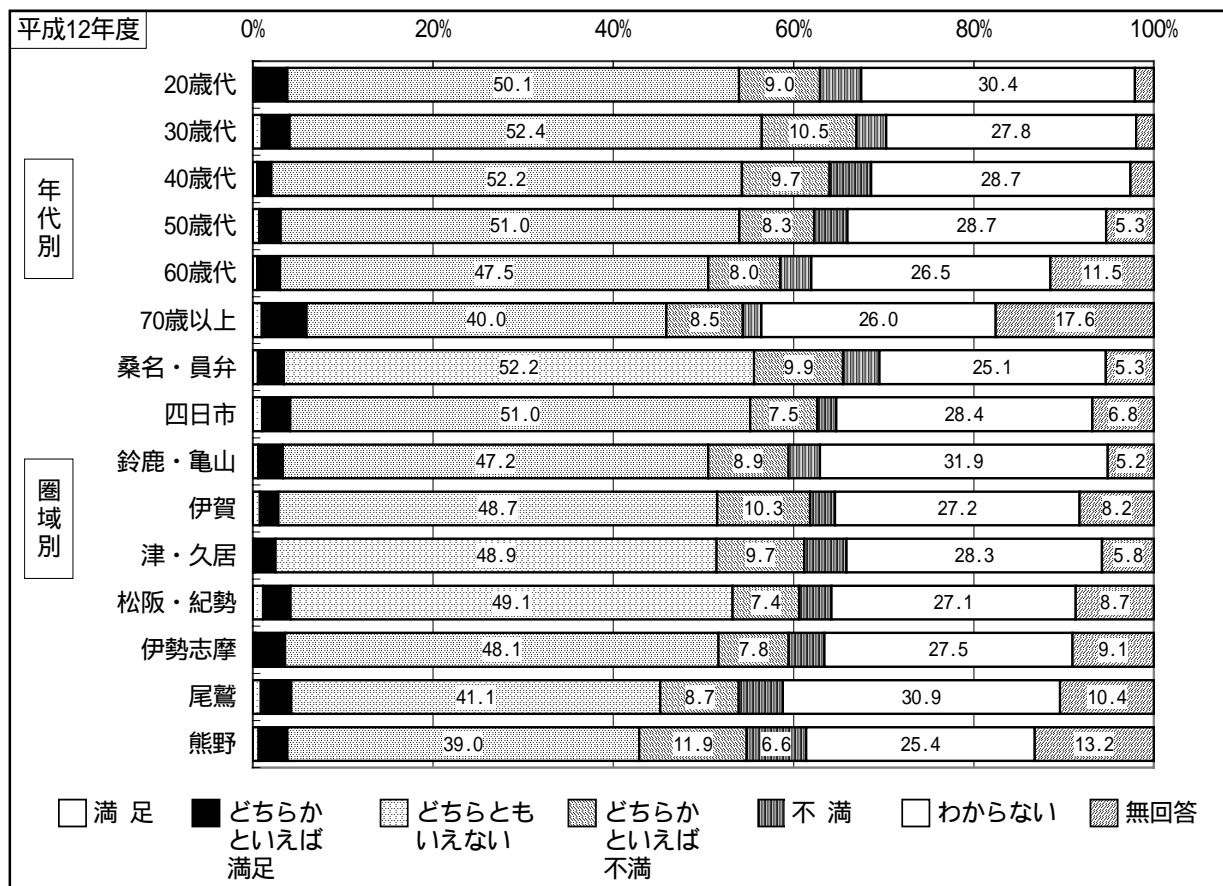
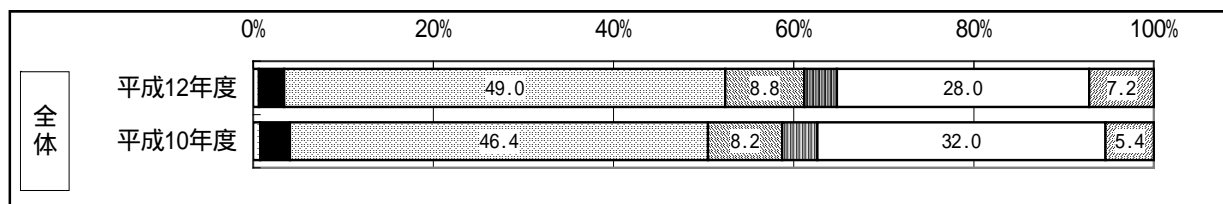
〔平成10年度との比較〕

全体の傾向に大きな変化はない。

圏域別では、鈴鹿・亀山、熊野の不満足意識が減少した。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
 不満意識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

34) 県境を越えた児童生徒の受入れの弾力化など、他府県との共同事業の推進



〔平成12年度〕

全体では「どちらともいえない」(49.0%)、「わからない」(28.0%)という回答を合わせると77.0%と全項目中、最も多くなっている。

年代別、圏域別による大きな意識の差はない。

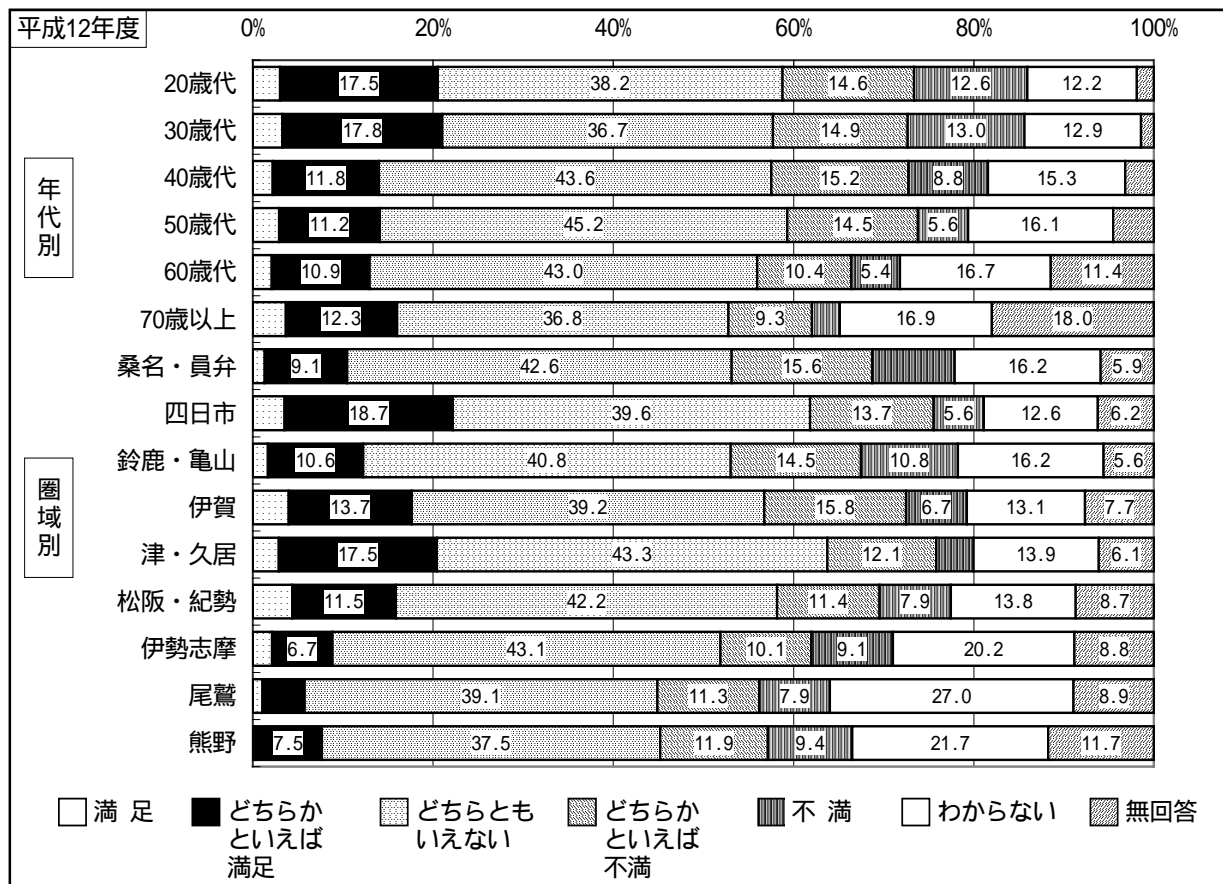
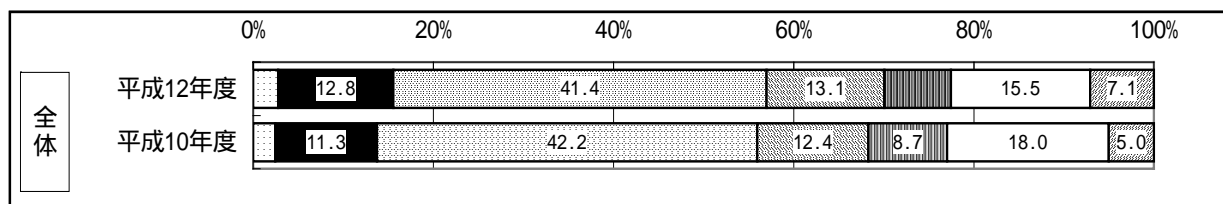
〔平成10年度との比較〕

全体の傾向に大きな変化はない。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
 不満意識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

■高度情報化の推進

35) ケーブルテレビの普及など情報ネットワークの整備



〔平成12年度〕

年代別では、若い年代ほど、おおむね満足意識、不満意識が高くなっている。

圏域別では、四日市の満足度が最も高く（22.2%）、ついで津・久居（20.4%）となっている。

〔平成10年度との比較〕

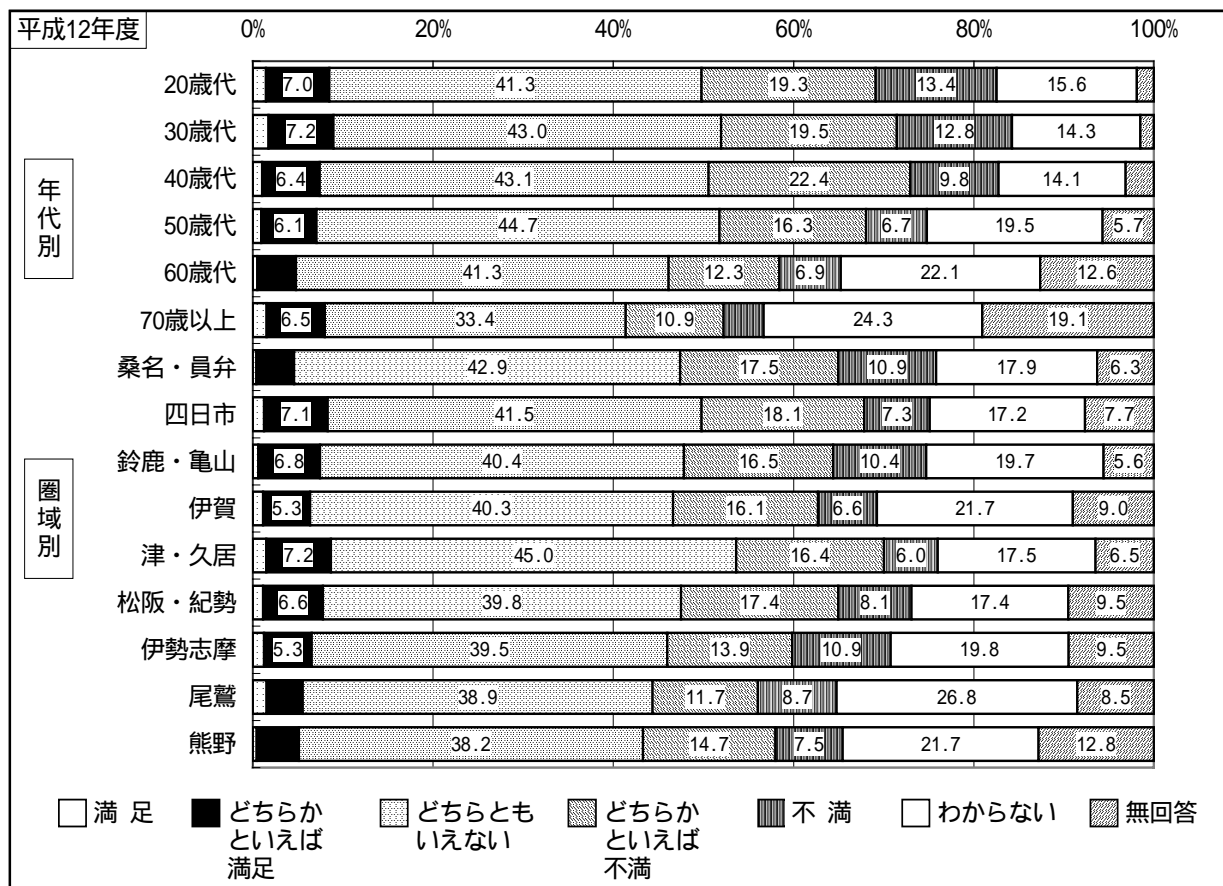
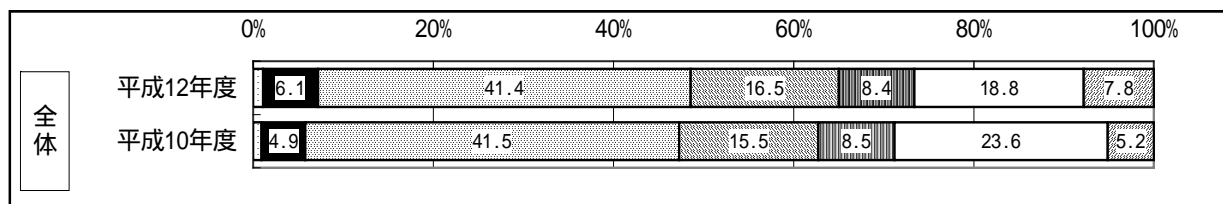
全体の傾向に大きな変化はない。

年代別では、30歳代の満足意識が、14.5%から21.0%へ6.5ポイント増加した。

圏域別では、津・久居の満足意識が、14.9%から20.4%へ5.5ポイント増加した。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
 不満意識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

36) インターネットなどの新しい情報手段に対応できるような情報教育の推進



〔平成12年度〕

全体では「どちらともいえない」(41.4%)、「わからない」(18.8%)という回答を合わせると60.2%と高くなっている。

年代別では若年層ほど不満意識が高い。

〔平成10年度との比較〕

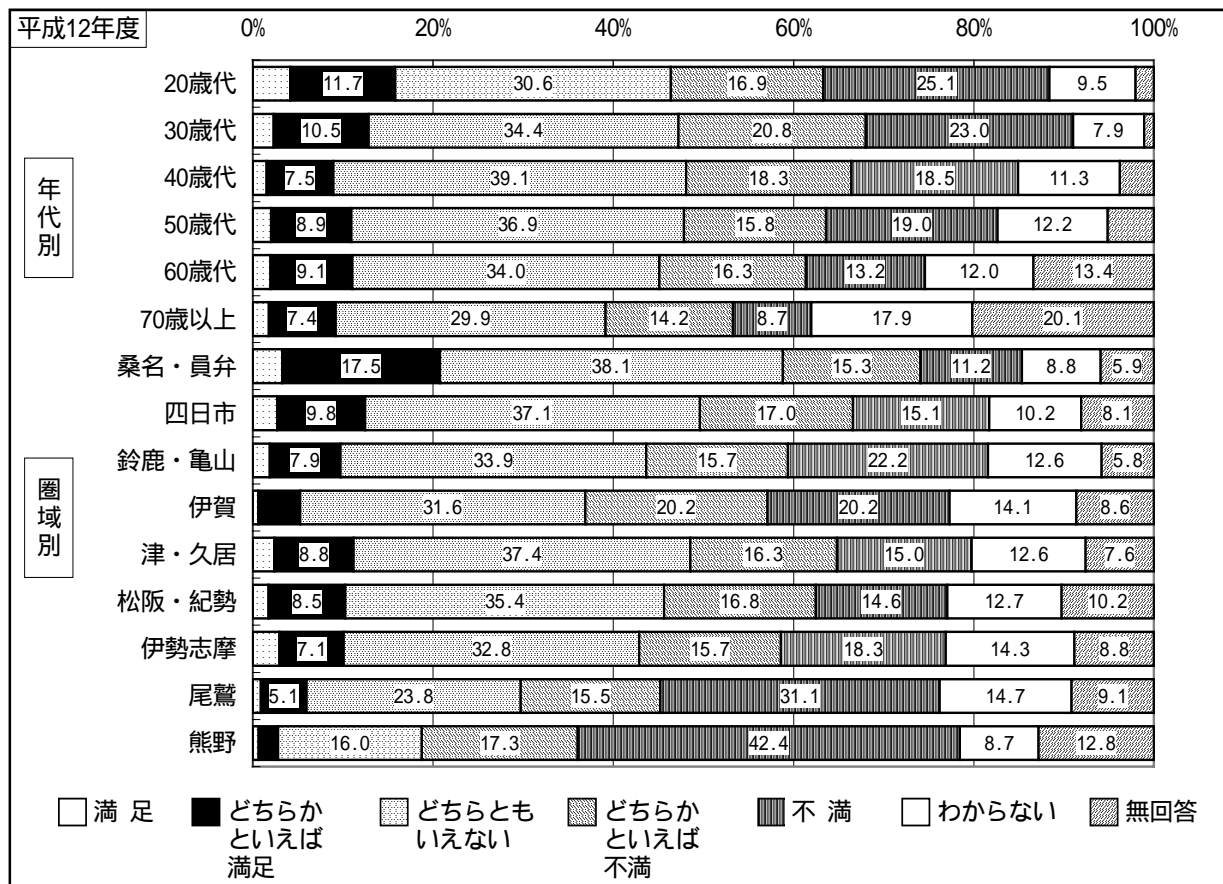
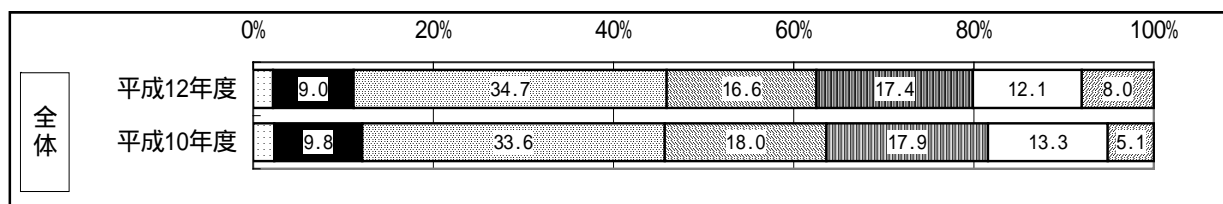
全体の傾向に大きな変化はない。

圏域別では、松阪・紀勢の不満足意識が20.3%から25.5%へ5.2ポイント増加した。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
不満足意識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

■ 交流基盤の整備

37) 空港、新幹線、高速道路など高速交通機関までおおむね 30 分で到達できる地域の拡大



〔平成 12 年度〕

年代別の不満意識は、年代が上がるに従って、おおむね減少している。

圏域別の不満意識では、熊野（59.7%）、尾鷲（46.6%）の不満意識が著しく高くなっている。

〔平成 10 年度との比較〕

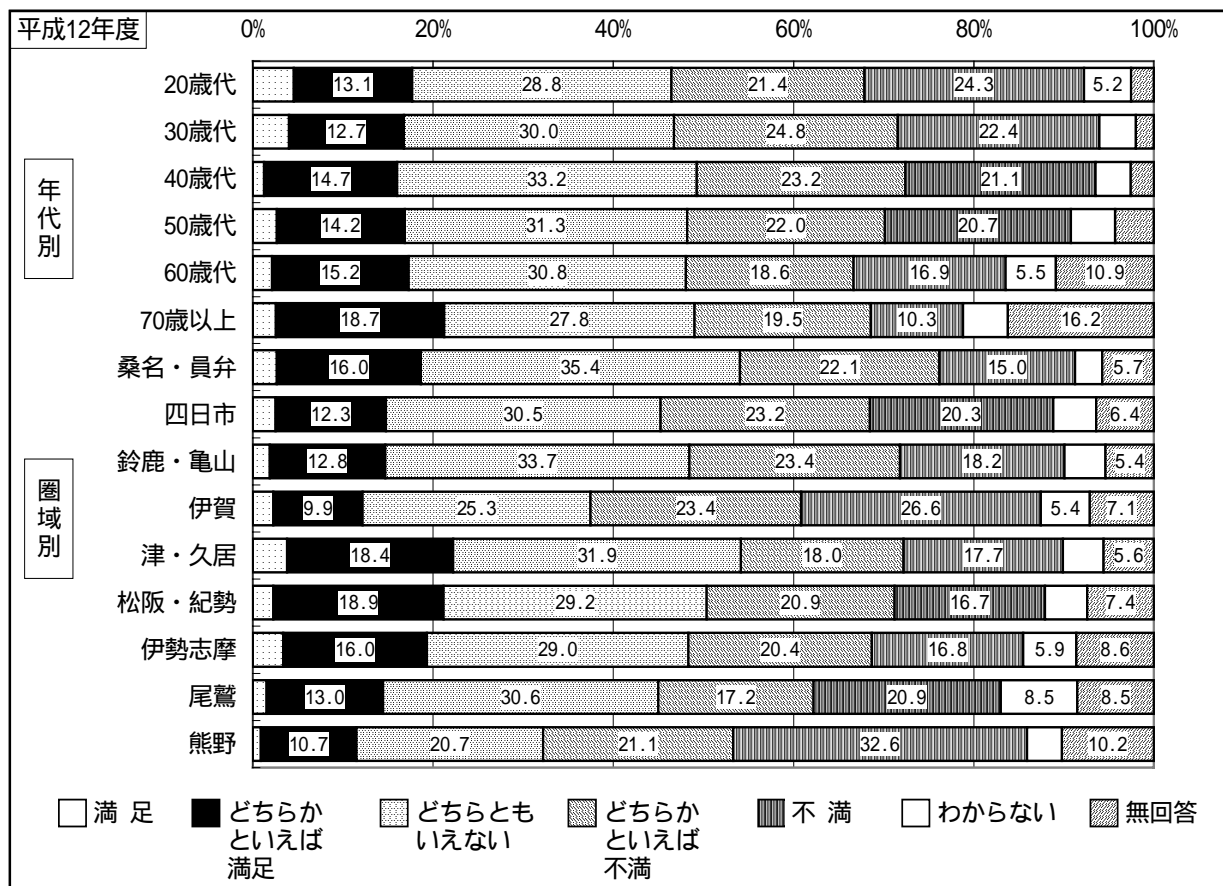
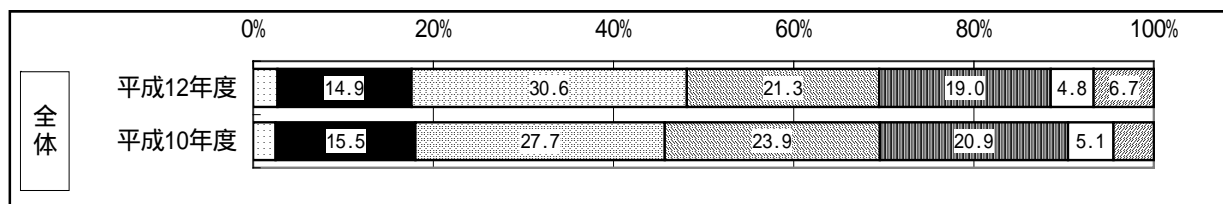
全体の傾向に大きな変化はない。

年代別では、20 歳代の不満意識が 47.0% から 42.0% へ 5.0 ポイント減少した。

圏域別では、桑名・員弁、尾鷲の不満意識が減少した。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
 不満意識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

38) 国道や県道の改良・整備



〔平成12年度〕

年代別では、年代が上がるに従って、おおむね不満意識が減少している。

圏域別の不満意識では、熊野（53.7%）、伊賀（50.0%）が高くなっている。

〔平成10年度との比較〕

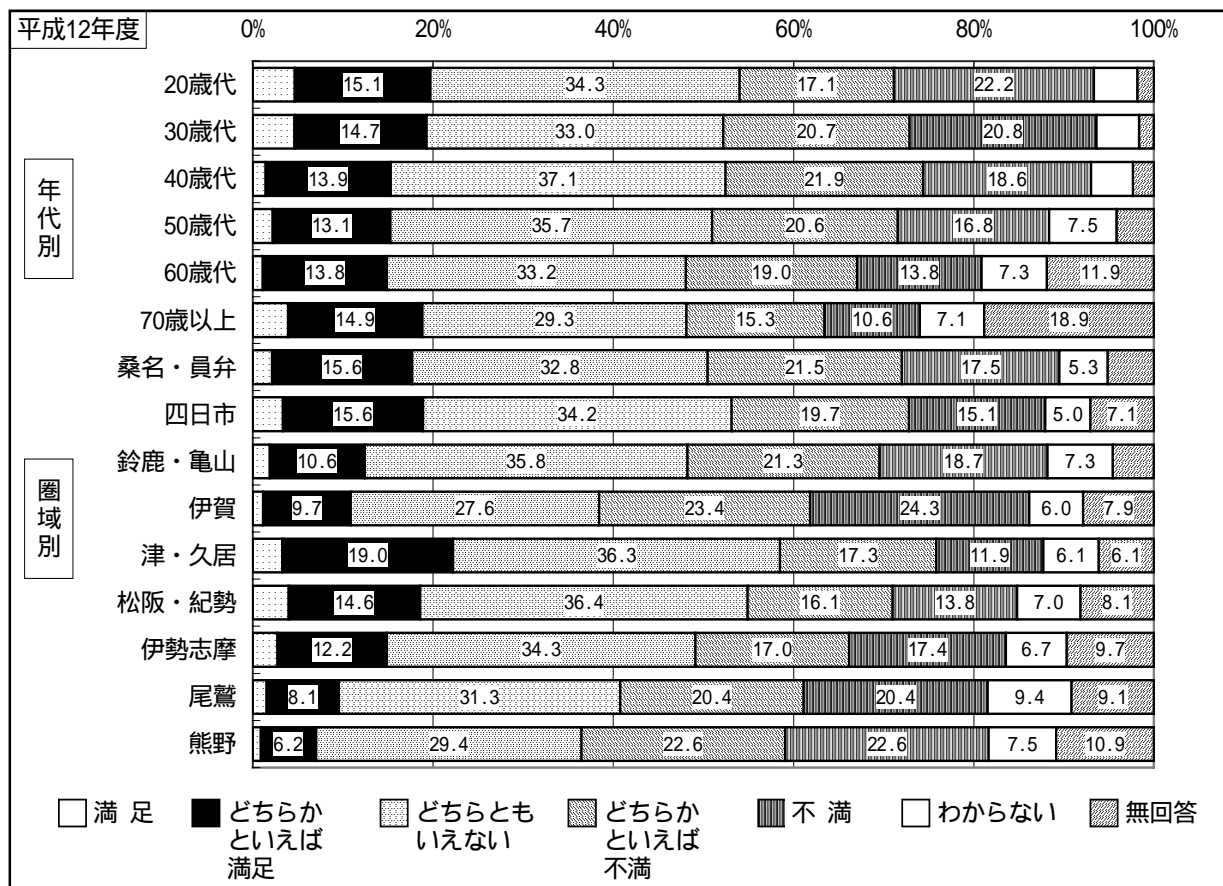
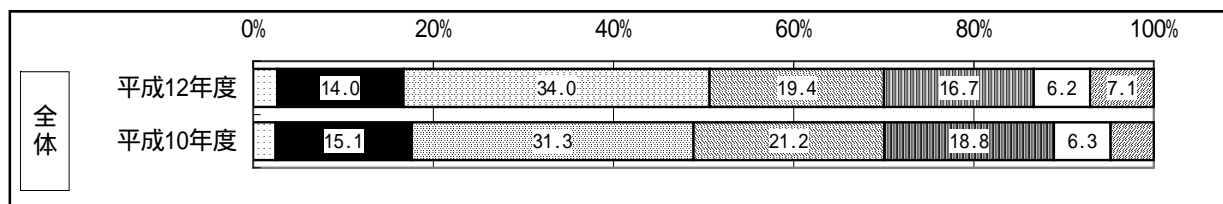
全体では、不満意識が44.8%から40.3%へと4.5ポイント減少した。

年代別では、20歳代、40歳代、60歳代の不満意識が減少した。

圏域別では、全体的に不満意識が減少したが、とりわけ尾鷲の不満意識が48.4%から38.1%へ10.3ポイント減少したことが目立っている。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
 不満意識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

39) 鉄道やバスなど公共交通機関の整備



〔平成12年度〕

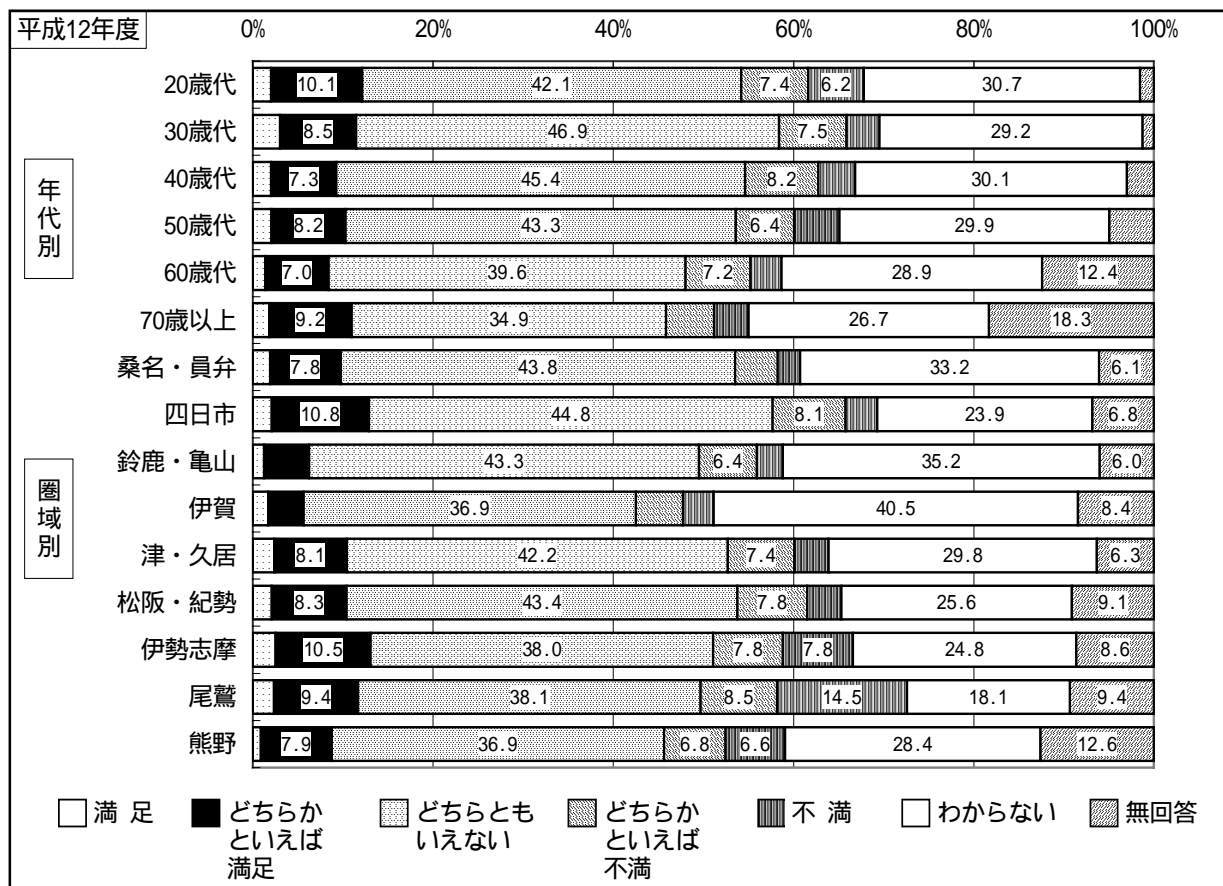
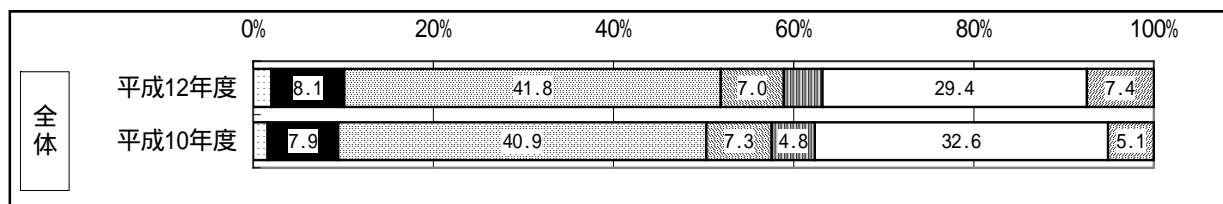
圏域別の不満意識は、伊賀（47.7%）、熊野（45.2%）、尾鷲（40.8%）の順で高くなっている。

〔平成10年度との比較〕

全体では、不満意識が40.0%から36.1%へ3.9ポイント減少した。
 年代別では、20歳代の不満意識が49.1%から39.3%へ9.8ポイント減少した。
 圏域別では、伊賀、津・久居、松阪・紀勢、熊野の不満意識が減少した。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
 不満意識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

40) 港湾の整備



〔平成12年度〕

全体では「どちらともいえない」(41.8%)、「わからない」(29.4%)という回答を合わせると71.2%と高くなっている。

不満意識は尾鷲(23.0%)が最も高くなっている。

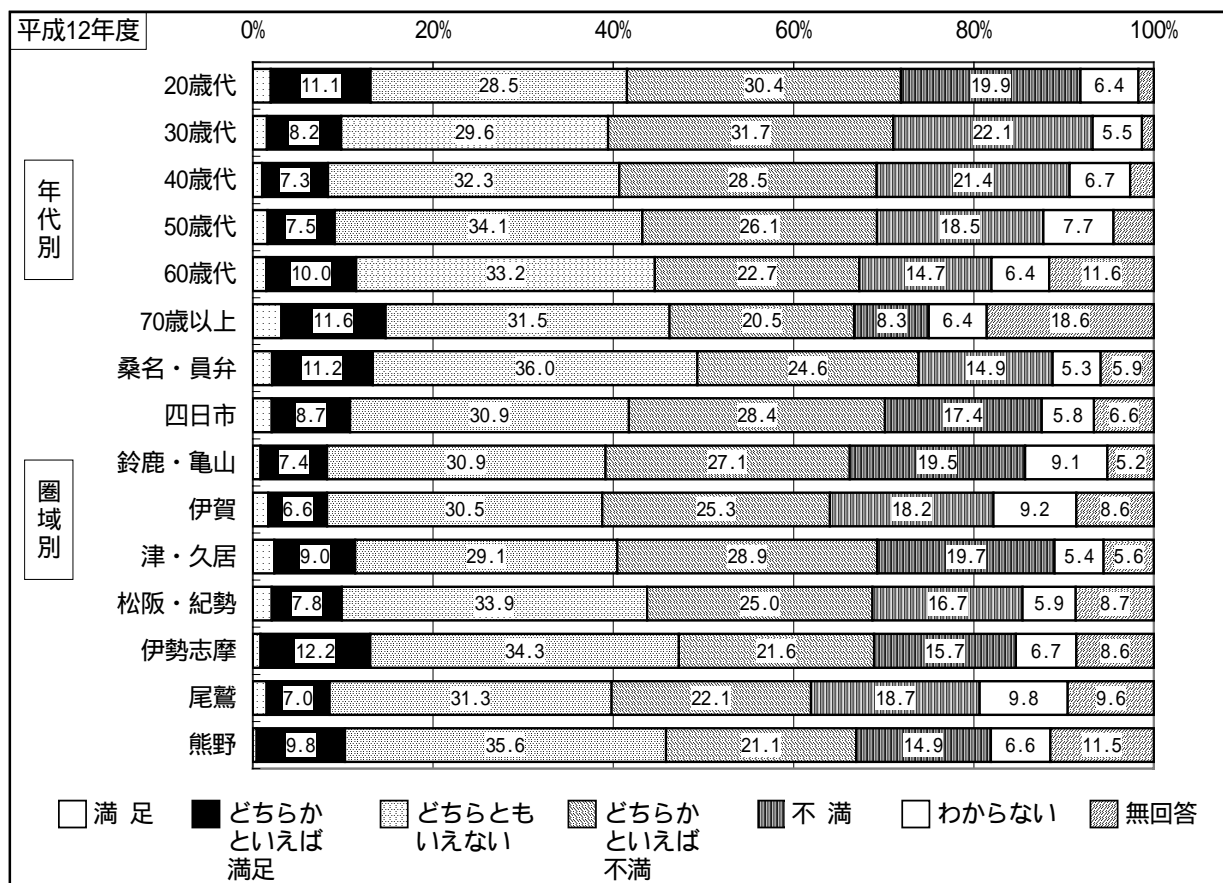
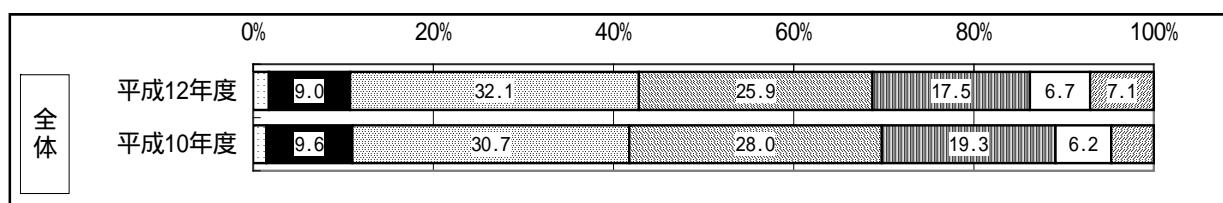
〔平成10年度との比較〕

全体の傾向に大きな変化はない。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
 不満意識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

■まちづくりの推進

41) 公園や歩道、段差のない公共的施設など快適なまちづくり



〔平成12年度〕

全体では、不満足意識が43.4%（3位）と高くなっている。

年代別の不満足意識では、30歳代（53.8%）が最も高い。

圏域別の不満足意識では、津・久居（48.6%）が最も高く、熊野（36.0%）が最も低い。

〔平成10年度との比較〕

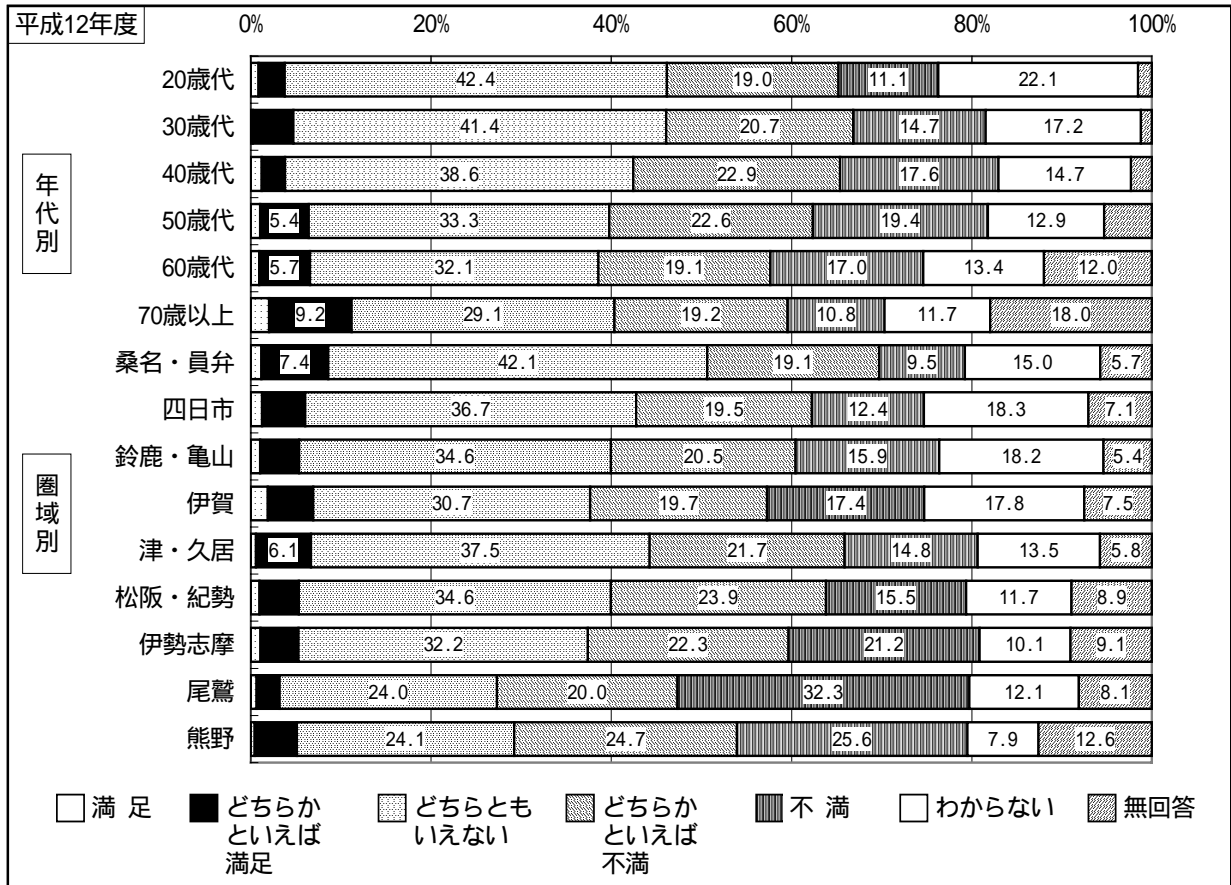
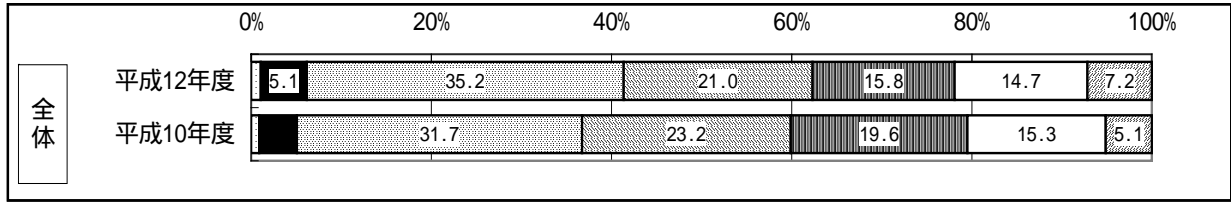
全体では、不満足意識が47.3%から43.4%へ3.9ポイント減少した。

年代別では、60歳代以上の不満足意識が減少している。

圏域別では、桑名・員弁、伊賀、伊勢志摩、熊野の不満足意識が減少している。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
不満足意識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

42) 道路、生活排水処理施設の整備など若者が定住する農山漁村づくり



〔平成12年度〕

圏域別の不満意識では、尾鷲（52.3%）熊野（50.3%）が高い。

〔平成10年度との比較〕

全体では、不満意識が42.8%から36.8%へ6.0ポイント減少した。

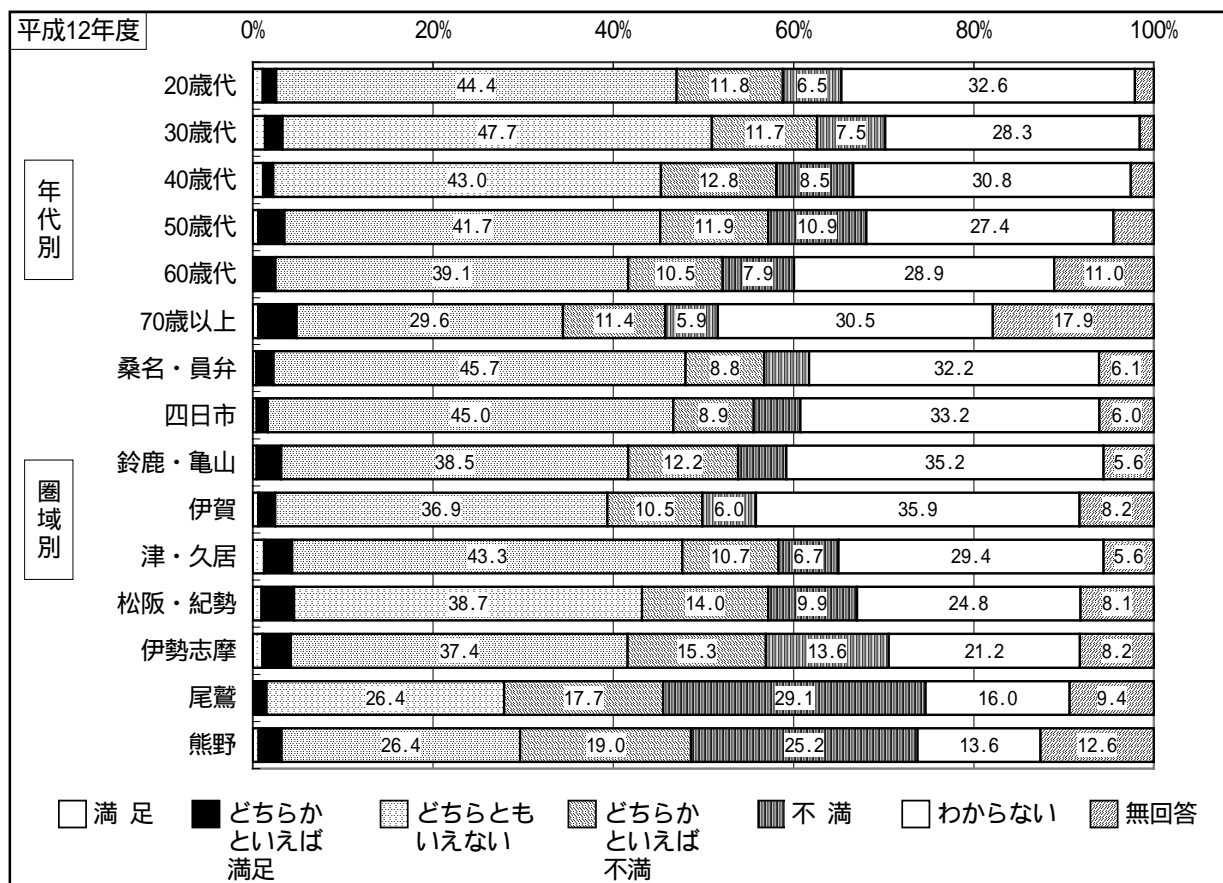
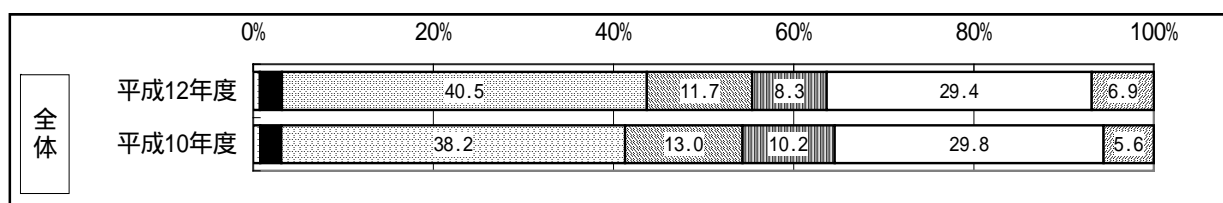
年代別では、すべての年代で不満意識が減少した。

圏域別では、四日市を除く圏域で不満意識が減少した。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
 不満意識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

■地域づくりの推進

43) 過疎地域や離島、半島地域の活性化



〔平成12年度〕

全体では「どちらともいえない」(40.5%)、「わからない」(29.4%)という回答を合わせると69.9%と高くなっている。

圏域別の不満意識は、尾鷲(46.8%)、熊野(44.2%)が特に高くなっている。

〔平成10年度との比較〕

全体では、不満意識が23.2%から20.0%へ3.2ポイント減少した。

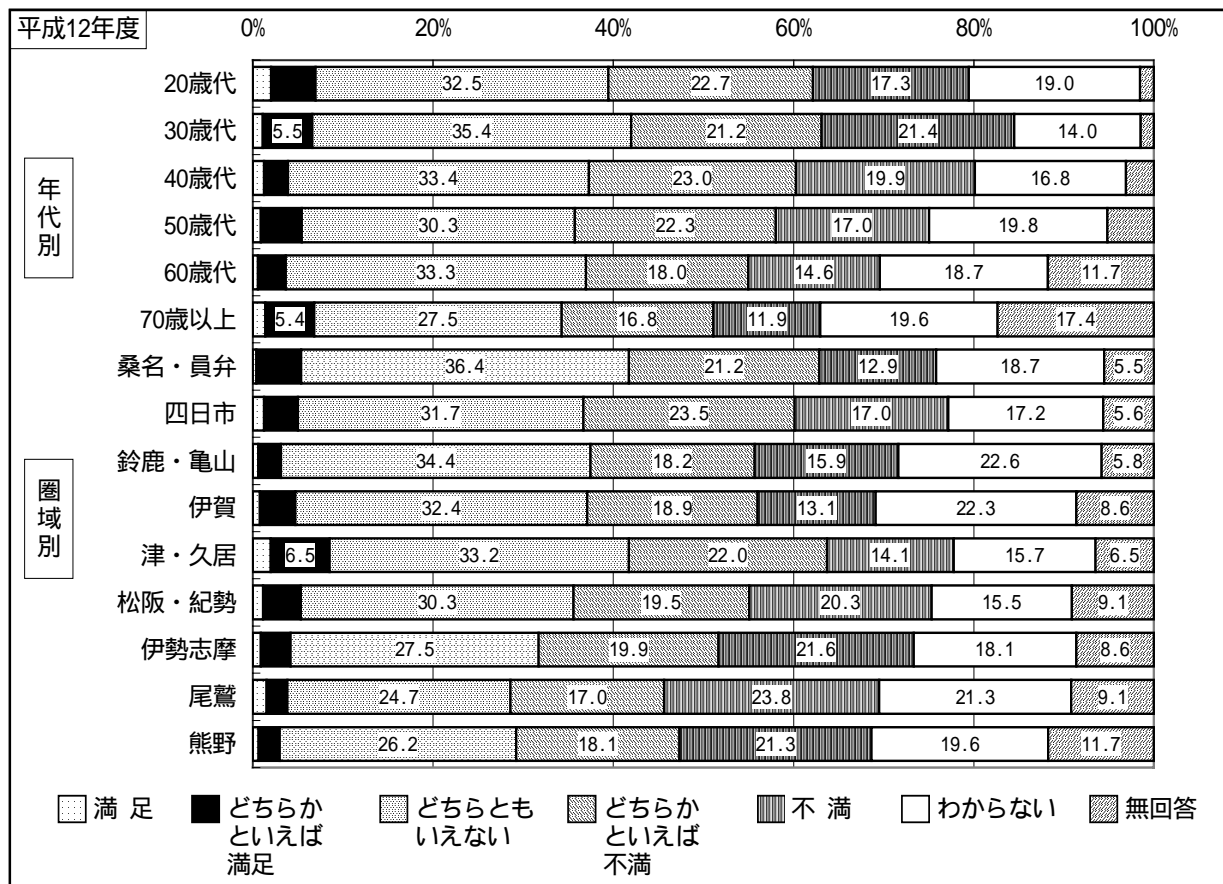
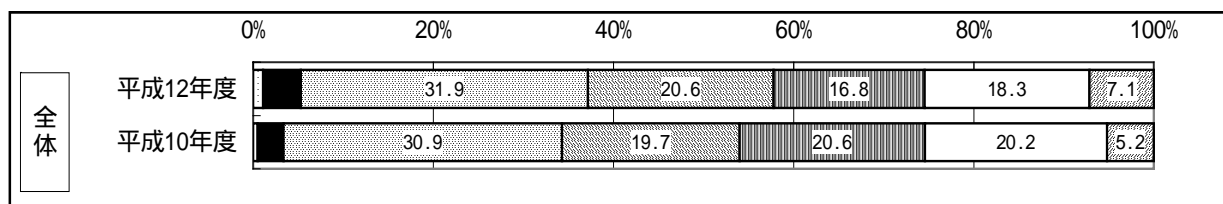
年代別では、60歳代の不満意識が24.2%から18.4%へ5.8ポイント減少した。

圏域別では、津・久居、熊野の不満意識が減少した。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
 不満意識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

■ 計画的な県土利用と資源エネルギー対策の推進

44) 省エネルギー対策の推進、太陽光発電の普及など地球に優しいエネルギー対策



〔平成12年度〕

年代別、圏域別による大きな意識の差はない。

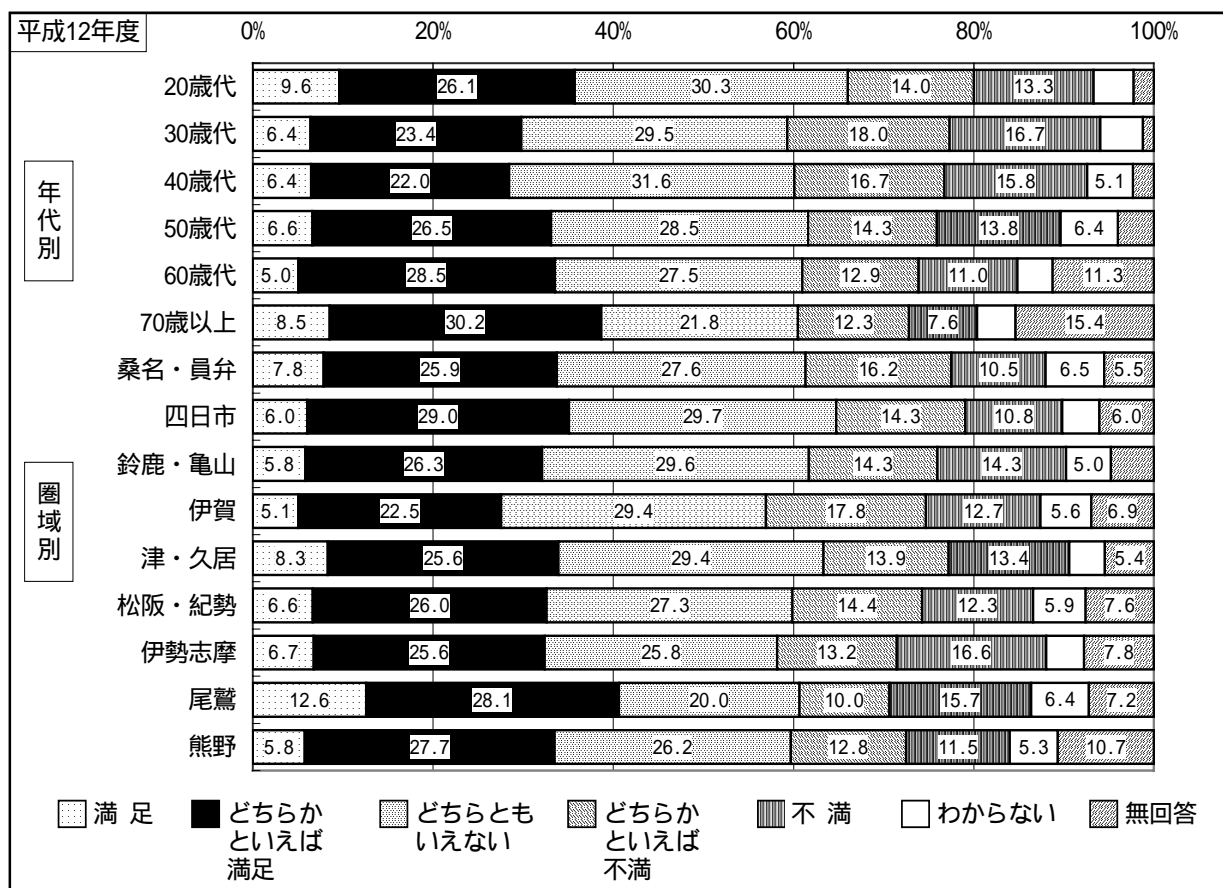
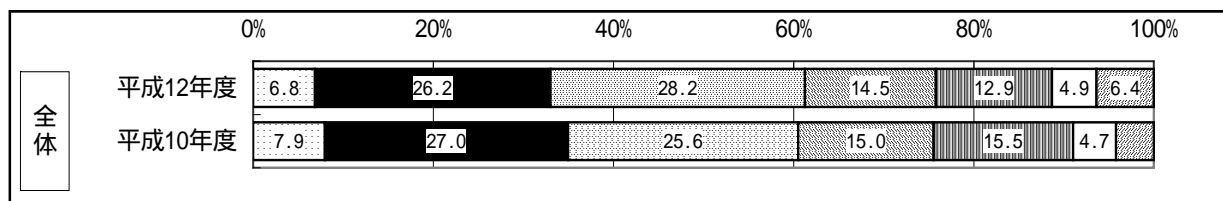
〔平成10年度との比較〕

全体の傾向に大きな変化はない。

圏域別では、桑名・員弁、鈴鹿・亀山の不満意識が減少したほか、津・久居の満足意識が3.0%から8.5%へ5.5ポイント増加した。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
 不満意識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

45) 安心して飲める水の安定確保



〔平成12年度〕

全体の満足意識（33.0%）は全項目中で最も高くなっている。

圏域別の満足意識では、尾鷲が40.7%と最も高くなっている。

〔平成10年度との比較〕

全体では、不満意識が30.5%から27.4%へ3.1ポイント減少した。

年代別では、20歳代の不満意識が減少し、満足意識が増加したほか、60歳代以上の満足意識が増加した。

圏域別では、桑名・員弁、四日市、津・久居、尾鷲の不満意識が減少した。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
 不満意識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

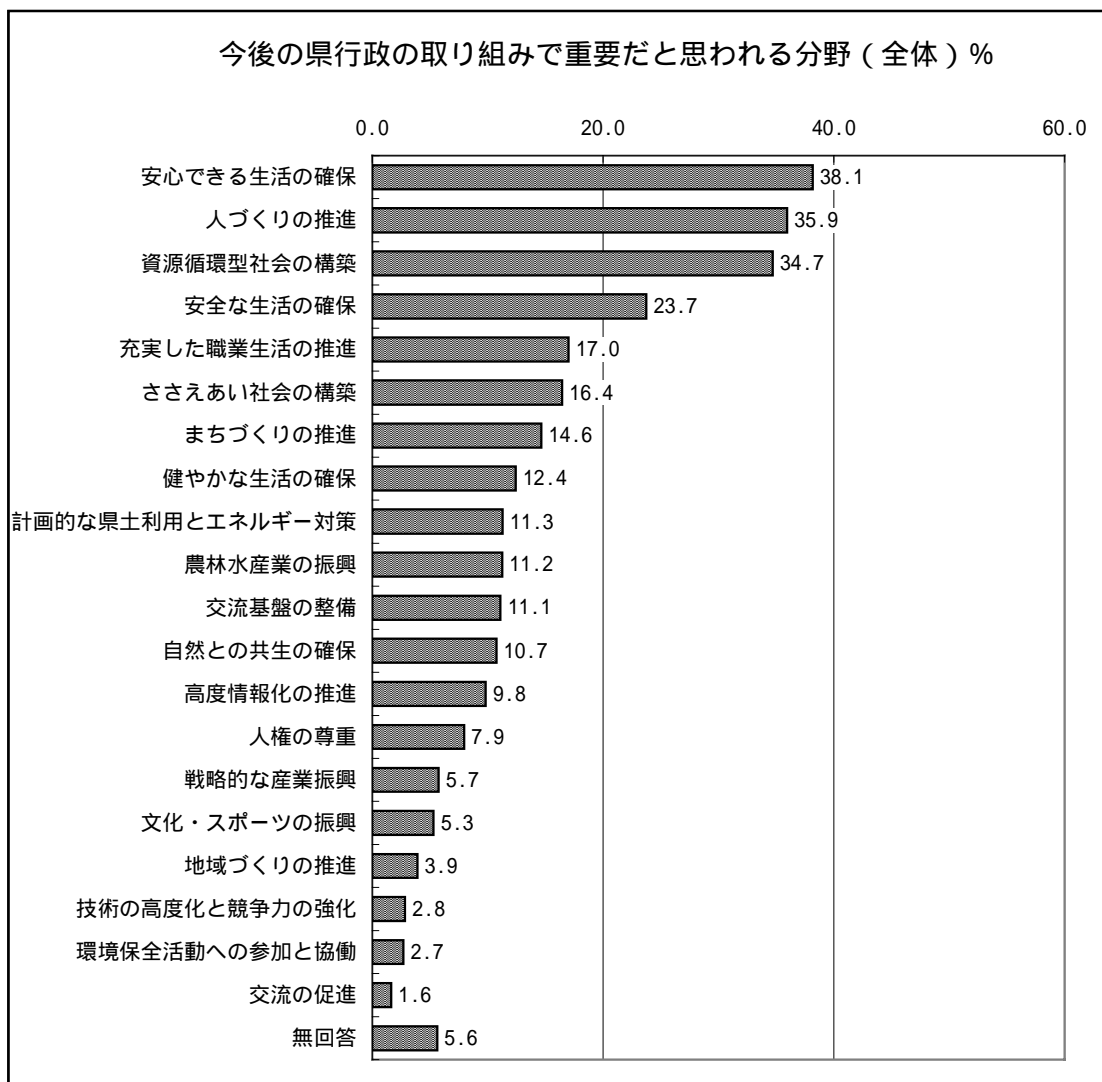
3. 今後の県政に関する質問

問3 県では総合計画「三重のくにづくり宣言」を実現していくために、県の行う主要な事業とその目標を示した実施計画を策定しています。

現在は、第一次実施計画の期間中(1997～2001 年度まで)ですが、現在、次の第二次実施計画(2002～2006 年度)の策定へ向け、準備を行っています。

つきましては、これからの第二次実施計画における県行政の取り組みに対して、どのような分野に特に力を入れていくべきだと思いますか。

(○は3つまで)



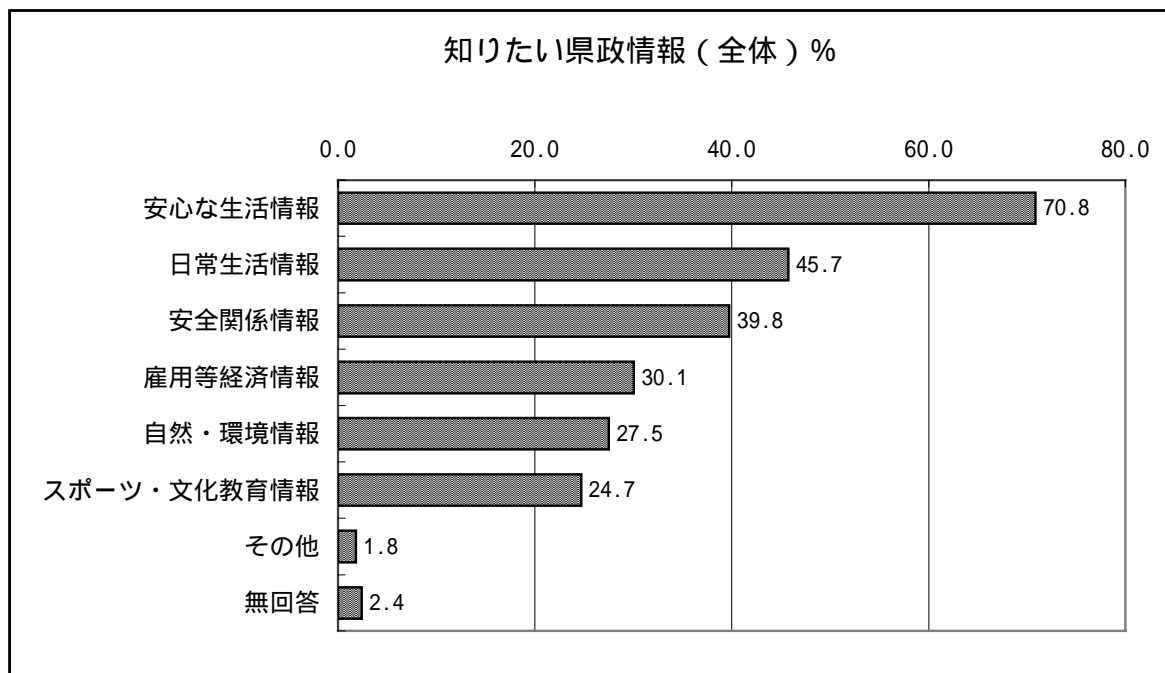
「安心できる生活の確保」(38.1%)「人づくりの推進」(35.9%)「資源循環型社会の構築」(34.7%)の割合が高い。次いで「安全な生活の確保」(23.7%)が高い。全体的に重要意識と類似の傾向にある。

4. 広報・広聴活動への関心

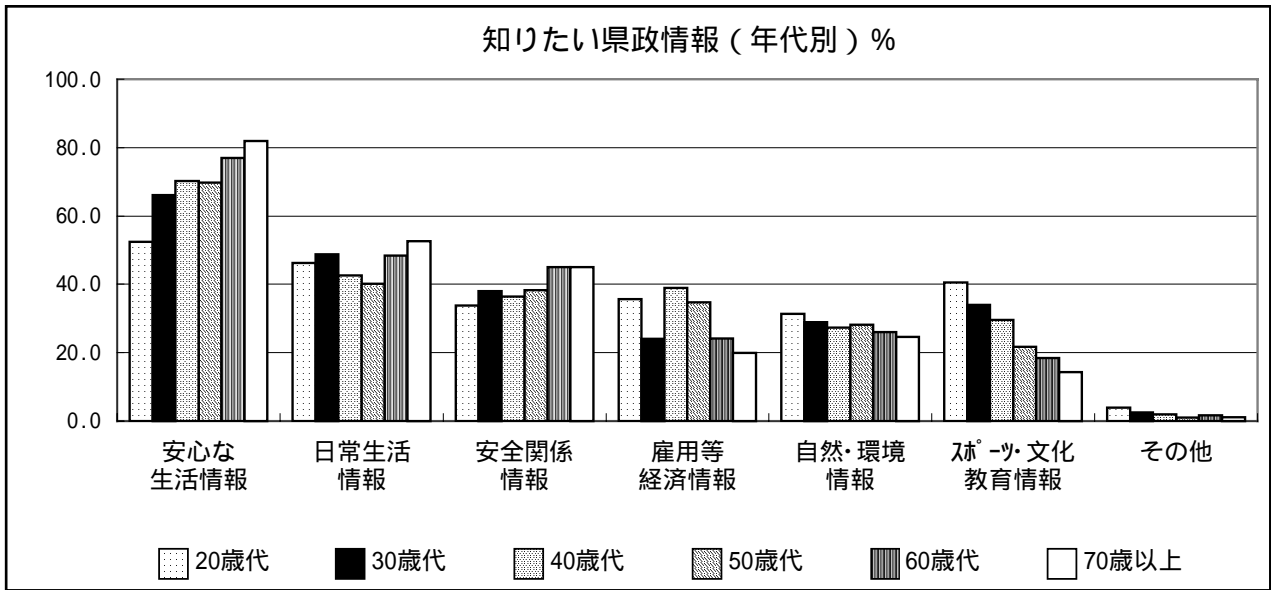
(4) 知りたい県政情報

問4 県が行っている事業や施策に関する情報で、あなたが知りたいと思うのはどのような情報ですか。
(複数回答)

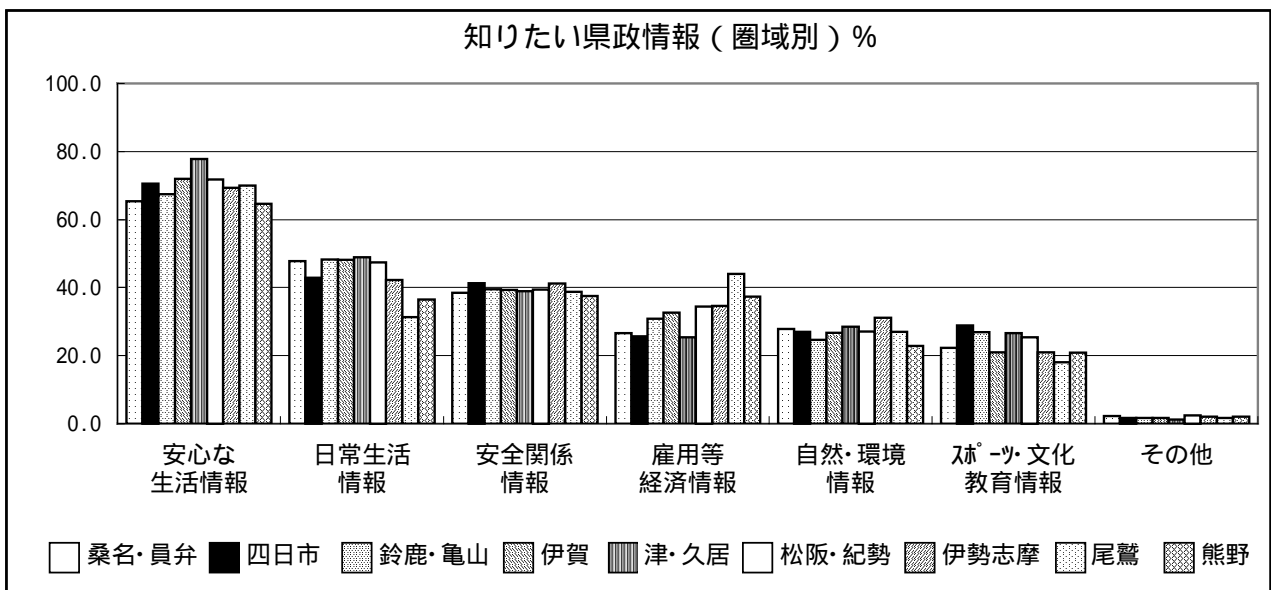
1. 日常生活情報(交通、電気、上下水道、買い物など)
2. 雇用等経済情報(物価、就職状況など)
3. 安全関係情報(治安、災害対策、交通安全など)
4. 安心な生活情報(福祉、保健、医療対策など)
5. 自然・環境情報(町並み、自然、環境)
6. スポーツ・文化教育情報(スポーツ、文化施設、各種講座など)
7. その他()



「安心な生活情報」(70.8%)が最も高く、次いで「日常生活情報」(45.7%)「安全関係情報」(39.8%)となっている。



「安心な生活情報」「安全関係情報」は、おおむね年代が上がるともに関心が高くなっている。反対に「スポーツ・文化教育情報」「自然・環境情報」は、年代が上がるともに関心が低くなっている。

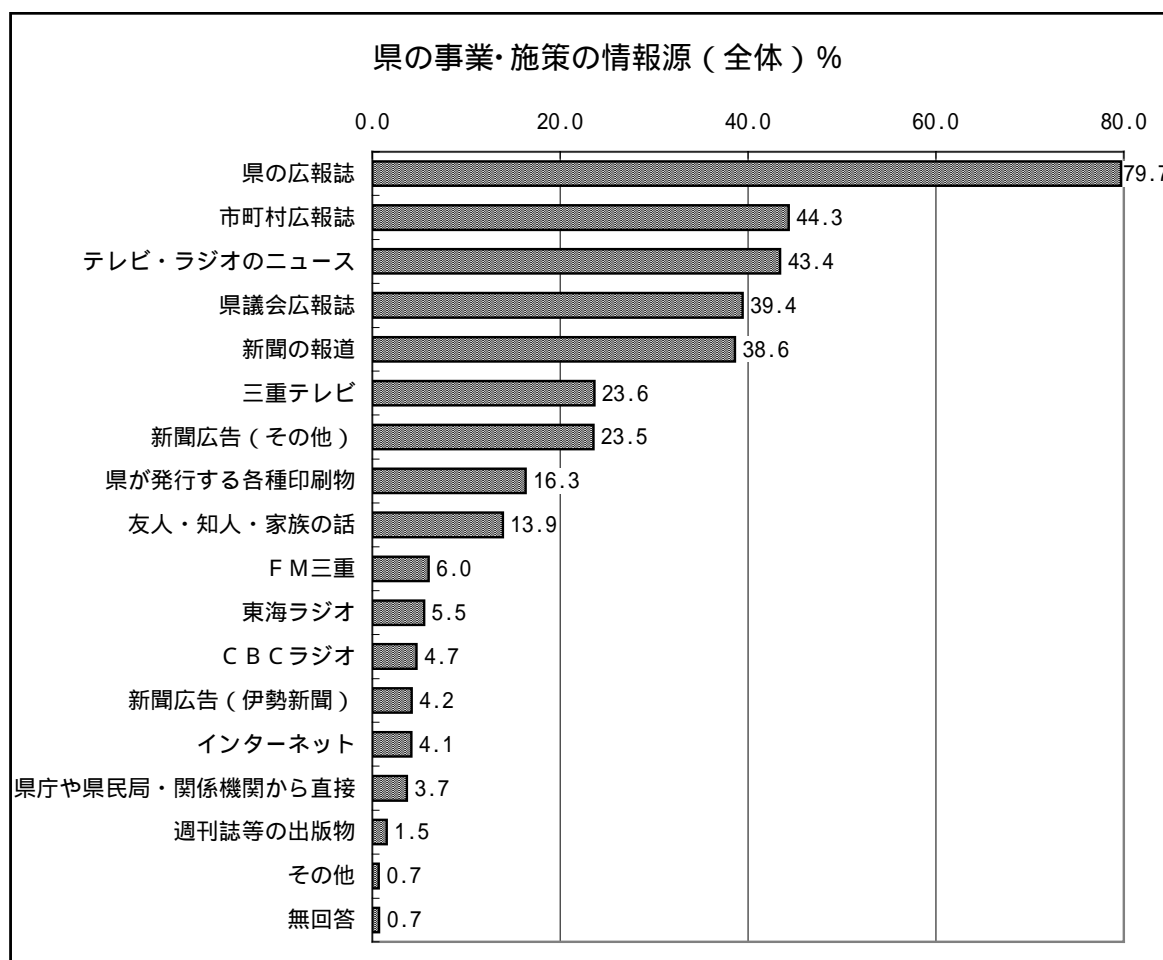


「雇用等経済情報」が県南部で高いほかは、あまり差がない。

(5) 県の事業・施策の情報源

問5 あなたは、県が行っている事業や施策について、どこから情報を得ていますか？ (複数回答)

- | | |
|-----------------------|--------------------------|
| 1. 県の広報誌「県政だより みえ」 | 2. 三重テレビ「県政ウォッチング」 |
| 3. FM三重「ミエ インフォメーション」 | 4. 東海ラジオ「こんにちは三重です」 |
| 5. CBCラジオ「こんにちは三重です」 | 6. インターネットによる三重県のホームページ |
| 7. 新聞広告(伊勢新聞) | 8. 新聞広告(その他) |
| 9. 県議会広報誌「みえ県議会だより」 | 10. 県が発行する各種印刷物(パンフレット等) |
| 11. 市町村広報誌 | 12. 新聞の報道 |
| 13. テレビ・ラジオのニュース | 14. 週刊誌等の出版物 |
| 15. 友人・知人・家族の話 | 16. 県庁や県民局、関係機関から直接 |
| 17. その他() | |



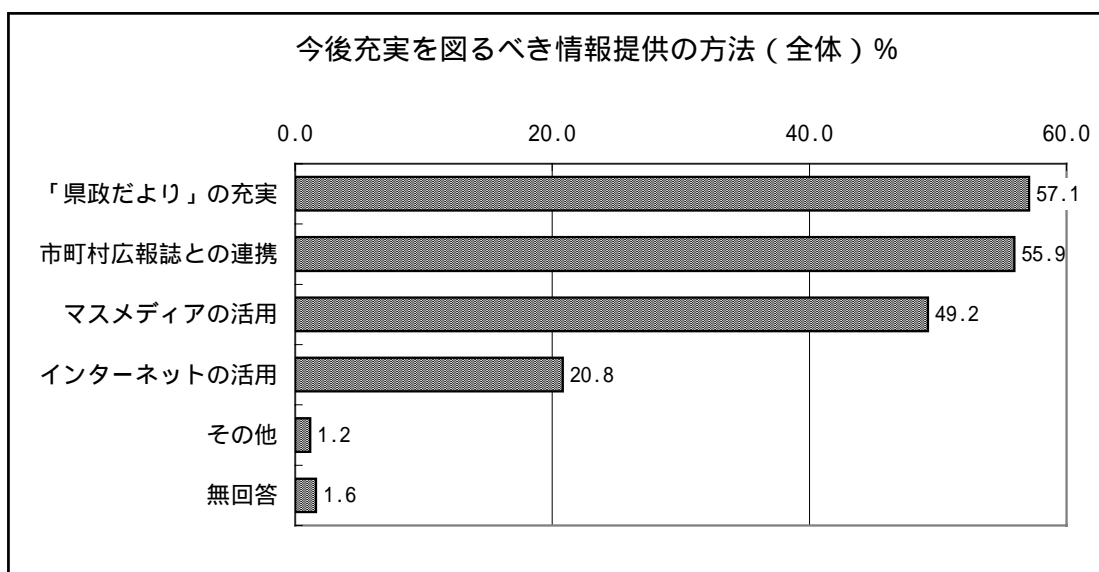
県の事業・施策の情報源は、「県の広報誌」(79.7%)が最も多い。

「市町村広報誌」「テレビ・ラジオのニュース」「県議会広報誌」「新聞の報道」が40%前後となっている。

(6) 今後充実を図るべき情報提供の方法

問6 今後充実を図るべき県の情報提供の方法はどのような方法がよいとお考えでしょうか？
次からお選びください。 (複数回答)

1. 「県政だより」の充実
2. インターネットの活用
3. 市町村広報誌との連携
4. 新聞やテレビ・ラジオなどマスメディアの活用
5. その他()

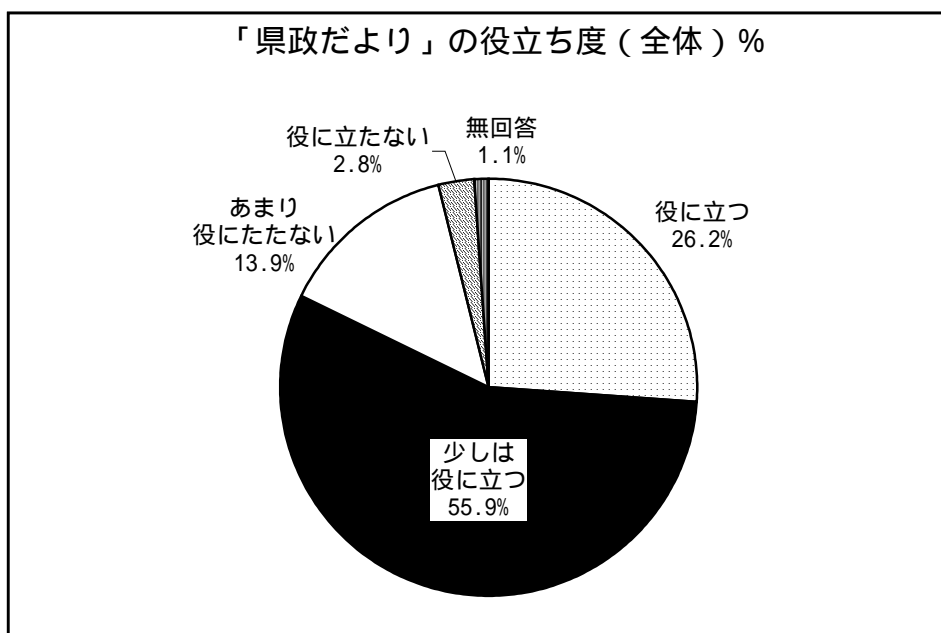


「県政だより」の充実 (57.1%)、市町村広報誌との連携 (55.9%)、マスメディアの活用 (49.2%) の順となっており、インターネットの活用は 20.8% となっている。

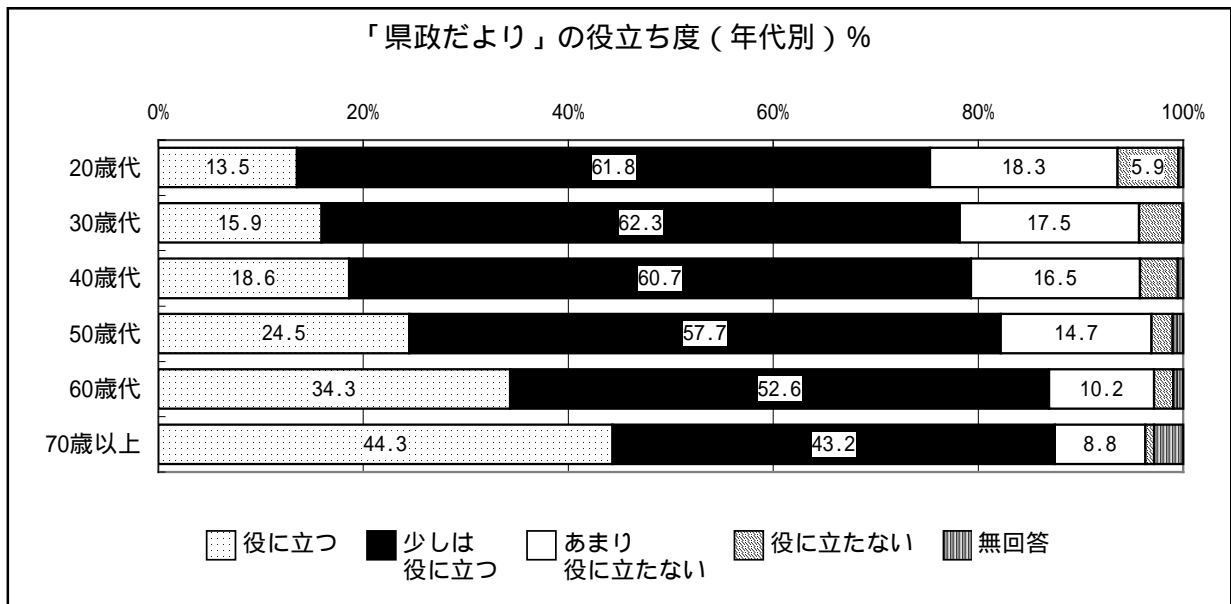
(7) 「県政だより」の役立ち度

問7 県政だよりは、どの程度役に立つと思いますか。

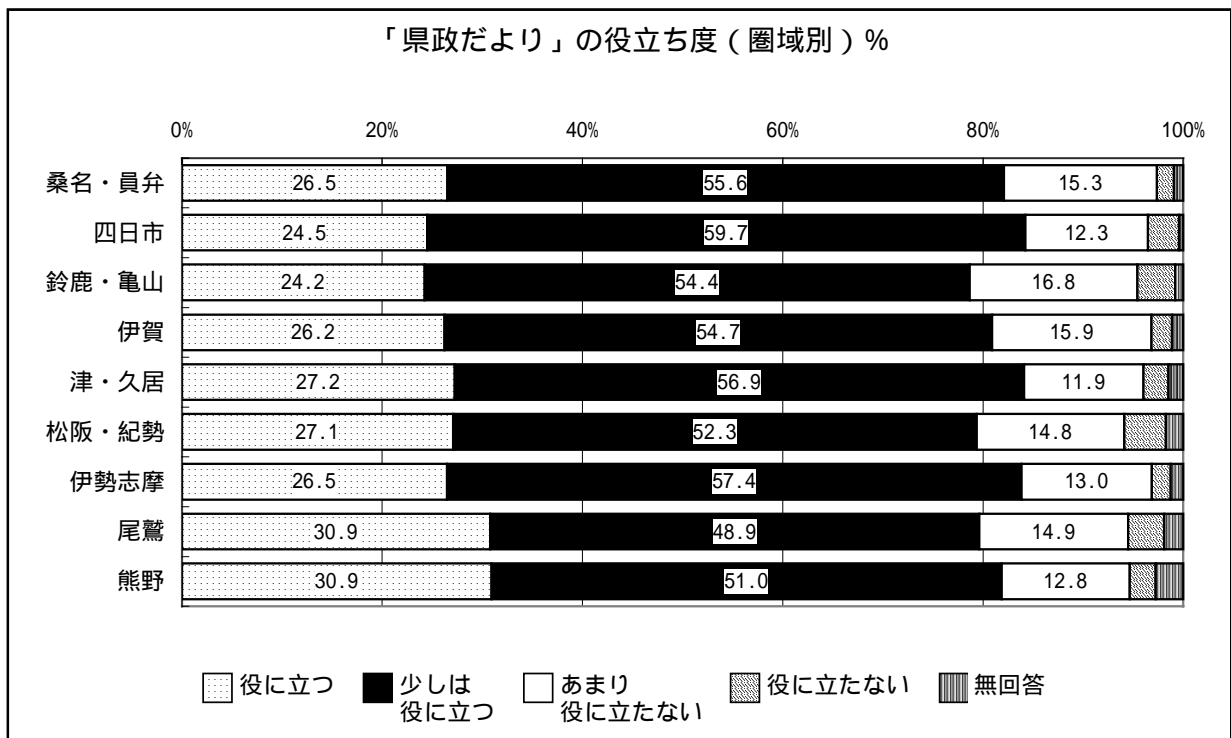
- 1 . 役に立つ
- 2 . 少しは役に立つ
- 3 . あまり役に立たない
- 4 . 役に立たない



「役に立つ」(26.2%)と「少しは役に立つ」(55.9%)を合わせると82.1%となっている。



「役に立つ」の回答率が年代が高くなるに従って高くなっており、70歳以上では44.3%となっている。

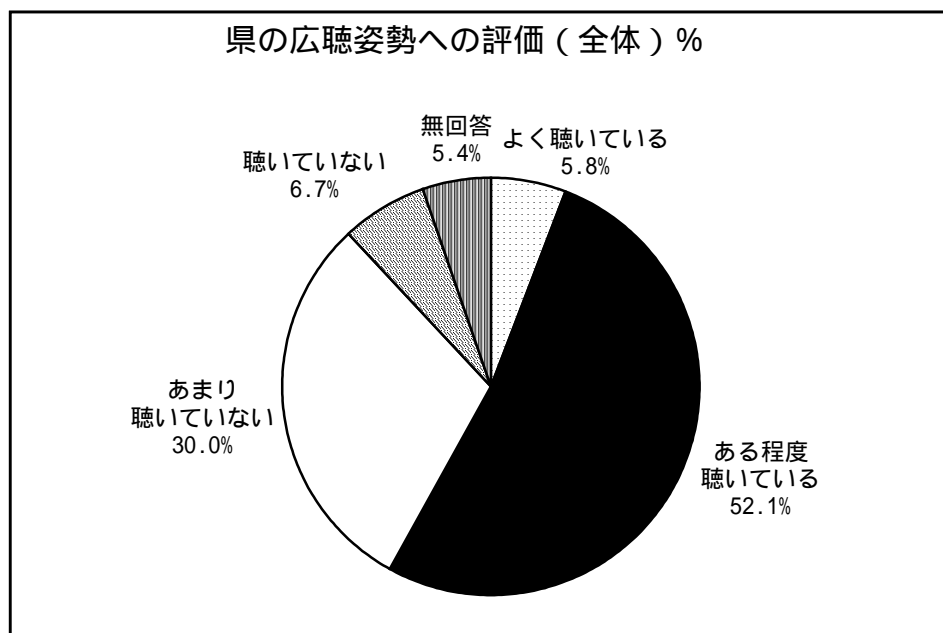


圏域別では、役立ち度に大きな差はない。

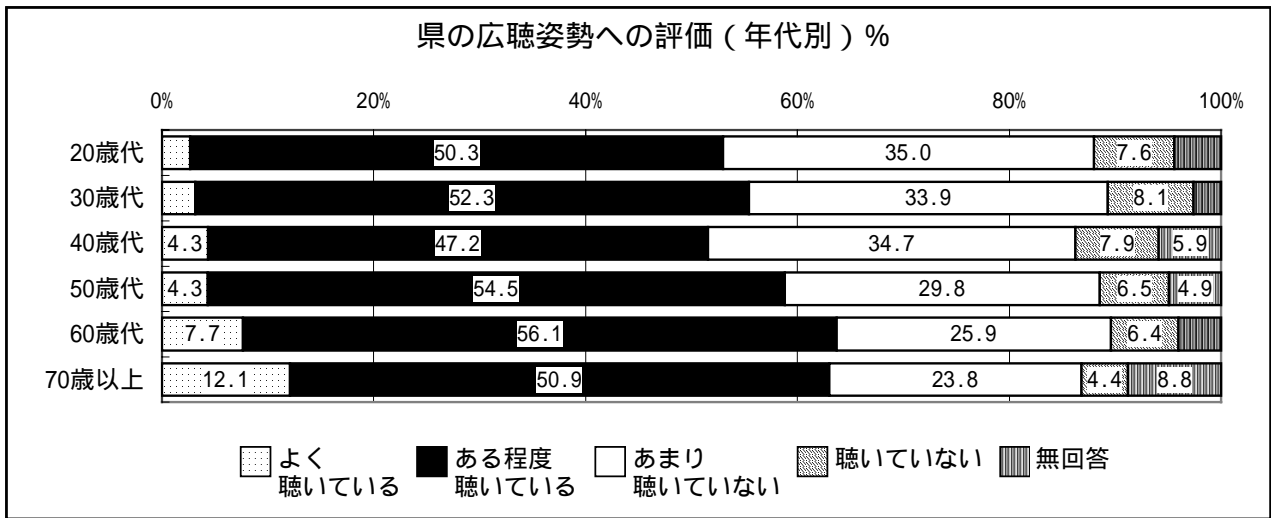
(8) 県の広聴姿勢への評価

問8 三重県では、事業の計画づくりやイベントの実施にあたって、県民の皆さんからご意見を募集するなど参加いただく機会を増やすよう努めていますが、このことについて、どのように評価されますか？

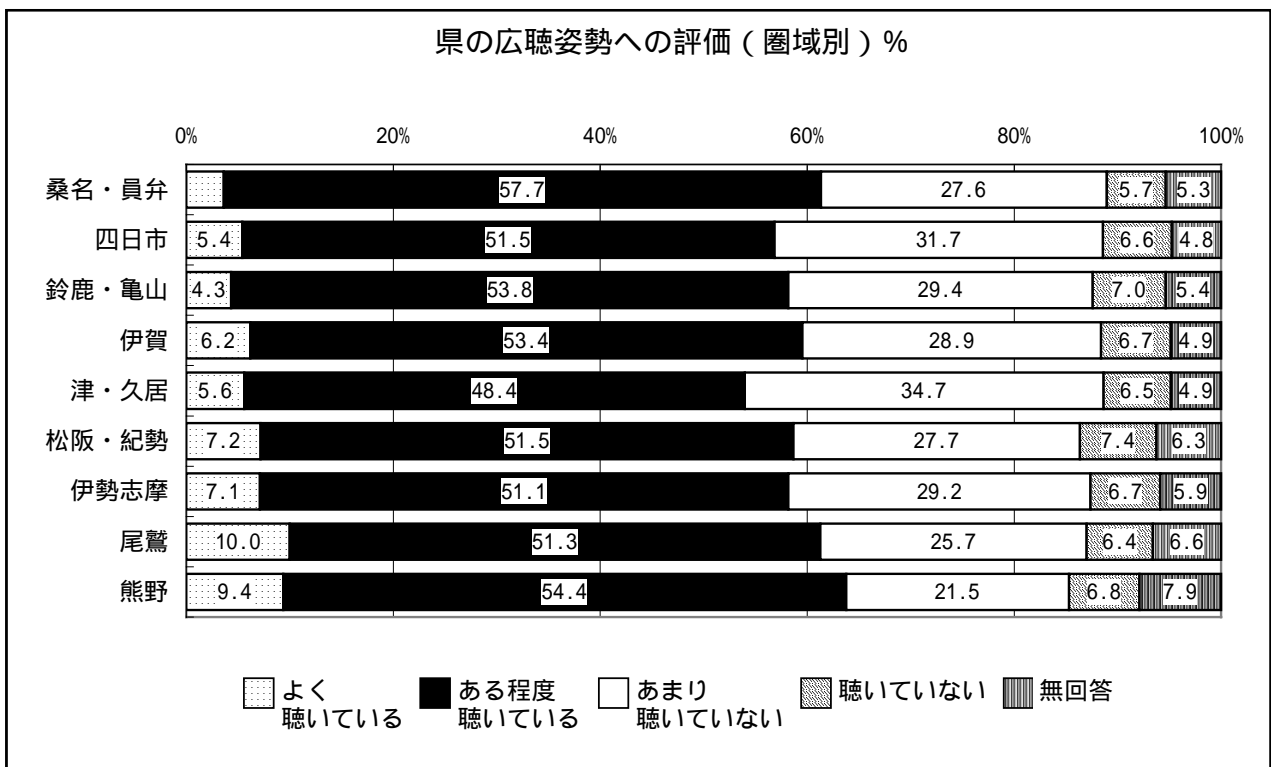
- 1．県は、よく聴いている
- 2．県は、ある程度聴いている
- 3．県は、あまり聴いていない
- 4．県は、聴いていない



「よく聴いている」(5.8%)、「ある程度聴いている」(52.1%)を合わせると 57.9%となり、県の広聴姿勢についてある程度評価されている。



「よく聴いている」「ある程度聴いている」を合わせた回答率は、いずれの年代も 50%以上であるが、特に 50 歳代以上の回答率が高い。

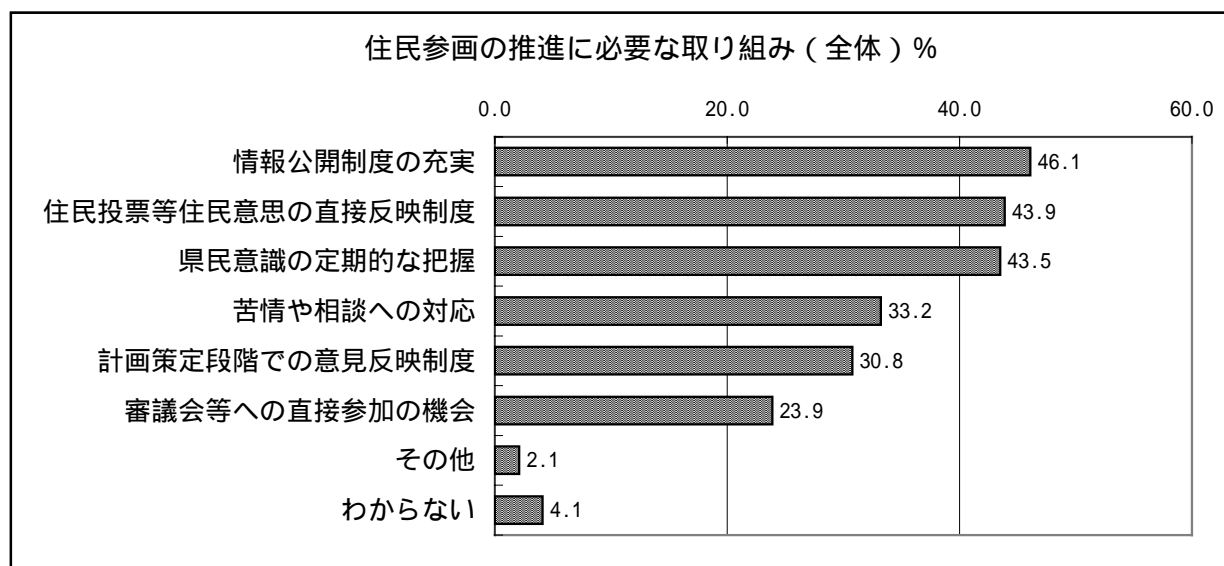


「聴いていない」「あまり聴いていない」を合わせた回答率は、津・久居（41.2%）が最も高くなっている。

(9) 住民参画の推進に必要な取り組み

問9 事業計画やイベントづくりについて、県民の皆さんの意見や要望をより一層県政に反映させていくためには、どのような取り組みが必要だと思いますか？ (複数回答)

1. 住民投票など住民の意思が直接反映される制度の充実
2. 計画策定段階での意見反映制度の充実
3. アンケート調査等による県民意識の定期的な把握
4. 審議会や委員会などへ県民が直接参加する機会の充実
5. 情報公開制度の充実
6. 苦情や相談への対応
7. その他()
8. わからない



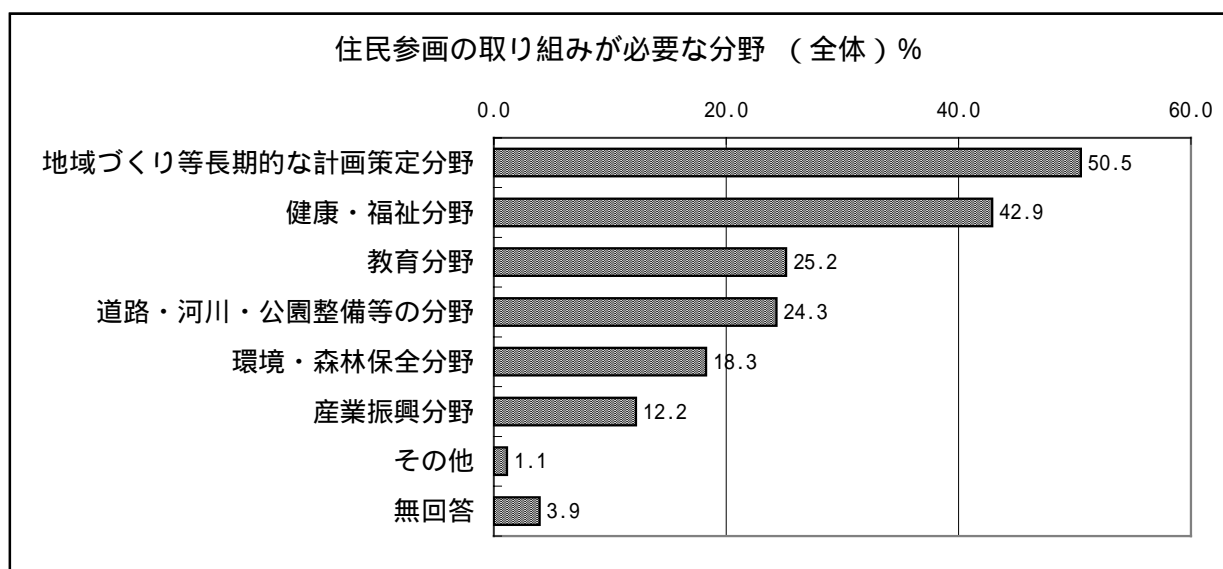
「情報公開制度の充実」(46.1%)、「住民投票等住民意思の直接反映制度」(43.9%)、「県民意識の定期的な把握」(43.5%)がともに回答が高く、次に「苦情や相談への対応」(33.2%)、「計画策定段階での意見反映制度」(30.8%)となっている。

(10) 住民参画の取り組みが必要な分野

問 10 特にどのような分野で問9の取り組みが必要だと思いますか？

(複数回答)

1. 地域づくり・まちづくりなど長期的な計画策定分野
2. 環境・森林保全分野
3. 健康・福祉分野
4. 道路・河川・公園整備等の分野
5. 教育分野
6. 産業振興分野
7. その他()



「地域づくり・まちづくりなど長期的な計画策定分野」が最も住民参画が必要な分野であると考えられており、次いで「健康・福祉分野」が高い割合となっている。

5. 各設問の「その他」回答での記入内容

問4、問5、問6、問9、問10、の各設問においては、「その他」の回答を選択した場合に具体的な内容の記入を求めた。これらについて、類似の内容をまとめると、以下のとおりであった。

問4. 「知りたい県情報」について

「その他」として回答のあった366件のうち、77件の書き込みがあった。

- ・県予算執行状況などについて（14件）
- ・教育や子育てにかかわる情報（14件）
- ・公共事業の計画および進捗状況について（11件）
- ・情報公開を求めるなど広報活動全般について（8件）
- ・介護保険や法律等の生活情報（7件）
- ・災害対策等の安全関係情報（6件）
- ・ゴミなどの環境問題や医療等の健康関連情報（4件）
- ・地域活性化など産業振興に関する情報（4件）
- ・特になし（3件）
- 他 6件

問5. 「県の事業・施策の情報源」

「その他」として回答のあった135件のうち、32件の書き込みがあった。

- ・その他のTV(CATV含む)（6件）
- ・知人等を通じて（4件）
- ・各種出版物（4件）
- ・議員（3件）
- ・興味ない、不明など（15件）

問6. 「今後充実を図るべき情報提供の方法」

「その他」として回答のあった320件のうち、50件の書き込みがあった。

- ・説明会の開催等を通じて職員から直接（8件）
- ・その他の広報誌の充実（9件）
- ・ケーブルテレビの活用（6件）
- ・街頭ポスターやチラシの活用（5件）
- ・県の出先機関の拡大や道の駅の活用など（4件）
- ・新聞やテレビの活用（4件）
- 他 14件

問9.「住民参加に必要な取り組み」

「その他」とした回答のあった418件のうち、98件の書き込みがあった。

- ・住民の声をよく聞くなど職員の意識改革が必要（14件）
- ・情報公開制度の充実など（13件）
- ・県民参加の委員会や懇談会の開催（13件）
- ・地方事務所の活用など地域での意見集約を図る（9件）
- ・目安箱の設置や公募の充実（8件）
- ・TVや新聞等のメディアの活用（7件）
- ・インターネットを活用した調査（5件）
- ・情報が伝わりやすくなるように県の体制の改革を行う（4件）
- ・相談窓口の充実（3件）
- 他 22件

問10.「住民参加が必要な分野」

「その他」として回答のあった215件のうち、53件の書き込みがあった。

- ・医療制度などの健康・福祉分野のもの（7件）
- ・自然保護やリサイクルなどの環境分野のもの（7件）
- ・子育てや教育に関わるもの（6件）
- ・下水道工事など生活基盤整備関連（5件）
- ・地域づくりやまちづくりなど長期計画分野のもの（5件）
- ・IT関連、漁業など産業振興分野のもの（4件）
- ・すべて必要（2件）
- ・わからない（7件）
- 他 10件